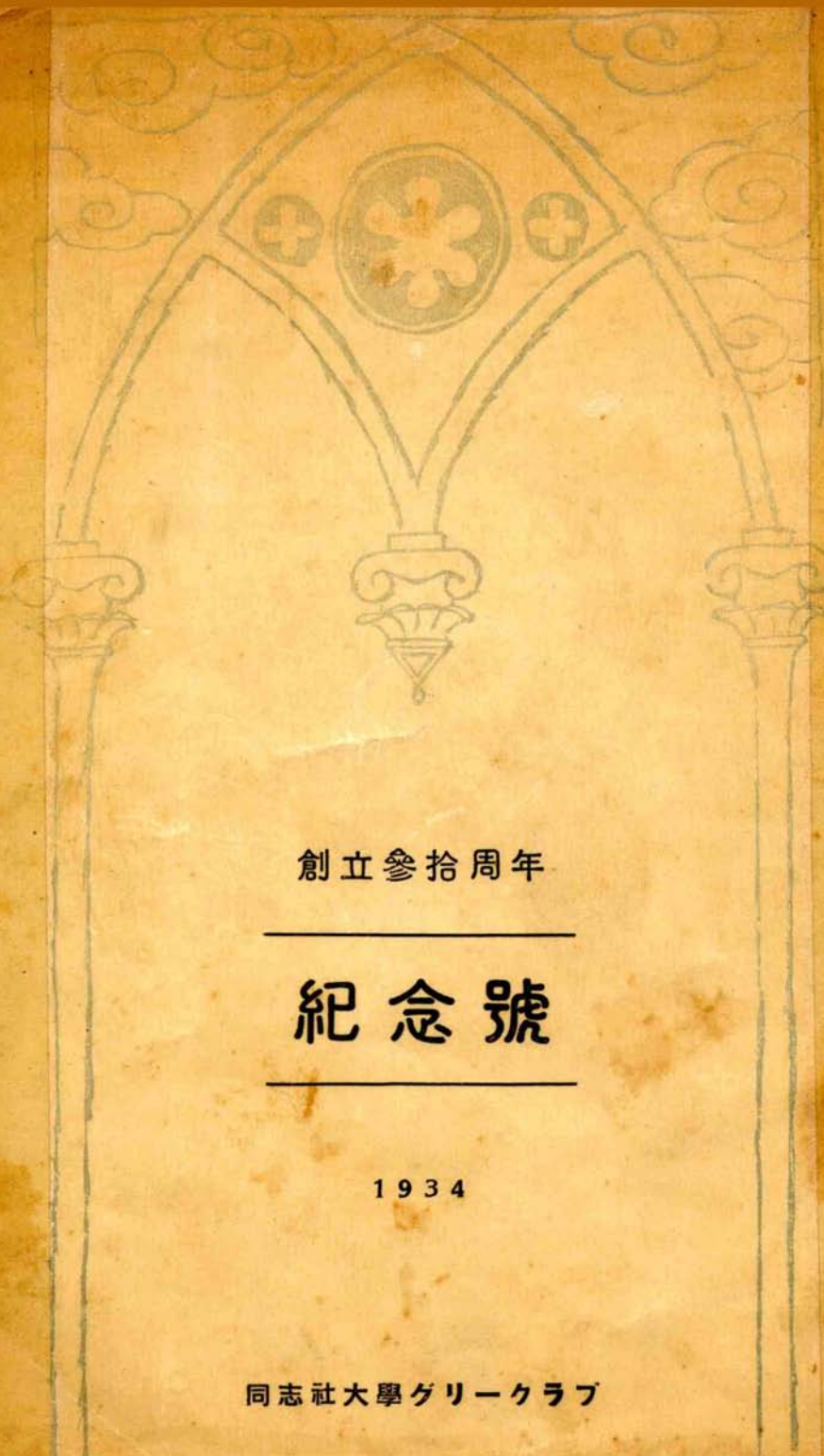




創立參拾周年

---

紀念號

---

1934

同志社大學グリークラブ



グリークラブの歌

一、東四明の朝日影

西に愛宕の夕づつを

仰ぎて祈り祈りては

歌ひ始めし歌の友

二、暮れぬ春日の福音に

清き生命の歡喜を

世の人々に燃すべき

御歌をともに歌はまし

三、人のためにといそしめば

父の御神も諸共に

働き給ふ樂しさを

感謝とともに歌はまし

四、天と地との調をば

整へ合はす歌聲は

學びの窓にいつまでも

朝な夕なに續けかし

紀  
念  
號



# グリークラブの歌

三輪 潔 創作歌

大 中 興 二 作 曲

1934年9月5日 歌



## 紀念号 目 次

表 紙

寫 眞

紀念号發刊に就て

三十週年を迎へて

グリークラブ三十年間の思出の二三

報告と希望

祝 辞

創立三十年を祝して

部員の重責を想ひ其健闘を祈る

同志社グリークラブ現部員諸子に寄する

我 友 に 與 ふ

グリークラブを祝ふ

想

思ひ出とバークレーより送られし片桐哲氏の書翰

樂しかりしグリークラブ

ジュニアとダビデ

明治四十年前

グリークラブの胎兒時代

|         |         |         |         |         |         |       |            |           |         |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|------------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 宮 本 光 夫 | 片 桐 哲 三 | 三 輪 花 影 | 湯 浅 永 年 | 和 田 琳 熊 | 淺 野 惠 二 | 長 井 齊 | 關西學院グリークラブ | 土 方 辰 三 郎 | 濱 田 光 雄 | 錦 織 貞 夫 | 大 中 寅 二 | 渡 部 守 成 | 速 水 藤 助 |
| 一       | 三       | 五       | 七       | 一〇      | 一       | 一三    | 一四         | 一四        | 一七      | 二一      | 二四      | 二六      | 二八      |



# グリークラブの歌

三輪素造作歌

大中實二作曲

1934年9月5日 創



|                              |           |   |     |
|------------------------------|-----------|---|-----|
| 同志社と音楽(明治四十年―四十四年).....      | 海老澤       | 亮 | 三〇  |
| 有史前のグリークラブ(明治四十四年―大正二年)..... | 平田        | 甫 | 三三  |
| 大正二年より大正七年まで.....            | 原忠        | 雄 | 三七  |
| 大正七年より同八年まで.....             | 蘭川        | 郎 | 四五  |
| グリークラブ第三歴史時代(大正八年―十二年).....  | 山口隆       | 俊 | 四六  |
| 大正十三年以降昭和九年まで.....           | グリークラブ記録簿 |   | 五六  |
| 心の故郷グリークラブ.....              | 中山村       | 正 | 七六  |
| 讃美禮拜.....                    | 山田基       | 男 | 七九  |
| 思ひ出すまゝ.....                  | 宇野勇       | 次 | 八〇  |
| ラヴェルの歌曲を唄った頃.....            | 安田        | 燾 | 八一  |
| 思ひ出.....                     | 水谷        | 央 | 八四  |
| 思ひ出.....                     | 荒井        | 清 | 八六  |
| 憶ひ出.....                     | 森本芳       | 雄 | 八九  |
| 沖縄演奏旅行記.....                 | 酒井美智      | 男 | 九五  |
| 同志社混聲合唱團東京演奏旅行記.....         | 荒井        | 清 | 九九  |
| 第五回滿鮮旅行記.....                | 海老澤宣道     |   | 一〇二 |
| 臺灣演奏旅行日記.....                |           |   | 一〇四 |
| 創立三十週年紀念事業報告.....            |           |   | 一〇八 |
| グリークラブ現狀報告.....              |           |   | 一一〇 |
| グリークラブ會則.....                |           |   | 一一四 |
| 編輯後記.....                    |           |   | 一二六 |



# 同志社大學グリークラブ

## 歴代指揮者名

|     |    |                   |
|-----|----|-------------------|
| 一片桐 | 哲  | (明治四十四年—<br>大正二年) |
| 一濱田 | 格  | (大正三年)            |
| 一平田 | 甫  | (大正四年—六年)         |
| 一水谷 | 央  | (大正七年—マデ)         |
| 一蘭川 | 四郎 | (大正七年—マデ)         |
| 一湯淺 | 永年 | (大正八年—九年)         |
| 一山口 | 隆俊 | (大正十年—十一年)        |

|     |     |                  |
|-----|-----|------------------|
| 一三輪 | 雅夫  | (大正十二年—マデ)       |
| 一森本 | 芳雄  | (大正十二年—十四年)      |
| 一山田 | 基男  | (大正十五年—<br>昭和五年) |
| 一岸田 | 治夫  | (昭和六年—七年)        |
| 一今西 | 善治郎 | (昭和八年)           |
| 一太田 | 三郎  | (昭和九年)           |



創立三拾周年紀念音樂會

昭和九年十月十三日 於 榮 光 館



(上) 明治四十五年

グリークラブ、カルテット

向つて左より

錦織貞夫、濱田格、平田甫、岩村清四郎

(中) 大正三年 タウナー、カルテット

向つて左より

錦織貞夫、原忠雄、平田甫、濱田光雄



(下) 大正三年 グリークラブ部員





**滿鮮演奏旅行**

大正六年夏

**京都同志社大學 グリークラブ**

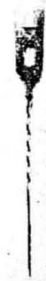
|                                      |        |
|--------------------------------------|--------|
| フ<br>ア<br>ー<br>ス<br>ト<br>テ<br>ナ<br>ー | 山<br>下 |
| セ<br>カ<br>ン<br>ド<br>テ<br>ナ<br>ー      | 原<br>忠 |
| サ<br>ー<br>ス<br>ト<br>テ<br>ナ<br>ー      | 平<br>田 |
| セ<br>カ<br>ン<br>ド<br>テ<br>ナ<br>ー      | 小<br>島 |
| サ<br>ー<br>ス<br>ト<br>テ<br>ナ<br>ー      | 大<br>中 |
| サ<br>ー<br>ス<br>ト<br>テ<br>ナ<br>ー      | 内<br>清 |

大正六年 第一回滿鮮演奏旅行紀念名刺

W. G. & S. CO. LTD. LONDON



★ 部員章の變遷





大正十二年 台灣演奏旅行於台北



大正十一年 勃海、舊滬一團演奏旅行於天津





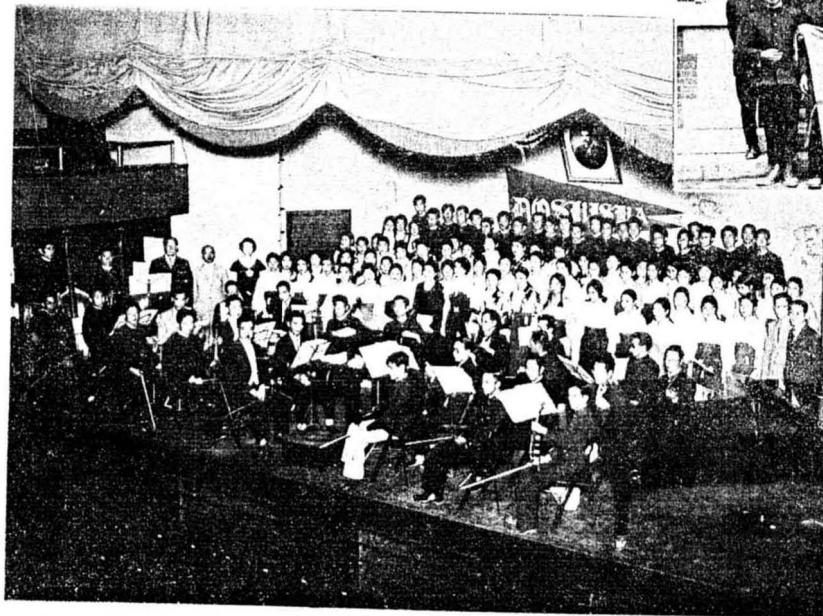
大正七年三月 卒業式に於て



昭和五年 第二回台灣演奏旅行



昭和四年四月 沖縄演奏旅行



昭和八年六月 同志社宗教協會第二回定期演奏會 於 榮 光 館



大正十三年 グリークラブ部員

## 記念號發行に就て

グリークラブ、マネージャー

宮 本 光 夫



長き歴史と光輝ある傳統を有する我グリークラブが本年其の卅週年の創立紀念會をこゝに持つ事が出来た事は誠に欣幸に堪はない次第で、又此の光榮あるクラブに籍を置き及ばずながら此の紀念會の爲奉仕をする機會を持つた我々現クラブ員は誠に恵まれた者として感謝せざるを得ません。

本年四月以來種々計劃を建てこれが最も有意義な紀念會をなし度く考慮の上此の紀念號發行、紀念音樂會開催と云ふ事になりました。

もとより我々の力足らず思及ばすこれが爲多數の先輩諸兄より御懇篤なる御指導を賜りこゝに完成する事が出来た事を深く感謝する次第であります。

三十年と云へば長い様でもあり又一方遠き將來を思へばこれが基礎工事をなしてくれたとも考へられます。然し其の何れにせよ此の号の中に書かれた貴重なる記録を通じて今日のグリークラブが建設された事を思ふとき、誠に感謝と尊敬の念を禁じ得ない有様で幸にこゝに完成された記念號が現在否將來のクラブ發展の中心になり又よき指針とな

ればこれに過ぐる喜びは御座いません。

此の一小冊子を先輩諸兄に獻じ又廣く江湖に御紹介出來た事を重ねて感謝致してゐる次第であります。

終りに此の編輯事業の爲専任して下さつた古谷三郎君並びそれを補助されし役員の勞を衷心より謝してこれを以つて序文に代える次第であります。

昭和九年十月十三日

# 三拾週年を迎へて

同志社女子専門學校長

片

桐

哲

『荒地とうるほひなき地とはたのしみ

沙漠はよろこびて番紅の花の如くに咲きかゞやかん』

目覺ましき進歩を遂げつゝある今日の合唱界を眺めつゝ我グリークラブ創立當時を回顧すると轉た今昔の感に堪へない。當時の我國の音樂界は甚だ幼稚なものであつて「日本民族は到底音樂的才能なき種族なり」と自他共に許し合つて居た程貧弱な時代であつた。而して我同志社學園に於ても當時は社運の甚だしく衰退して居つた時代であり、亦最も非音樂的雰圍氣に包まれて居つた時代であつた。今日より觀ると音樂的には恰も沙漠の如き感じのする時代であつた。その荒涼さを顧ると思ひ半に過ぎるものがある。我グリークラブは實に斯る環境の下に孤々の聲を揚げたのであつた。其のかよわき雙肩には潤ひなき荒地を更へて美はしき花園となすべき尊くも困難なる使命を擔ひつゝ。

其後幾多の有爲なる後繼者の輩出に依つて絢爛たる花園を展開されて來たのであるが、今芽出度き紀念會を迎ふるに當つて此の輝かしき三十年間のグリークラブの歴史を回顧すれば勞頭に掲げしイザヤ書の豫言の言葉を文字通り讀む心地がせられて言ひ知れぬ感激を覺えずには居られないのである。是と同時に荒地の開墾、地均等の困難なる開拓に参加されて今日の素地を造つて呉れた、言はゞグリークラブの産婆役を務めて呉れた創業時代の大先輩達に對して心からなる敬意と感謝の眞を表さずには居られない。

明治三十七、八年の日露戦争の前後より各地方の教會に於て宣教師達の指導の下に信仰心と共に讚美歌を通しての音樂的教養を興へられたる青年達が同志社學園に集りつゝあつたのである。北海道札幌よりはローラント師に訓練された渡部守成氏、後に海老澤亮氏、東北の仙台よりはデフォレスト夫人に教育されし速水藤助氏、名古屋よりは美普派の宣教師に仕込まれし境野周次郎氏、近藤優氏、並に長谷川直吉氏等、神戸よりは千谷清之助氏、横田雄三氏等、北陸よりの西宣立氏、或は東京よりの伊庭孝氏等が其の主なるものであつた。其の中でも聲量豊かなるバス聲の渡部守成氏が最も光つて居つた。此等の音樂青年達の多くは學内よりは主として市内の教會に於て讚美歌の獨唱に、合唱に活躍したのであるが其の感化は漸次學内に波及しつゝあつた。此等の人々の醸し出した音樂的氛圍氣中に堀内清氏穂永氏、或は宇野重孝氏、遠山重雄氏等が進出しつゝあつたのである。此等の先輩達は直接グリークラブの創立には與らなかつたけれども、間接に其の準備に参加されたる恩人として永久に記憶さるべき人々である。

之と同時に深甚なる敬意を表さねばならぬ恩師は大阪駐在の宣教師オルテン師であつた。

其の男聲合唱音樂の發達に對する努力と貢獻とは實に大いなるものと言はねばならない。

學内に於てはダニング師夫人、グローバー夫妻、器樂のカープ教授等の誘導と援助とは大きいものであつた。而して創立當時より今日に到る迄終始變らぬ溫情と深き理解とを以て絶えず支援し激勵しつゝ其の進歩發展の跡を見守りつゝ居らるゝ二大恩師がある。三輪花影先生とカープ博士である。此の慶ばしき記念式を迎ふるに當つて兩恩師に對して最大の敬意を表して其の健勝の程を衷心より祈らざるを得ないのである。

私には創立以後の輝しき歴史に對して筆とる資格はない。それは他の方々に譲らなければならない。只だ創立前のクラブの恩人達の芳名を茲に擧げて其の隠れたる功績に對して感謝の微衷を表するに止める。三十年の輝ける歴史を持つクラブの男聲合唱界に占むる地位は高い。多くの聲樂家、音樂評論家を社會に送つて我國の音樂界に對する貢獻も

大きいものである。私は更に來る可き三十年間に於ける我クラブの躍進こそ衷心からの希ひであり祈りである。愛するグリークラブよ永久に多幸なれ。アーメン。

## グリークラブ三十年間の思出の二三

同志社女子専門學校教授 三 輪 花 影

眞面目な學生間には、まだ清教的な氣風が残つて居り、東洋流の豪傑風も、なほどこかに潜んでゐた。明治四十年頃の我が同志社は決して音楽を培養するに適した肥饒地ではなかつた。前者の感情からいへば讚美歌を藝術的に取扱ふのは一種の冒瀆であり、後者の眼からは氣障であり、生意氣であると思はれたのである。其の上不良な學生も多少は残つてゐたのであるから聖歌隊などを創めようとなれば、勢ひ彌次られたり、冷笑されたりするのは覺悟のまへでなければならなかつた。それを押切つてやり通すには一方ならぬ勇氣と忍耐とが必要であつた。さういふ雰圍氣の裡に、今日のグリークラブの基礎を据ゑた先輩諸君の意氣と奮闘振りとは、私の決して忘れ得ぬところである。いつも練習を始める前にも必ず祈禱會を開いてゐた程で、その眞剣な態度は實に尊いものがあつた。

創始者の中には、兵庫教會の牧師長谷川直吉君、我女專校長の片桐君それから今は實業界に活躍してゐる宇野重孝君などがあつた。

グリークラブといふ名はいつ出來たのか、はつきりと記憶に浮んで來ないが、多分當初からあつたものでは無からうと思はれる。グリークラブを思ふ毎に私の心に必ず浮ぶ事が二つある。



その一つは安部清藏君が同志社教會の牧師をしてゐた時で、二人で話合つて毎日曜の禮拜に、混聲の讚美歌合唱を創めようと云ふ計畫であつた。當時のグリーは人員も多かつたし、技巧も聲量もよく揃つてゐたところへ、女學校のミリアム・クワイアがまた仲々立派になつてゐたものだから、絶好の機會と考へたので、安部君から總長へ相談したところが、意外にも世間に對してどうかといふ遠慮が理由で承諾を獲られなかつた。最早市内の教會では實行してゐる所もあるのにと息巻いて見たがはじまらないので、時節を待つほかないと諦めてしまつた。原忠雄君や濱田光雄君、錦織貞夫君、それから山下匡君、小島應君、平田甫君などがメンバーの中堅で、ミリアムの方にも原君の妹さん（濱田夫人）や、長田さん（谷川夫人）など、それに大塚君の妹さんや、亡くなつた御牧さんなどもゐたやうに覺えてゐるあゝいふ理由で混聲コーラスが校内で成立しなかつたと思へば眞に今昔の感に堪へぬ次第である。

もう一つはプリムローズソサイチーの成立である。これはかねてグリーのメンバーの間に、聖歌隊としてどこまでも宗教本意にやらうといふ人達と、もつと廣い自由な合唱團として、寧ろ藝術本意でいかうといふ人達と、互に意見の相異が感じられて來て、遂に分離の相談が持ち上つたのである。そこで原君と川中君、それに柳島君に濱田君とか平田君とか何んでも都合四人であつたと思ふが、それに私が加はつて、當時私の住つてゐた相國寺東門前町の宅で、一夜集つて相談したもの、どうしても妥協が出來ずに結局別れる事になつてしまつた。

第一回の『歌の夕』は何年の何月であつたか記憶が甚だ覺束ないが、故福原勤之君や徳江淳之助君、それから湯淺永年君などもゐたやうだから、大正八九年の頃であつたらう。オルガニストは大中寅二君であつたと思ふし、私が開會の祈禱を仰せつかつたやうに思つてゐる。開會直前に香を燒き、堂内の電燈を一切消してしまつて、部員各自が蠟燭を携へて登壇した時から、己に莊嚴の氣が身にしむやうで、其夜の印象は終生消えないと思ふ。プログラムは細長い黒色の用紙にゴデク式の寺院の窓枠を縁として、文字も總べて金色に印刷してあつたやうに覺えてゐる。

以上の事實に若し誤があるならば、それはすべて私の記憶の錯誤であるから赦して頂きたい。昭和九、八、二五

# 報告と希望

日本音樂學校教授 湯 淺 永 年

私がクラブに加入したのは平田甫君が指揮者の時であつた。平田時代は確かに黄金時代であつたと思ふ。しかし其の後繼として樂理に優れた水谷央君が神戸から表はれたので安心してゐたが、暫時で水谷君病み、臨時に藺川四郎君が指揮棒を振つたが水谷君いよ／＼歸校出來すと云ふので大正八年四月から私が野球部を退いて専心クラブの指導をすることになつた。運動と音樂が仲が悪いのではない。むしろ當時は運動選手を兼ねる者がクラブには多くゐた。

平田時代の後斯様に多少の混亂が生じたので明かに衰微の傾向が有つた。同時にそれ迄クラブは神學生中心で有つたのが段々神學生が出て來なくなつて内容が變化して來た。この衰微を喰ひ止め、新しく内容を作り出すのが私の役目で有つた。幸に時恰も學校の擴大時期で、他の學部生はどん／＼増加して來たので、其の中から個人的に音樂を修めてゐる者が次々と得られ、且つ大中寅二君の養成になる中學部出身者が加つて盛返ることが出來た。器樂の素養のある者を參謀として得られる様に成つた事は、前時代に較べて一進歩だつたと思ふ。陳清忠君のオルガンとピアノ田島光三君のヴァイオリン、山口隆俊君のマンドリン、小北(古内)武廣君の口笛と云ふ變つたものまで得られた。ピアノリスト宅孝二君も大學豫科に在學して我々を援けた。

しかしながら私自身には聲樂も器樂も何の素養もなかつたのであるが、唯一の武器は英文科に居たお蔭で英語が讀

み得る事であつた。そこで手當り次第音楽に關する英書を読み始めたのである。當時厨川白村氏教へ有島氏來講して文學熱は高潮に達してゐたが私の心を動かさない。もう音楽が私を捕へて居たからである。文學の様な廻りくどい藝術では満足出来ない。園教授が美術を以て一段高い藝術味を加へて呉れたが、私には進んで音楽が解り出してゐた。此れが今日私を音樂學の方面へ向はせて居るのであつて、つまり音楽としてはどん底の樂曲を取扱つて居たのではあるが、藝術の本質的特性の上で、グリークラブが私に學校の課業以上の物を呉れたのであつた。

幸運なことには當時の我が樂界が成金氣分でエルマンを呼び、シューマン・ハインクを招き、又革命のために多數の優れたロシア樂人の來朝を受け入れたのである。グリークラブの爲めの必要から音樂書を亂讀して音樂藝術論に多少準備の出來てゐた私には、之等の樂人の齎らした名曲が猫に小判ではなかつた。有島氏の文學論以上の藝術品であり又藝術的演奏であつたことは確かである。それ迄の邦人の演奏會ではショパンのノクターン一曲でさへ満足に聴かれなかつたのに、ロシア歌劇團の再度の來朝でオペラと云ふ物の評價も大體見極めがつく程になつた。山田耕作氏も相當活躍したものであつて、ドビュッシーやワグナーの樂劇を上演し我々も合唱に加はり、近衛子の指揮で唱つた様な奇縁もある。

世間の此の波に私を乗せたのがグリークラブであり、文學を棄てゝ置いて、卒業の年に「ロシア音樂小史」の大膽な翻譯を出版させる程迄に、音樂研究を専心にさせて呉れた同志社の空氣に私は感謝する。此の空氣に基く學内の音樂的活動が、私の前後にも將來音樂を志す者を多く生んだのである。あまりに具体的だが、大田黑養二君が同志社に入學したのは、我々の熊本に於ける演奏の結果だと云ふ告白である。

さて現在並に將來のグリークラブの進路に就て申して置きたい。學園内の音樂的活動の源泉としてクラブの成すべき仕事は決して私の例の様に部員の中から將來音樂家になる者を生む事ではない。そんな事は副産物でよい。又素人

の演奏技術を發達させる事が目的であつてはならない。最大の目的が演奏する部員も聴手である他の學生もすべてが現在の學生生活並に將來の社會生活を通じて、樂界の最高標準の樂曲を鑑賞し得る。良き聴き手となる事で有つて戴きたい。音樂研究學課の備つて居ない大學では、特にグリーククラブが音樂研究の中心とならなければならぬ。グリーククラブの本場の米國では、音樂學校の所有する大學のグリーククラブは、單に素人のエンヂョイドメントとしての曲目ばかり唱つてゐるが、ユールやハーヴァードの様な大學では、グリーククラブがボストン・オーケストラと共に來てストラヴィンスキーのオラトリオ「エディパス王」のニューヨーク初演をやつたのを聴た事が有る。其他有名な作曲家が之等グリーククラブの爲に特に男性合唱曲を作る事がしばしばある。之は勿論クラブの技術的標準の高い爲ではあるが、同志社の様な大學のグリーククラブの活動も此の方面に目標を置くべきであると思ふ。従つて部員は、専門家から技術的訓練を受けると共に演奏する曲目の撰擇にも藝術的標準を置き、學内の他の學生の鑑賞力を養成し得る様に努める可きであらう。又學外の音樂活動と連絡して關西地方の藝術機關となり得る。斯様にすれば部員が卒業後自ら唱ふ機會がなくなつても、在學中得た藝術的理解に依つて、良き聴き手として生涯を送り得る。従つて、グリーククラブの月日の活動の中には聲樂技術の練習ばかりでなく、合唱曲以外の樂曲の理解に役立つ様な研究會を持ち、此れには唱はない他の好樂學生も廣く加へて行ふと良いと思ふ。

創立三十年記念に當り、素人が單に唱ふ事を樂しみにするとした我々の時代から前進して、學内の音樂藝術研究團體とならん事を希望する。大學の課目として音樂は所有されて居なくても、學生が自力で之を研究する事を喜ぶ空氣は、昔から同志社に有つた。學校から押し附けたり、要求したりする學課は余り役には立たない。大學は學生が要求して自から學ぶものにあらゆる便宜を提供すれば良いのである。同志社では之が出来る。少なくとも同志社が私の勉強を妨げなかつた事實だけの爲にも、私は同志社を愛する。

## 祝 辭

一〇

### 創立參拾年を祝して

同志社大學長事務取扱 和田 琳 熊

人格を形成する上に於て音楽が、殊に宗教音楽が如何に大切な役割を演ずるかは今更ら言ふ迄もない。宗教畫なしには基督教は人の生命の中に基督を生かす事が、實際よりも遙かに少かつたであらう様に、否夫れ以上に宗教音楽なしには基督教は其生活内容の豊富さに於て實際よりも著しく制限された事であらう。宗教音楽は單に個人に於ける心の調和、或は人と人との調和ばかりでなく、人と神との調和を結果さす事に依て、最深の意義に於ける社會人としての人格に最も基本的な要素を提供する。故に苟くも宗教的建設への努力のある處には、宗教音楽は大に振はなければならぬ。三十年の昔、同志社學園に宗教音楽の開拓を目指してグリークラブが誕生した事は櫻の木に櫻の花が咲いた程、自然な事であり、相應しい事である。爾來グリークラブは其の使命に向つて猛進し、對內的にも對外的にも同志社のアトモスフィアを造る事に相當の貢獻をなした事を疑はない。

近代日本に於ける音楽及び音楽趣味の發達は驚異に値する。三四十年前に於ける我國の音楽界のレベルを知つて居

る者は今日の我が國に於ける音樂の發達を見て全く隔世の感が有るであらう。同様な事が同志社の音樂に就ても言へると思ふ。如何にも技巧の點に於ては練習時間及び其期間の上に著しい制限があるために、其の可能性を充分に發揮さす事の出来ない怨は有るであらうが、少くともメンバーの音樂的素質の改善と同志社全般の音樂的趣味の向上に依て、宗教樂園としてのグリーククラブが恵まれて居る事を信するものである。

私はグリーククラブが創立以來、幾同其のメンバーを變へても傳統的熱心に何等の弛緩なく、過去三十年の歴史を造り得た事に對し、尊敬と祝賀の意を表し、其の前途に神の祝福を祈るものである。

## 部員の重責を想ひ其健闘を祈る

同志社大學庶務課長

淺

野

惠

一一

私は往年同志社學園に、グリーククラブもブリムローズクラブも、未だ生れ出でなかつた時代、——多分速水教授が胎兒時代と名付けて居られる時代でせう。——其頃に女學校の先生英國人ミス・レッグなどから、毎日曜日に同志社教會の禮拜後、三十分乃至一時間位、特に讚美歌の練習をして頂いた一人であります。

當時の同志社ッ兒は、粗野を以て、一の長所と心得て居るのでは無いかと思はれるやうな点さへ見受けられ、教會の聖歌隊を牛バンドと綽名し、嘲笑を浴びせかけた事も、往々にして見受けられました位で之を現狀と比較し、往年を回顧する時、眞に隔世の感なきを得ません。

斯の如くグリークラブの神話時代、又は有史以前の時代とも稱すべき頃から、今日に至る一世代間に、同志社内に於ける宗教其他一般音楽の發達は、實に特筆大書に値すべきもので、これは一に部員諸君の、異常な努力と、又幾分か我我國情に於ける時世の變化にも因る事でせう。

私は、現今同志社内に於ける音楽部員諸君に依て色づけられたる音楽の發達には、尠からざる敬意を表し、欣幸の念を禁ずる能はざる者でありますが、然し男子の學生大衆は、未だ中々音楽に目醒めて居るとは、どう最眞目に見ても申されません。先年どの先生でしたか、同志社の讚美歌は、百部合唱の觀があると申しましたが、諸君が自分の技を益々練磨せられると同時に、學園内外に一層の社會教育的効果を擧げん事をも、斷へず念として頂き度いものです。今後社會教育の任に當る人は誰しも、せめて音楽の理解や、鑑賞の素地くらひは、必ず持つて居り、進んでは自ら指導する位の技能を、若き日に於て養成して居て貰ひ度いものと思ひます。

先年同志社神學専門學校設立の内議が起つた時にも、私は門外漢ながら、教會音楽修養の必要を高調し、富森部長に其割當時間の増加を献策した次第でしたが、此れは學制改革案其ものが中止となつた爲め、右細部の改訂も自然實現を見ずしてやみましたが、不幸にして今後もなほ此主張を持続するの必要は、相變らず存在して居る事と思ひます。以上私は、職掌柄、部員諸君が學窓に在ては學内への、世に出でては社會人として、夫々の使命を負はされて居る事をも一層痛切に感得せられ、斯道を樂しまれ、益々其技を洗練せられると同時に、世の光となり地の塩となつて、宗教音楽の方面から神國建設の重責を果されんことを切望し、平素所懷の一端を披瀝して、祝辭に代へた次第であります。

## 同志社グリークテブ現部員諸子に寄する

大阪音楽學校教授  
關西學生合唱聯盟顧問

長 井 齊

一個の人間が一つの目的に向つて最後まで邁進する事は難かしい事であるが、多勢の者が一つの目標の爲に一意躍進する事は更に難かしい。

團體運動が大量の効果を擧げつゝある事は社會的な諸事業は勿論藝術にさへそれを見る。近代人は一層強く之を認めて居る様で音楽團體の如きもその出現は一々應接に追の無い位である。

所が是等數多い諸團體が何れもその會則第何條かに明示してある趣旨に向つて一樣に健實な發展をしてゐるか云ふと事實は全く豫想外で、有名無實は未だしも創立間もないのに所謂暗から暗に消滅してしまふのが多く、存在してゐるものも創立當時に比してその内容が何時とはなく變化してゐるのが相當にある。最初は眞面目な何々研究團體であるのが知ぬ間に社會機關になつてダンスを始めた云ふのさへある。之は第一義的目的に對する思慮が淺薄であつたからである。

同志社グリーククラブが卅年のハーモニを斷たなかつた原因はこの第一義的なものゝ把握にあつた事は、今更私輩が申すまでもないことではあるが現部員の方々は之をシツカリ再認識して頂きたい。

卅年の傳統は實に輝かしい又貴重なものであること、今日迄力走して來られた先輩諸氏の凝視を感じて第卅回目に渡されたバートンを堅く握りしめ躍進を續けられんことを熱望して歎まない。



## 我友に與ふ

### 關西學院グリークラブ

一四

此の度貴部創立三十週年記念の佳日を迎へられるに當り、私共關西學院グリークラブ部員一同心からお祝ひ申し上げます。嘗つて斯の如き愉快な經驗を有しない私達は、悦びに満ちた皆様を御想像すると何だか羨望に似たものを感じずにおられません。

貴部の今日迄に残された合唱界に於ける立派な功績、その活躍發展の大なる事は今更喋々する迄もありますまい。此の点は私達の日頃より心から尊敬し敬服してゐる所であります。

貴部こそ常に關西合唱界の先驅者であり、私達のよき鑑であり又よき友でありました。同じく宗教學校の雰圍氣の中に生れ育てられた貴部と我グリークラブ、其お互の性質、その進みかた等、實に酷似せる点が多々見受けられますそれは決して偶然ではなく其處には目に見えぬ縁が存在する様に思はれます。

一度日本音楽會を顧みる時、余りにも一般人が合唱と云ふものに無關心であり、無理解である様に考へられます。合唱と云ふものをより普及さし理解さし合唱界の向上を計るこそコーラスに専心する私どもの使命ではないでせうか。私どものコーラスは單に學生の余技として趣味として終らすべきではないと考へます。昨年山田耕作氏が當校音楽部御訪問の際其の御講演の中に「君達が音楽を只單に學生の趣味としてやるだけで、卒業すれば廢めると言ふ様な一時的のものなれば音楽など止めて終つてスポーツへ轉向する方が増しだ」と語られた事を記憶してゐますが確に考へるべき言葉と思ひます。

お祝の言葉が脱線して終ひましたが兎に角お互に何時迄もよき友となり相扶け合ひ過渡期にある日本音楽界、特に其合唱界の爲に盡力致しませう。終りに臨み將來益々發展されん事を祈り合せて御一同の御健康と御多祥を祈ります

## グリークラブを祝ふ

前ブリムローズクラブ指揮者 土方辰三郎

目的を一にして男聲合唱が卅年間歌はれ、愈々充實し光輝あるものとなつたグリークラブに先づ心からなる祝意を捧げ度い。

既に日本樂壇を指導する幾多の名士を出し又人として生きるに光榮ある歌心をもつて日々の生活を創造し新しく享受する種類の人々を世にあらしめた誕生の礎地が神學館に神を讚美するグリークラブそのものゝ雰圍氣にあつた事は誠に貴い事實である。只に校友先輩のみでなく今を母校に勉學する同志社學徒を愛する同志社の故郷に歸らせ、希望を頌ち祈禱を教へ學生生活をより高く深く導くために、あらゆる機會に同志社郷愁の笛を吹き鳴らすグリークラブ!! 更に又我同志社を、歌と讚美により世に傳道するなつかしいグリークラブ!! 三十年の大きな使命と勵!!

同志社大學に嚴存する二つのクラブ。グリー、ブリムローズ! 若人が詩を感じ夢を求め歌を歌ふに變りはないけれども宗教的情提の本質が眞の詩が有する第一義的要素と符節する點では宗教音樂が藝術の最も高い精神を表象するものである。しかし歌はれる歌曲が宗教樂に限定されることは、多情多感な學生に或は不自由を感じさせたかも知れぬのであつて、もしブリムローズが合唱音樂には特に豊富な絃樂をもとり入れて歌曲を擴く世界に求めるならばクラブも亦祝福さるべきであると私は私が誕生したブリムローズの花園を愛しはじめたのである。

グリーククラブでは森本芳雄氏の後を山田基男兄が指揮し始めた丁度その頃、プリムローズでは岡橋氏が指揮をやめて私が代ることになった。當時グリーククラブはよい歌手に恵まれて、多くの先輩を送り出した直後の寂しいプリムローズとの比ではなかつた。毎年チャヤベルでの讚美禮拜や同志社イブの充實した歌ひぶりは既に校の内外迄響いてゐた森本氏の指揮はもとより、上家氏のバリトン、ソロやグリークオルテツト等、いづれも學生としては立派なもので或は満洲に、朝鮮に、或は台灣にと盛んに演奏旅行を試みてゐた。

なつかしいのは共に歌つたプリムローズクラブであり、私を勵まし感激させ涙させたグリーククラブ!!

今は社會にあらゆる種類の人々と手を交はして日々を前進しなければならぬ私である。あまりにも烈しい現實の利害、打算、費用と効用の取引關係に目まぐるしい生活を續ねばならぬ現代ではあるけれども、尙吾々に今一つ大きな人間世界の恵まれ存することを、感謝しなければならぬと思ふ。そこに於て人は蕪雜な生活の束縛から楽しい人間性を開放されて夢と空想とは飛び交ひ、友愛は溫められるのである。この世界にのみ吾々は眞の幸福を發見するのであつて、我々の歌ふ歌は實にこの世界への鍵であり又鍵であらねばならない。私がグリーククラブを心より祝し讃する所以も實にこゝにあるのである。

幸ひグリーククラブが愈々健勝であることを希つて擲筆する。

(一九三四、八、一八)



## 回 想

### 思ひ出と

バークレーより送られし片桐哲氏の書翰

大阪朝日新聞社  
社會事業團主事

濱 田 光 雄

その頃（明治四十四年）歌なんぞ唱ふ奴はニヤケモノだと評される風が多分に存在してゐた。私など十一月二十九日の記念日や一月二十三日の新島先生の記念日には未明 寮を起き出で赤毛布を被つて若王子へ出掛けた。



併し集つて共に唱つた者には上野君の様にフットボールの選手も居た。上出君の様な柔道の達人もゐた。原君のやうな野球のメンバーもゐた。大部分が運動でも來い、學科でも來い（？）といふ者共であつたから合唱をしても讚美歌

を唱つても冷評する者はたんならつた。



東寮の七寮が移轉修築されたばかりであつた。貧乏神學生（？）の哲ッあんは何でも風邪氣味で炬燵にもぐつて田井の食堂から中食辨當を取つて喰べた後であつたらう。グリークラブ員になつたばかりの私共二、三人が遊びに罷り出たのであつた。哲ッあんは晒簞でお汁粉を作つて一人宛に喰べさせて呉れたのは好いが、器は辨當の蓋物で碌に洗ひもせぬもの、今でも魚くさいのを忘れないが、それよりも親しみを忘れ得ない當の哲ッあんはそんな事を覺えてゐまい。



初めてチャペルに六、七人集つまつて練習をした。一は舊讃美歌三九一番「かみともにゐまして」で今でも、ソルファでdoとかreとかが鉛筆で書入れてあるのが判る。私は低音部の記號を自由に讀む事が出来なかつた。併し「君は仲々低いが出る」と褒められて内心甚だ嬉しかつた。其の時分に練習した曲は耳に残つてゐて永遠の懐しさが響いて来る



何時も順調に發達したのではなかつた。哲ッあんが神學部を卒業した後は平田の奎さん、濱田格、錦織君などが主に唱ひもし、指導もしたが、奎さんは主として指揮を振つて呉れた。此の間片桐の總君が病死して今でも淋しく思ふ彼は仲々よく奏した。次に大中の寅はん。

總君の時代平田の奎さんが何かの事で暫らく練習に來なくなつて了つた。彼は時々私共殘留組に……殊に私に言つた。

「クラブの練習に來ると自分の耳が汚される、狂ふ」……隨分豪らさうな言葉を彼は吐いたものだ。その間半年近

く私が仕方なしにタクトを振つたが随分自分乍らも怪しげであつた。タクトを振るより神學館の階上にあつた竹の長い棒で床をコツ／＼叩いて拍子をとつた。總君のお蔭で此の半年が續いて秋になつたら杳さんは僕の乞を入れて復歸して呉れた。此の淋しい間も暫ッあんなは米國から僕に樂譜を送つて呉れたり、手紙を呉れて勵まして呉れた。



三條の Y.M.C.A で音樂會があつてカープ先生の伴奏でファーストの一部を二重四重唱を試みた。初めての太物とあつて私共は生玉子を與へられた。愈々初まるといふ間際に何邊も小便を催ふした。心配し心配したが何とか過失もなく終つたが此で多少自信が加はつたことである。



青木兒氏やオルチン氏が指導して下さつた事もあつたが長く續かなかつた。矢張り團栗の背比べがよかつた。併し唯のドングリではなかつた。必ず練習の初めには五分間の祈禱の時を持つた。此がクラブの精神作興に力のあつた事は勿論。互に協力出來た所以である。



一九一四年(大正三年)六月六日付、加州バークレーより、片桐生より濱田光雄兄宛の繪ハガキの通信文、及び此と前後して送られたる手紙。

.....此の端書と共に Chior Anthem 一冊送り置き候。古本屋を探したる者に候も聖歌の合唱としては上々の者に候。面白き曲は赤色線を以て示し置き候。同志社教會の禮拜に月に一、二度位如斯き聖歌聞き度者に候。 Glee Club の名稱の外に又聖歌隊として Doshisha Choral Band 又は Zion Choral Society の名稱を提供いたし度く考居り候如何に候哉。其の後の狀況同上候。會員一同に宜しく願上候。早々。



………扱て承れば今回永らく其統卒者宜しきを得ざりし爲衰態に瀕しつゝありしグリークラブの爲、奮然立ちて其の正眞なる意義に於ける發展の爲御盡力下さる赴、更に／＼感謝の外無之何となく安堵せる心地せられ悦しく存じ申候。小生には一別以來京都よりの通信毎に、日に／＼衰運に赴くクラブの状況を聞く度に幾度か涙に咽び申候か數知れず、其の都度神に訴へ或は其の再起の日を求めて祈り申候。幸にクラブの歴史と其の精神を愛する兄が奮然立ちて幹事として再興を劃せらるゝ事承り衷心遙かに感謝申居り候。我が生みの勞をせしグリークラブは一日とても念頭を去り申さず、あれよこれよと種々に思ひ居り申候。殊に音楽の盛んなる當米國に渡來候以來は、見るにつけ聞くにつけ此もあれもと直にグリークラブに應用し改良をもかなと泌々感ぜられ、一日も思はぬ日とは無之打ち過し居り候が便り毎に風前の燈火の如き通信のみにて心淋しかりし事幾度なりしか言外に御座候へき。………衆の心を一にして小なる自己を去りてクラブ全体の爲御一同の御奮勵を切に願上候。………

グリークラブなる者は當米國に於ては必らず何處の大學にも付き者にて、此の名稱は共通に候。而して讀みて字の如く元氣なる無邪氣なる學生の滑稽混じりの愉快なる一種獨特の音楽を稱する語に候。………

同志社のクリークラブも此の点に於ては充分盡力下さるべく候は勿論に候も更に目下の日本精神界の向上の爲にも充分の助力をせらるべく此の点に於て切に教會音樂の發達にも御盡瘁さるべき事と存じ申候、即ち前者 $\frac{1}{2}$ 後者 $\frac{1}{2}$ の割合にて練習下され度く候。………クラブ員一同の品格を高め聖淨なる心靈より神を讃め被下度祈り申候、幾重にも自己を滅し會員一同の利益の爲、進歩の爲盡し下さる様希望申上候。

# 樂しかりしグリークラブ

組合教會本部 錦 織 貞 夫

僕は同志社神學部に入學する前は青山學院の中學部に通學して居たのです。僕は音楽好きになつたのは當時青山學院の名コーテット、三上、熊谷、神戸、大友の諸氏に負ふ處が多かつた。扱て僕が明治四十四年同志社に行く事になり、新入學生歡迎會に臨むと、先輩達が新入生の隱藝を強制した。僕は青山時代で多少聲樂を練つて居たから、ゼーヤウオズ メリー コブラの滑稽ソングを歌つた處が、それが大當りで會が終ると早速岩村清四郎君が洛陽教會へ入會しろと勧誘に來た位だつた。僕が歌で認められたのは此れが全くの皮切りなのです。

片桐哲氏が同志社の東寮で中學生に歌を教へて居たのですが、その一群の中には後にグリークラブに取つて忘れる事の出来ない、平田甫、原忠雄、濱田光雄、川中忠治（通學生）小島應、片桐總、上出雅孝等數名が居た。

愈々同志社のグリークラブを組織するから僕に應援を頼むと、片桐哲氏が來られたので行つて見ると、連中は宛然蚊の鳴くやうな貧弱な聲であつたので失望したものだ。

僕が入學後一年すると阿波の徳島から濱田格と云ふ牧師の息が入學して來た。田舎仕込みだが可成自信が有つて、耳などは僕等よりは一層發達して居た。そこで貧弱なグリークラブで満足出来ない處から、僕と濱田格と平田甫と岩村清四郎君とでコーテットを組織した。タウナー・メール・コーテット等を歌つたものだ。



グリークラブは其後益々順潮に發達し、組織後一二年を出でずして、クラブ員五拾名を算するに至り、片桐哲氏がその指揮者と云ふ譯だ。

丁度復活祭の頃確な日時を忘れたが、グリークラブの演奏會を開催する事になり、女學校の生徒等もぞろ／＼チャペルに行列を作つて入場する滿堂立錫の餘地なしの盛況ぶり、當日の花形は僕なので『安息日すぎてのち、夜明けがたに、マリヤと外の女等』を以て初まる簡単なオラトリオ式の歌曲を合唱する事になり、初めの部分は僕のソロで他の部員はその伴奏をすると云ふ譯です。僕は先づ散髪屋で頭を美しく分けて貰ひ、頗る緊張したものだ。恐らく五拾人もの團體が新島先生の額の掲げてあるあのチャペルで合唱するなんて、それこそ開校以來のエポックメイキングだった。僕も無事に調子を外さずに歌つたし、ギユリキ博士はインスピレーションを受けましたと賞讃を與へて僕等を獎勵して呉れた程に成功した。

此の音楽會を皮切りに以後年二三回はグリークラブの音楽會を開催する様になり、同志社を音楽化する様な勢力を以て進んで行つた。技倆に於ても片桐コンダクターに對し一二の者は不平を持つ様になつた程である。

片桐氏卒業後コンダクター問題で困難したが、濱田格氏が第二世となり、青年會館等を借りて大音楽會を試みた事も有る。此の頃のコーテットは僕と濱田格、平田甫、濱田光雄の諸氏で、一度面白い事は天津で宮川經輝氏の大傳道會に我等四人が招かれて歌ふ事になつた。

何しろ組合教會の大御所の傳道説教だと云ふので、可成緊張して行つたものである。キーを出してこれから歌はんとする間に、濱で汽船の笛が「ボーウ」と鳴つたので一大事となり、キーを出し直せば良かったのだが多少一同上り氣味なので其儘歌つた處が大失敗した事を覺えて居る。

僕の室に大中寅二氏と馬場二郎氏（音楽評論家の一人）がグリークラブに入會したいと云ふて來た。寅二君に後から

聴くと、その頃は僕を余程尊敬して居たとの事、殊に僕が「マックス・ウェルトン」を歌ひ出すとすっかり應心したさうだ。大中君はグリークラブの無くてはならぬ「オーガニスト」となつた。馬場君は早くもグリークラブに愛憎をつかして一二度出たきりで止めて了つた。多分兩方で愛憎をつかしたんだらう。濱田君のコンダクターは半年も續かなかつた。その後を繼承したのは平田甫氏で初めは蚊の音の様な人物が充分自信を持つたコンダクターとなり、グリークラブの全盛期を現出する様になつた。

二月には「同志社イヴ」なるものを運動場でやり、グリークラブは盛んに合唱したし、卒業式にはグリークラブは無くてはならぬものになつた。一度同志社公會堂で歐洲戦争當時、「ピカデリー」の歌を部員一同「アイリツシマン兵隊」の假装をして合唱した。しかし其の「アイリツシマン」たるやマント等を腰に巻きつけて居るので、丸で乞食の「アイリツシマン」であつた。女學生が笑ふのには閉口した。上出君がラツパを吹くと妙な假裝兵が劍を下げて鐵砲を肩にして正門から入場するのである。上出君がラツパをやりそこなつたのは滑稽だつた。僕が「アツプ ツー マイ テイ ロンドン」と獨唱して、それからコーラスを皆んなで歌つて二節を平田君が獨唱する、仲々得意なものだつた。此の頃グリークラブは全員で大阪や神戸にも遠征を初めて得意がつたものだ。コーテットには僕と原忠雄、平田市小島應、濱田光雄であつた。小島氏は「カレデソング」の時のベース、濱田氏は聖樂の時の「ベース」であつた。小島君は滑稽で聲迄も滑稽だつたからだ。此頃のコーテットは可成自信があり、汽笛位ひでは面喰はない。

僕は外人コーテットに時々雇はれた。外人コーテットは僕にミセス・グローバ・ミス・オスグッド・ミスタ・グローバ。愈々音楽會のプログラムが外人の「コーテット」となり、「テナアー」の僕が壇上に現はれると、ある人が『あれは黒人ですか』と聞たさうだ。純白の中に普通の「ジャツプ」よりも黒いのが出るのだから餘計に目立つのだらう。『いやあれはグリークラブ』のと云はぬといけない事になる。

兎に角、グリークラブは僕の同志社生活のインスピレーションだった。勉強もせずに歌つてばかり居たのだが、あの樂しかりし思ひ出は一枚の卒業證書に勝る事確かに四、五倍の價值である。

## 『ジュニヤミダビデ』

靈南坂教會オーガニスト

大 中 寅 二

ダビデクワルテットと云つたか、ダビデクワイヤーと云つた忘れましたが、そのメンバーで私が今覺えて居る人達は、今東京に居られる牧野操氏、それから聲樂家として名ある内田榮一氏、それから大阪で女學校の先生をして居られる橋靜雄氏等であります。

何んでも此の三人で歌つて居られたのではなかつたかと思ひます。

私が大正六年頃グリークラブに入るその時より二三年も前だと云ふ事ですが兎に角グリークラブを離れてブリムローズを主宰して居られた故人川中忠治氏がその指導の任にあたつて居られました。

その後前記の三人の方が卒業されてから後の事は知りませんが、現在の中學部の音楽部とは直接關係はないのではなかつたでせうか。

云ひおくれましたがダビデもジュニヤーも共に中學部の合唱團體であります。

ジュニヤーは大正六年頃當時の大學部の指導者平田甫氏の肝入りで中學部に生れた合唱團體であります、

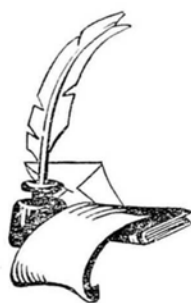
そして最初の内は氏自身その指導の任に當つて居りましたが仕事が非常に多忙だつた爲私が代つてやる事になつたのであります。

所がこゝに集る者が主として上級生だつたので下級生の爲にと云ふ話が始りこゝに中學部の音楽部としてのほんとの源が生まれその指導に當られたので現在もやつて居られる中堀愛作氏であります。

ジュニャーの名は私の卒業と同時に自然消滅した形で（或はさうでないかもしれませんが）ありますが兎に角中學部の音楽部に關してその源をたづねてその恩人を記せば平田甫氏と三輪源造氏で前者は創設に關し後者は後見人として育ての親として共に決して忘れる事の出来ない方々であります。

無論そこには創設の機運を作つた當時の中學の人達の事も忘れる事は出来ませんが。

以  
上



## 三十年史

明治四十年前

奉天組合教會牧師

渡邊守成

古谷三郎君から同志社大學グリークラブ創立三十周年紀念事業の一としてクラブ史を編纂したいから其一部を書けとの依頼を受け何一つ材料がないので思ひ出づる儘次に記して見る。

予の今日ある爲に非常な恩顧を受けた恩人の一人にローランド博士が居る。彼はアメリカン、ボールド宣教師として來朝され約四十年の久しきに互り日本に貢獻、大きい立派な人物であつた。博士は様々な方面に長所を具へて御出でゝあつたが殊に音樂方面に於ても専門家を凌ぐ優れた才能を持つて居られたので博士の御宅に寄寓を許された予は此方面の指導と感化とを多分に受けたのと、根が嫌ひでない處から可なり此方面の興味を進める事が出來た。

處が予は明治三十六年四月、志を決して愈々同志社神學校に入學を目的に札幌を後に京都へ上つたのであつた。此時永い間薰陶を受けた博士御一家とも別れざるを得ない悲痛なる思を様々な意味に於て經驗した。

愈々同志社生活を營んで見ると當時の生活は新島先生以來の清教徒的魂と氣風とが全校の精神氣魄となつて驚くべき潛勢力を持つて居つたが、同時に一種の東洋豪毅肌の氣風も交つて情操方面は和かな潤のない實に殺風景な寧ろ蠻的空氣が横溢して居つた。夫れだから男子にして音樂に關係したりすると柔弱學生、墮落學生の如く取扱はれて相當強い反對反抗の空氣も強かつた程甚だ遅れて居つたものだ。

併し人間教育に於て重大な役割をする音樂に對する理解の欠如は同志社の恥辱の如く痛感し、是が爲に起つ事の有意義重要性を信じて除むるに機會を捉へて音樂の鼓吹、獎勵に微力を盡したが未だ一の會若しくはグループの結成迄には到らなかつた。

折々二部合唱乃至四部合唱を試みて特別な會合に奉仕したり興味を添へたりプログラムを賑はしたりして居る内に漸次同好者なり共鳴者なりが増して來た。そうする内に學校當局も特別な集會なり、儀式の場合良く練習せられた讃美歌なり適當な音樂を要求する迄音樂に對して關心を持ち理解を抱く程になつて來た事實を目撃した。予等の感激は今尙忘れられない大きなものであつた。予は唯同志社のみならず京都教會、平安教會及同胞教會の依頼に應じて讃美歌練習會を一週一回宛實行して相當永く續いた。かくして音樂熱が段々高まつて來たので神學校に於て公式に一般學生の音樂教授として毎週一回大阪よりオルチン教師を招聘する事になつた事や、一方女學校に於ても當時の音樂教師山口女史の盡力も手傳つて目醒しい發達をなさんとする輝しい兆候が見へ洋々たる希望を望む事が出來たのであつた。此時期に此方面の發達に寄與貢獻したと思はるゝ主なる人々は次の面々である。

速水藤助君、故近藤優君、故境野周次郎君、伊庭孝君、西宜立君、海老澤亮君、岩村清四郎君、片桐哲君、佐竹直重君、相馬祐次君、横田確三君、故穂永君、甚だ不充ながら請はるゝ儘に記して見たが自分乍ら甚だ不満足だし又同時期の諸君に申譯がないとも思ふが時のない爲めに是で我慢する事にした。

## グリークラブの胎兒時代

同志社大學豫科教授 速 水 藤 助

私が同志社に入學したのは明治三十四年の暮れでしたが、其頃は同志社が衰微の極で生徒の数は男女併せて二百名足らず、「門前雀羅を張る」とはこんな事を云ふたのではないかと思はるゝ様な時代でした。然し其れより數ヶ月前に中瀬古先生、日野先生其他二三の新歸朝先生が新たに教鞭をとらるゝ事になつたので、いくらか甦生の氣分が燃えて居りましたが、兎に角さびしいものでした。教會の方も至つて寂寥で、毎日の朝拜はチャペルは廣過ぎるから神學館樓上で行ふと云ふ始末でした。

従つて、音楽に對する興味などは女學校の方は別として、男學生の間には殆んど皆無でした。教會の讚美歌などは「吾々は信仰を以て歌へばそれで充分だ、何も樂譜に拘泥する必要がない」と云つた調子でした。齊唱と區別した意味の合唱など云ふものは、男學生の間には全く存在しませんでした。

それから二年程経て、札幌から渡部守成君が入學しました。同君はローランド宣教師のお仕込みのバスの美聲家で教會で讚美歌唱和の時此一人丈けがバスを唱ふので、隣の人達が釣り込まれて、歌へないと云ふ、今から思ふて滑稽な非難攻撃さへも起つた事がありました。

丁度其頃、從來行はれて居た新選讚美歌が廢されて遂ひ近年迄用ひられた「さんびか」に代りましたので、所謂新

さんびか練習會が校の内外に盛に行はれる様になりました。渡部君がリーダーとなつて大に活躍されたものです。又其頃に伊庭孝君が神學校に入學せられ、西寮の神學寮から妙なるヴァイオリンの獨奏が洩れる様になりました。兩君の感化で音楽に對する一般學生の興味も次第に進歩して來て、三十九年の一月にはチャペルで大音楽會が開かれる様になりました。

此音楽會は東北飢饉救済の目的で同地出身の同志社學生が發起し、前述兩君の斡旋で成立したもので、恐らくは京都に於ける有料洋樂演奏會の始めて非常に市民の注意を引いたものでした。今でもハツキリ記憶に残つて居るのは、山田操嬢の獨唱、緒方章君（現東大教授藥學博士當時天王寺中學五年生）のヴァイオリン獨奏、名前は忘れたが一神戸外人のマンドリン獨奏それから當夜の呼物、三十餘名より成る同志社學生の男聲合唱でした。之れは例の渡部君の指揮で邦語の「復活の歌」で全部十五分位かかる長物で非常な喝采を博しました。聴衆滿堂、無報酬純益九十幾圓で當時にありてはスバラシイ成功でありました。

こんな事からして、其年の卒業式には京都帝大の村岡理學博士が來られて、祝辭の一節に同志社の他の學校に見られない特徴は、英語と西洋音楽であると激賞して下さつた事がありました。

私は間もなく卒業して校を去りましたから學内に於ける音楽の發展については直接には關知して居ませんが、海老澤亮さんや片桐哲さん等が其後リーダー格になつて大々活躍して居られ、それがやがてグリーククラブの基礎となり今日の盛大を見るに至つたのと思ひます。

兎に角私などは、同志社音楽史に於ける「洪水前」時代に屬する人間であるのに不拘、クラブの諸君が先輩の一人と思ふて下さる事は恐縮の至りです。

擱筆に臨み、私共の四部合唱の笑話を御紹介申上ります。



其頃、例の渡邊氏が奔走して無名の一混聲四部合唱團が出現しました。ソプラノとアルトは日曜學校の女教師、バスは渡部君の御得意、そしてテナーを承はつたのは潜越ながら申す私でした、歌は今も「雪びら」にある「遠く思へば……ユダヤの野邊」と云ふクリスマス歌の一天張りで、方々の日曜學校から招聘されて、クリスマス祝會に出演し頗る得意で居りましたが、最後に歌つたのは西陣講義所のクリスマスでした。歸途聴衆の傍若無人の批評を立聞きすると、「あの男と女の掛合歌はナツタラヘン、あの男の馬鹿聲はどうだ丸で牛の様でないか。……合唱團の一人嘆息して「豚に眞珠を投げ與ふ勿れ」。

(九、八、九誌)

## 同志社と音樂

(明治四十年——四十三年)

組合教會總幹事

海老澤 亮

同志社グリーククラブの近代に於ける發達進歩は特に著しきものがあり、洋樂殊に聖樂に於て歐米各大學の夫等にも匹敵する程の進歩を見せん迄に至りし事は誠に欣快の至りであります。益々此の方面に興味ある人々が努力されて同志社の生命の中に音樂を響かせて戴きたいと考へ、又大いに期待して居る次第であります。

▽

同志社には我が日本の聖歌に特殊の貢獻を爲された三輪花影先生が居られたのであり、宣教師方は充分に國許で音

樂趣を養はれて居られた事でありませうから、もつと早くから音楽が發達すべき筈であつたと思はれますが、男聲合唱を始めたのは多分私共が最初であつたかと考へます。

當時グリュッキ先生は校歌を作る爲に熱心でありました。又カープ先生は其の特別な器樂の天才をほめかして居られました。けれど夫等のゼニウスを以てオルガナイズしたものがありませんでした。私はグリュッキ先生の参考書を借りて（讚美歌歴史）の編著に熱中し、夫を教文館から出版したのは自己満足の一つでもありました。

其頃神學生の間に美音教會から來て居られた近藤、境野といふ一幅對が居りまして、非常に歌ふ事が好きでした。それに中學の方から宇野、穂永、堀内等いふ人々が交はり、私も下手な横好きで御仲間入りをしてグリーを作つたのでした、そしてその後讚美歌獎勵會といふ組織が起つて日本の諸教會で音楽獎勵をやつたものでしたから、私共も市中の教會に進出して、その會員を募集し、練習會を催はした事が度々ありました。

それで私共は時折チャペルに集合して合唱練習をやつて居りますと、男學生達は「又牛がうなつてゐる」等と冷笑するのでした。當時歌を歌ふといふ事は、婦女子の仕事で、男性がやる領分ではないやうに思はれ、又歌を謳ふ人間等は女々しくつて男性的の剛氣がないと非難する向が多いのでありました。それで私は時折少尉の軍服を纏ふて合唱隊に入つて聊か男學生を驚かした様な事もありました。



合唱隊はその様に不評判のものでありましたが、それでもチャペル禮拜では讚美歌が歌はれ、而も男學生は思ひ切り大聲をあげて怒鳴るのを痛快として居つた様でありました。ですから今でもあの當時思ふ存分聲を張上げて歌ふた思ひ出は懐しいものであると申す人々に時折出遭ふのでありました。

チャペルのオルガンは宇野君が長い間弾いて居たと記憶して居ります。私もその後を受けて或期間毎朝出掛けてオ

ルガニストをやつた時代もありました。



その様にして聖樂が幾分かづゝ男學校の間にその立場を見出だす様になりました頃で只今の片桐兄や兵庫の長谷川牧師等が、もう少し組織的の音樂練習なり研究なりを始められました。又オルチン教師が毎週大阪から入洛して神學生達に讚美歌の歌ひ方を教へて呉れました。多分是等の教會的素地からグリークラブの組織的なものが發達して來たものであらうと思はれます。

その後男學生諸氏が全國演奏旅行に出られたり、同志社イヴの盛大な催し等が出来るのを見ますと實に長足の進歩で先づ隔世の感とでも云ひたい程の發達に、私は何時も喜びに満たされて居ります。



私は二年前に獨逸を訪れましたがその教會音樂の發達してゐる事、又どの家庭でも音樂が生活の重要な要素をなして居る事を見まして羨望を禁じ得ませんでした。讚美歌等も全然創作で、英米の借物など殆んどありません。聖樂はドイツ國民の生命となつて居ります。

日本に於ても聖樂の獎勵がもつと徹底的になされねばならぬと私は考へて居ります。グリーの諸君が益々自重せられん事を祈ります。

## 有史前のグリークラブ

(明治四十四年—大正二年)

東海教育牧師

平

田

甫

明治四十四年の夏休みが終つた頃、東寮の一隅に「奇妙な聲」が聞え出した。片桐第七寮長の室に「もの好き」が四五人集つて何か知ら「うなづて居つた」のだ、勿論組織も何もあつたものでは無かつたし將來を何うしようのと云ふ様な大それた考へ等毛頭無く只「集つて居つた」に過ぎなかつた。

そして片桐寮長が自分で「グリークラブ」と名づけたものではあるが、之を協議してクラブの名にしたと云ふ譯でも無く、むしろ餘り聞き慣れぬ、妙な名だなあ位にしか考へて居なかつた。

同志社五十年史の一頁に、三輪先生が「その當時、音楽好きの學生には、その品性あまり芳しからぬ者もあつたので……………その態度が随分不眞面目であつたので

學生中の信仰家や、勉強家に輕蔑されたものである」と述べられて居る。

全くそれは事實でもあつた。

従つて當時のものの心に「名譽を恢復せねばならぬ」と云ふ氣持が満ちて居つたから、寄り集る者が期せずして人選を嚴にするようになり歌は上手でも「敬遠」された人が少くなかつた。

——産聲を舉げる——

明治四十四年の夏休みが終つて直ぐ、東寮の六寮の二階、十四疊の集會室で、全寮生の聯合辯論大會が催された時、八名のものによつて男聲の三部合唱が歌はれ此時始めて「同志社グリークラブ」の名を公けに用ひた。そして、もとの讃美歌第三百十七番「はなよりもめでにし」が歌はれた。之がグリークラブの産聲であつた。

その時歌つたものは確かではないが、高音部に松岡繁片桐總と筆者の三人、中音部に蜂谷爲三、谷喜樂、平賀徳造の三人、低音部に濱田光雄、川中忠治の二人があつた様に思ふ。そのうち三人までも已に故人になつて居る

此の發表が認められて、同年十二月のクリスマス禮拜には公會堂の後二階から、蠟燭の火で「ほしをしるべに」を四部で唱つた。キャンドルで歌ふと云ふと随分早くから仲々しやれた事をした様だが實はその頃公會堂にまだ電燈が無く、誰だつたか覺えて無いが瓦斯の火を點じて歩いて居つた苦學生があつた時代だ。瓦斯燈が大きい音を立てるので、そしてよく故障を起すので之を用ふる事が出来ず、仕方なく蠟燭を用ひたに過ぎぬ。

此の時はもう可成り澤山の人達が入つて來て居つて十八人で歌つて居る。

記憶によれば、前記の他に佐竹直重、錦織貞夫、三矢信三、清水久男、岩村清四郎、濱田格、三宅讓、美濃部董、柳島彦作等の諸君がある。

その翌日、神學館樓上で同志社教會の祝賀會があつた席上、前記のうち十六人が、何處から工面して來たものか丁度當時の神學生の制服になつて居つた、黒紋附の羽織を描へたものだ。随分偉觀であつたに違ひ無い、そして「グット・ナイト・レデース」を歌つた。當時神戸から

山下と云ふ混血兒の兄弟が入つて來た、野球もうまかつたが、歌の聲も大變よく、クラブの歌も一段と聞き映えがした相な。

翌四十五年になると松田讓二、田中左右吉、原忠雄、小島應、上出雅孝、原田泰、東義雄、川島良一、上野義一、志水義孝、露無文雄、福原久造等の諸兄の姿が寫真に見えて居る。そして京都市内の教會の禮拜や傳道集會に招かれて歌ひに行く様になつた。

同年即ち大正元年秋、日本組合教會總會が京都の地に開かれ、十月六日、青年會館に於ける聯合禮拜に「ちとせのいわよ」を歌つて調子を外してままと失敗してしまつた。まだ當時は、混聲用の曲を男聲用に改編する等と云ふ小器用な人が無かつたので、第一テナーが或は第二テナーが低音部より低いところを歌ふと云ふ様な、のんき至極な風景を展開した事もある。

同年十二月廿四日、同志社公會堂で、クリスマス紀念音楽禮拜式が同志社教會によつて催された。クラブは片桐氏の指揮で「みさかねハレルヤ」を無伴奏で合唱した

部員二十二名、此の禮拜で、高音部の錦織貞夫君が選ばれて「外人四重唱團」のテナーを歌つた、やつと存在が認められたグリークラブから外人に混つて四重唱をする能力ある唱手が出たと云ふ、クラブにとつては大きい喜びだつた、けれど錦織君自身には「外人」と間違へられて大變御氣の毒だつた。

大正二年の春、我クラブの創立者であり指揮者であつた片桐氏や、大先輩の佐竹氏、岩村(木村)氏等が卒業されたので、此の先き一休何うしたらいいのか全く暗闇にぶつつかつた様な氣がした。

茲で始めて指揮者を選ぶ必要を生じ、選舉によつて濱田格氏を指揮者に、濱田光雄氏を書記に御願ひした。そして樂譜代としてクラブ費を五錢徴収する事にしたが、何しろ貧乏神學生が主だつたのと、金さあればウドン食べた連中だつたので會費はいつも滞納勝であつたクラブの中心は何うしても神學生であつた關係から、いつとは無しに部員の井上美憲氏、川中忠治氏等が集つて河原五郎氏や柳島彦作氏と團體を作り主に聖歌以外の

歌をうたひ始めた、そしてブリムローズバンドと云つて居つた。

又各教會を應援する爲に何うしても器樂の必要を感じ錦織氏や美濃部氏や内海孝夫氏等と集つてマンドリンを始めた、これが同志社マンドリンクラブの卵となつた。

又同年に中學部にジュニア、グリークラブが出来、女學校にミリアム、クワイヤが出来同志社に於ける音樂熱が盛に度を上げて來た。

従つて打つて一丸とする發表會の要求に迫まれて、遂に茲に全同志社演奏會を催す事になつた。

確か五月二十四日であつた。

#### 一、開會の辭

#### 二、オルガン連奏

#### 三、コーラス

#### ザ ビュテフルランド

#### 四、二部合唱

#### メンデルスゾーン

#### 「春夜の夢」

芦 田 敦 授

郭 馬 西 君

陳 清 忠 君

グリークラブ

河 原 五 郎 君

志 水 義 孝 君

五、台灣絃樂

六、コーラス

ユツバイディ

七、オルガン獨奏

八、コーラス

ウオニタ

九、獨唱

アウト・オン・ザ・デープ

十、四部合唱

コールジョン

十一、オルガン獨奏

ウオタルローの戦

十二、朗讀

十三、コーラス

「復活」 カンタタ

林 育 伯君

グリークラブ

オズグッド嬢

プリムローズソサエター

グローバ教授

錦 織 貞 夫君

濱 田 格君

平 田 甫

川 中 忠 治君

富 永 孟君

ケリー教授

グリークラブ

まだ「重唱」等と云ふ術語が無い頃だつた。

最後の「復活」は半年に亘つて練習したものだつた。

そして「コールジョン」は動作を振付けて歌つた爲めに或教授から「神聖な公會堂であんな歌をうたつてけしからん」と叱言を食つたが、其後は扮装までして歌ふ事も許され、今日思ふと丸で夢の様である。

大正三年に入るや時の指揮者濱田格君が、一家の事情で學校を去るの止むなきに到り、選挙の結果、不肖に重任を負はされるに到つた。

此の後三ヶ年の「棒振り生活」は筆者の同志社生活に最も豊富な思ひ出を與へてくれた。或は同志社の思ひ出はクリーククラブの思出でもあるとしてそれがグリークラブをして今日まで繼いで來られたのは後の兄弟達の不斷の努力や先輩達の祈りの結果でもあるが、然し何と考へて見ても「見えざる御手」の導き無くしては考へられぬ事である。全く感謝に堪へぬ。

此のプログラムでは當時聴衆を集める事は六つかしかつた。やつと八分通り公會堂に入つた位だつた。

## 大正二年より大正七年まで

台北組合教會牧師 原 忠 雄

世が明治から大正に移る頃から、グリーククラブも組織立ち、且つ合唱といふものが社會一般から認めらるゝ様になつて來たと思はれます。丁度此の頃、同志社大學内に他の合唱團ブリムローズも組織せられ、大正二年五月二十四日午後七時半から、同志社公會堂に於てグローバ教授等の賛助出演を得て此の二つの合唱團の第一回音樂會が開かれたのであります。此の頃は未だ同志社イヴなるものがなかつたのであります。

當夜の音樂會はこれ迄のコンダクター片桐哲氏の送別音樂會とも言ふべきもので、此の音樂會を以つて片桐氏は退き渡米せられ、グリーククラブは新に濱田格氏によつてコンダクトせらるゝ事になりました。

當夜特に印象深き歌は、グリーククラブの歌つた「復活」の合唱でありました。又グリーククラブ十八番のコールジョンは當夜歌はれたのが最初でありませう。

### ◆ 同志社イヴの前身

大正二年十一月一日午後七時から三條青年會館に於て同志社基督教青年會主催の下に、グリーククラブとブリムローズが中心に同志社音樂會なるものを開きました。これが即ち同志社イヴの前身となつたものであります。

當夜特にグリーククラブ、ブリムローズ二團體合併して約五十名の合唱をなした事が目立つて居ります。曲はドーン作『汝が罪は絆の如くなりとも』でありました。

### (グリーククラブ記録簿より抜粋補充)

◆十月四日 於京都教會お伽會。ブルドツグ合唱。清水久男、平田甫、濱田格、濱田光雄。

◆十月五日 於大阪島之内教會。角田氏葬儀に列席合唱。讚美歌三八八。

◆十月十二日 於神學館樓上。グリーン氏追悼會に列席合唱。

◆十月十一日 於Y・M・C・A。今出川教會婦人會主催音樂會へ出演。濱田格、蜂谷、原、平田、上出、川島、濱田光雄。曲



目。There's Music in the air 他 曲

◆十月二十五日 牧野虎次先生招待會にて讚美歌四四五番合唱

◆十一月一日 同志社音樂會。

◆十一月二日 於洛陽教會。第三回洛陽讚美音樂會へ出演。平

田、錦織、濱田格、濱田光雄、曲目 Sweet Zion Bell,

◆十一月十一日 グリーククラブ總會。司會錦織貞夫君、聖書祈

禱本宮君。「原田社長よりグリーククラブ指導者招聘費として  
毎月三十圓給與せん」との申出ありたれど謝絶す。

◆十一月二十九日 同志社創立紀念日。於若王寺山頭。午前五

時半雞鳴を聞きて吾等健兒、愛敬新島襄先生墓前に集ふ。吾  
等グリーククラブ員、古木教師の熱烈なる勸話の後、過日來よ

り練習せる百六十一番を合唱せば、美しきハーモニーをな  
て靜なる山頭の空氣の中に鳴り響きて恰も聖都エルサレムの  
シオン山にあるを覺えたり。

◆十二月五日 於神學館。青木氏を招聘して「歌ひ方」「發聲」  
の講習を受く。

◆十二月七日 同志社教會洗禮晚餐式にて合唱。

◆十二月二十四日 於同志社公會堂。クリスマス音樂禮拜、三  
輪花影作歌及び讚美歌。

## 大正三年

(グリーククラブ記録簿)

◆一月十一日 於同志社公會堂。原田社長母堂の葬式に列席、  
讚美歌四五七、三五四を合唱す。原、蜂谷、北村、濱田格、

平田、片桐、川島、濱田光雄。

此の御禮として菓子一箱贈られたり。

◆一月二十六日 於神學館樓上。日野教頭歡迎會にて合唱。讚  
美歌一四四、良好なりき。

◆第二回三十分音樂會 二月一日 於神學館。司會川島兄

(一) 三部合唱「浦のあけくれ」

(原、平田、濱田光雄)

(二) 獨唱 上出雅孝兄

(三) 同志社クオテット

(北村、片桐、原、小島)

◆三月二日及び三日 於青年會館。吾國基督教宣傳されし以來  
始めて、吾世界に於ても未だ見ざりし全國協同大傳道の爲、  
準備說教會あり。錦織、川島、平田、岸田、清水、濱田(光)  
等出席。讚美歌二七四、四二を合唱す。

非常に良好にして感動せしめたること受合なり。

◆五月十五日 クラブの臨時總會を開く。

クラブ近時、非基督教敎的になる傾向あり。これを統一し、其  
の主義を明かにせん爲此の總會を開く。

司會濱田光雄君、祈禱、讚美歌二六四合唱。

選舉の結果濱田光雄君幹事に當選。

◆五月三十一日 同志社教會禮拜に於て讚美歌四四五番合唱。

◆十月十八日 愛隣日曜學校にて合唱。

◆十月二十六日 臨時總會を開く。シャイブリー教授をグリ

クラブ指導者に依頼することに決定す。

◆十一月一日 於同志社公會堂。京都市内日曜學校聯合生徒大會に出席、讚美歌二篇一二番合唱。

◆十一月二十九日 同志社教會二大禮典に出席、讚美歌四十二番合唱。揮揮 濱田光雄

◆十二月二十三日 於青年會クリスマス。グッド・ナイト・レディーズ及び Three buzzing bees 合唱

◆十二月二十四日 同志社教會クリスマスに於て、ミス・ラーネットの伴奏にて Old the End of the world を合唱す。

## 大正四年

大正三年十二月、濱田格氏が退學されましたので平田甫氏がコンダクターになりました。

大正二年頃からグリーククラブも京都市内の種々な音樂會に贊助出演致しました。當時グリーククラブ内に二つのコーテットがありました。

一つは錦織貞夫、濱田格、平田甫、濱田光雄、他のものは北村藤三郎、原忠雄、片桐總、小島應でありました前者をタウナーコーテット、後者をパークスコートテットと名づけまして、乞はるゝ儘に數々贊助出演致しました。

## ◆ 最初の演奏旅行

然し京都以外に演奏に出かけたのは、大正四年五月二十二日、名古屋基督教青年會主催の音樂會に出演したのが始めてでありましたでせう。此は既に同志社を退學された濱田格氏が名古屋に於て働いて居られた事からグリーククラブが招かるゝに到つたものであります。錦織貞夫、原忠雄、平田甫、濱田光雄及び伴奏者田中寅之助氏の五名が参りました。

## ◆ 御大典祝賀學生大音樂會

大正四年十一月六日には三條青年會館に於て同青年會主催の下に、御大典祝賀京都市内學生聯合大音樂會が開かれ、同志社以外に三高、高工、京都聲樂會、第二中學校音樂部等も加はり京都に於てはこれ迄に無い大音樂會でありました。此の日御大典奉祝歌の男聲四部合唱は百數十名の大会唱であり、當時としては珍しいものでありました。

## ◆ 神戸に於ける音樂會

グリーククラブが全体として遠征に出かけたのは大正四

年十二月四日神戸基督教青年會館に於て開かれた音楽會が最初であります。これはプリム・ローズや當時のマンダリン合奏團なるフォンタナクラブとの共同演奏會であり同志社のカーブ教授、シャイベリー教授、同志社女學校の田中寅之助先生、神戸の青木兒氏、マンケンジー氏、ジョールダン氏、ミス・ストロン氏等の賛助出演を得た大音楽會であつて、聴衆も青年會館滿堂の盛會でありました。

(記録簿より抜粋補充)

- ◆ 一月二十八日 同志社教會二大禮典に列席合唱。讚美歌七十六番
- ◆ 三月二十日 同志社第四十學年卒業式に於て合唱。十六名、曲目「三輪先生作歌」
- ◆ 五月十日より協同傳道の爲毎夜出演。三條 Y・M・C・A
- ◆ 五月二十二日 名古屋基督教青年會主催音楽會へ出演。
- ◆ 五月二十三日 名古屋愛知組合教會にて讚美禮拜。
- ◆ 六月七日八日 同志社校内傳道說教會に於て讚美歌四四五、一五八、合唱す。成績良好なり。(十七名)
- ◆ 六月十二日 滋賀師範學校講堂にて合唱。
- ◆ 六月十三日 於三條 Y・M・C・A。少年少女共勵會開かれ、

出席合唱す。二編五〇

- ◆ 六月十九日 於三條青年會館。白國同情音楽會、同志社女學校主催の下に開かれ參加合唱す。
- ◆ 九月二十七日 「詩篇九十八篇」練習開始す。
- ◆ 十月七日 三十分音楽會を開く、於神學館講堂
  - 一、「浦のあけ暮れ」 錦織、原、濱田の三君
  - 二、マンドリン獨奏 美濃部君
  - 三、四部合唱 蜂谷、東、露無、濱田の諸君
  - 四、獨唱 錦織君
- ◆ 十一月六日 御大典祝賀音楽會。
- ◆ 十一月十一日 全國基督教信徒祝賀式、同志社運動場にて開かれ、聖歌隊として合唱。同日夜青年會館にて開かれたる信徒大會にて合唱。
- ◆ 十一月十六日 於岡崎傳道館。御大典紀念少年少女大會にて合唱。
- ◆ 十一月二十三日 大津青年會より招待されて音楽會出演。錦織、原、平田、小島の四名。
- ◆ 十一月二十四日 同メンバー江州八幡にて合唱。
- ◆ 十一月二十六日 岡崎紀念傳道館にて信徒感謝會開かれ、出席合唱。四百十四番。
- ◆ 十二月四日 於神戸基督教青年會館、同志社基督教青年會主催にて音楽會開かる。グリークラブの出演者、蜂谷、錦織、三宅、上野、東、原、大中、上出、杉田、徳江、露無、田中

岸田、平田、清水、川島、美濃部、小島、廣瀬、原田、濱田  
「詩篇九十八」殊により出来なりき。アンクルサム及びコール  
ジョンは拍手。

◆十二月二十二日 紀念傳道の爲め盡す所ありて、メトロノ  
ム及びタクト一箇贈られたり。

◆十二月二十四日 同志社教會クリスマスにて合唱。Gloria in  
the Highest

## 大正五年

大正五年十一月十八日大阪基督教青年會館でカーブ教  
授、シャイブリー教授、ジョールダン氏等の賛助出演を  
得てグリークラブのみの音楽會を開きました。此の音楽  
會も盛會でありました。多分此の利益金で當時グリーク  
ラブの本部の如くなつて居つた同志社大學青年會にオル  
ガンを寄附したのであります。

### ● 最初の同志社イーヴ

授て同志社イーヴの第一回は大正五年十一月二十八日  
(火)午後六時半から同志社音楽會として同志社公會堂に  
於て開かれたものであります。最初は同志社デー、イー  
ヴと言ひました。プログラムを書いて見ますと。

一、コーラス The Beautiful Land……全員

二、マンドリン合奏 Laggio Ti Luna プリムローズ

三、コーラス ジュニアークグリークラブ

A 村の祭

B ガリラヤ懐古

四、ピアノ獨彈 Burning of Rome

五、コーラス 白菊

六、オルガン獨奏

Prelude to Act III……Iohengrin

七、四部合唱 顔唱來吟詩

八、コーラス 荒城の月

九、コーラス

A 浦のあけくれ

B 野 狐

十、ヴァイオリン獨奏 ニーナ

十一、コーラス

A One day

B He was NUTS

十二、ピアノ獨彈

十三、コーラス

A The Bull Dog

B Symphony

十四、獨唱 Irish Names

Long ago Alcoln

ダビデクワイヤー

田島 光三

プリムローズ

田中 教授

グリークラブ

シャイベリー教授

十五、リーディング

ケリー教授

十六、コーラス Dostisha Song

全員

此の第一回の同志社イーヴも盛會で這入り切れないで入口の所に机等を持ち出して其の上につて見て居た人々がありました。此の頃には中學にも女學校にも合唱團が出来て居りましたし又大學の學友會にも音楽部と言ふものが出来て來ました。然し此處迄に至るには随分苦心がありました。

(記録簿より抜粋補充)

◆二月二十六日 富田講師葬儀にて讚美歌合唱。

◆二月二十六日夜 於同志社公會堂、同志社英語大會にて

Tippary 合唱。

◆第一回讚美禮拜

三月四日夜 於神學館。これは清水久男、錦織貞夫、三矢の

諸氏の送別音楽會であつた。會衆二百、司會東義男氏。

◆三月八日 於三條青年會館、クラーク博士講演會にて詩篇九

十八を合唱す。

◆三月十八日 第四十一回卒業式に於て合唱す。

◆五月二十日 於公會堂。第二回歌の夕(讚美禮拜)を催す。合

唱人員二十名。

◆六月一日 役員改選の結果次の如く決定す。コンダクター

(平田甫) 會計(徳江) 書記(小島應)

◆六月十一日(日) 同志社教會聖餐式にて四百三十八番を合唱す。

◆第三回歌の夕 六月十七日於公會堂。會衆二百。プログラム次の如し。

合唱 I am Thy Child

{ジュニア・グリークラブ  
グリークラブ

ホルネット獨奏

上田 雅孝

クオーテット

三宅、徳江、廣瀬、小島

Serenade

オルガン獨奏 The Burning of Rome

陳 清忠

マンドリン獨奏

美濃部 董

Traumerei

合唱

グリークラブ

Uncle Sam's Party

オルガン獨奏

清水 義孝

Funeral March

合唱 Farewell Song

グリークラブ

◆九月十八日 メダル出来る。三十五錢

◆九月十九日 青木先生來校、讚美歌唱法について學ぶ。

◆大讚美禮拜の開催。十月五日組合教會の總會開會中を利用して教師代員諸氏の爲讚美禮拜を開く、會衆五百。合唱曲目

(讚美歌三四、三五、一七〇、八三) 四重唱(七一三、二二

一、二三八、いづこかこよひ）青木氏獨唱（四三八、四六二）

◆十一月十八日 大阪Y・M・C・A・會館にて音樂會開催（前出）

同志社女學校同窓會より花輪の寄贈あり。

◆十一月二十八日 第一回同志社イーヴ（前出）

附記（第一回讚美禮拜については種々説あり、平田甫氏は十月五日の大讚美禮拜を以つて第一回とする旨申して居られますが、記録簿には五月二十日に第二回讚美禮拜をした旨明記してあり、又六月十七日に第三回歌の夕を催した記録があります。しかして記録簿には第一回讚美禮拜の記事がありません。原忠雄氏の御説に従つて三月四日の讚美禮拜を第一回としました。（古谷三郎）

## 大正六年

大正六年二月二十四日には再び名古屋にコーテットで遠征しました。此の時のプログラムには東京の小倉末子嬢のピアノ、神戸のドロセー夫人の獨唱等當時日本一流の音楽家に伍して出演したのでありますが不思議なことに學生らしい吾々の合唱が一番聴衆に興味を興へたらしく、数々のアンコールに面喰ひました。此は聴衆の大部分が學生であつたこと、西洋音楽は未だ發達して居らなかつた事にもよりませうが、又山下匡、原忠雄、平田甫

小島應のコーテットは大正五年來不變に練習を續けて全く四人の心が一つとなつて歌はれた爲だと思ひます。

### ●最初の滿鮮演奏旅行

大正六年四月十四日大阪府岸和田市にて音樂會が開かれ、此に出演の依頼を受けてコーテットにて行つた時、聴衆の中に小生の従兄なる滿鐵社員山岡信夫氏あり、合唱を非常に喜ばれ、是非夏期休暇を利用して滿洲へ來て貰ひ度いと希望せられたのが滿洲行の初めであります。數次の交渉の結果最初の考へとは大分異つたものとなりました。合唱の面白味といふ事が分らない爲、當時滿鐵社會課ではグリークラブを招聘することを躊躇せられ、合唱によつて社員に慰安を與へる事は難しからうと考へた様でありました。しかし山岡氏等の盡力により、且つ原田總長や、組合教會の西尾氏の勧めにもよりいよく滿洲演奏旅行を決定する事になりました。第一學期末試験終了の翌日なる大正六年七月七日午前八時出發、一行は獨唱者堀内清氏、オーガニスト大中寅二、コーテットは山下匡、原忠雄、平田甫、小島應の六名。途中岡山、

八幡、大邱、京城にて演奏をなし、十七日夕、安東に入  
りそれより安東、撫順、奉天、鐵嶺、長春、遼陽、大石  
橋で音楽會をして二十六日大連に入る。此の頃になると  
各所にての演奏會が好評であつたと見えて、演奏會の事  
は勿論一行の動靜までが日々新聞に出る有様、滿鐵の  
社會課も満足の態、私達も來た甲斐のあつた事を喜びま  
した。旅順、大連にて最後の演奏會を濟せ、二十九日大  
連發、歸途門司にて八月一日演奏會を開いて解散しまし  
た。此の旅行中もグリークラブの本分を守り能ふ限り、  
禮拜や日曜學校を應援しました。

かくて第一回滿鮮旅行が成功裡に終つたのであります  
此の旅行について岡山丹羽巖氏、門司高階福太郎氏、京城  
山本忠美氏、松本正寛氏、松本雅太郎氏、廣瀬常吉氏、  
安東稻葉氏、撫順矢部氏、山岡信夫氏、奉天庄山氏、山  
下永幸氏、清水安三氏、大連末光氏、旅順堀氏には非常  
に御世話になつたのであります（第一回滿鮮演奏旅行に  
關しては此の年の同志社校友會報に詳細なる報告が掲載  
されました。）



大正六年十一月二十八日には第二回同志社イーヴが開  
かれこれも非常な盛會でした。

大正二年以來だん／＼合唱が世間に理解せらるゝに従  
て諸方から出演の依頼を受け前記以外のもので、大津、  
膳所、八幡、名古屋、尼ヶ崎、岡山等に出て行つて居り  
ます。

大正七年二月九日には卒業生送別音楽會を開きました  
これはグリークラブのみのものでありましたが既に音楽  
も一般化した時とて會場に這入り切れず多數入口や外側  
に立つて聞て居りました。此の音楽會によつて二年間變  
らざるメンバーの前述のコーテットや多數の永き間のメ  
ンバーを送り出し、グリークラブも全く一新したと當時  
評せられて居りました。

又コンダクターも平田甫氏から水谷央氏に變つたので  
あります。

（記録簿より補充）

◆一月十三日 神戸女子傳道團の慈善音樂會に、平田甫、三宅

譲、原忠雄、小島應出演・コールジョン他数曲合唱。

◆二月十日 大阪青年會學生大會に出演合唱。三宅、山下、原廣瀬、平田、川島。

◆二月十七日 「卒業生送別歌の夕」開かる。

(第何回歌の夕なるか不明)

◆二月二十四日 名古屋演奏旅行(前出) 山下、陳、原、上出平田、廣瀬、小島、蘭川出演。

合唱曲目。ハツノ鐘、希望ノ島、コールジョン、アングルサムスパイティー他数曲。大盛會。大花輪を贈らる。

◆第八回歌の夕、五月五日夜、於公會堂。

◆六月二日 於公會堂。プリムローブクラブと合併にて卒業生送別音樂會を開く。グリークラブの曲目：片足チョンギレ、三ツノ小貓、カンタータ「ダビデ」中の戴冠式の歌その他数曲

◆第一回滿鮮大演奏旅行を行ふ。(前出)七月七日より八月一日まで。

◆第九回歌の夕(讚美禮拜) 十月十三日夜於公會堂、全員出演

◆同志社イーウ 十一月二十八日、於公會堂、音樂部、語學部合併。我クラブはカンタータ「ダビデ」の第一幕全部を歌ふ。

ダビデ(山下君) サムエル(小島君) エツサイ(平田君) 村人達(メムバー全部) 約二十五分を要し、全員コスチュームをつけて歌ひたり、大好評なること疑ひなし。

◆關西學生聯合音樂會へ出演。十二月一日 於三條青年會館。カンタータ「ダビデ」の一幕全部合唱。

## 大正七年より同八年まで

同志社女子専門學校教授 蘭 川 四 郎

大正七年三月に我グリークラブの指導者平田甫君が卒業されるや、その後を襲つたのは水谷央君であつた。ところが同君は健康と家事の都合でその後僅か一學期で退學されたので、私がその後任として指揮者になつた。同年九月のことである。

當時はグリークラブ全盛時代の直後であつたので、部員も流石に多かつた。毎晝の練習時には神學館の講堂の椅子がほぼ八分通り塞つたと覺へてゐる。五十名前後であつたらう。その中には大中寅二、湯淺永年、田島光三、古内廣武、陳清忠等の諸君があつた。なほこの頃同志社中學にジュニア・グリークラブが生れ大中寅二君が主として指揮の任に當つてゐたと思ふ。内田榮一、橋靜雄君等



この部員であつた。各地の招待音楽會、三條のY.M.C.A.クリスマス音楽會等の外、當時の行事であつた讚美禮拜、同志社イーブ音楽會等に夫々活躍し、効果を納めた。なほ大正七年のイーブ音楽會では、久しい懸案であつた男女合同のオール同志社合唱が歌はれた。これには女子部のミリヤムクワイヤ、男子部のプリムローズ、クラブ、グリークラブ、ジュニアグリークラブ等が合同参加し、大中寅二君が伴奏し、私が指揮をした。これが同志社に於ける始めての混聲合唱であつたらう。

大正八年に入つて私は學業が忙しくなつた上、丹波教會へ牧師代理として毎金曜から月曜にかけて行かねばならなくなつたので、残念ながらクラブを退いた。この私の退部の理由は極く少數の者にしか説明しなかつたので當時の部員には今尙不審或は不満がられてゐる向もあるらしいので、ここに附言して置く。

## グリークラブ第三歴史時代

大正八年—十二年

關東男性合唱聯盟理事  
東京リダーターフニル、フニライン指揮者

山口 隆俊

(山口氏の原稿は非常に長文なものでありますが到底その全部を掲載出来ませんので、氏の御了解を得て、約半分を省略致しました)

先輩平田甫、原忠雄、小島應、山下匡、大中寅二氏等の第一期、水谷、湯淺諸兄の第二期を経て、私達原忠明、津下統一郎、鈴木重敏君等四十余名兄弟の歌つた時代、是を第三歴史時代と名付けて見たのだ。

グリーが三十年誌を出す? 何だか不思議な氣もするが當然の様に思へる。ドイツの有數男性合唱團は五十年、百年、百八十五年の Festgedicht を持つてゐる。日本で此日が来るかどうか? 其は知らない。然しグリーが母校同志社と共に榮へる事が許され、亦男性合唱運動と民

族文化運動との關係に正しい認識を以つて、内を充實すると共に外に手を結ぶならば、斯くあるべく、又斯くあらしめたい。此の若い紀念誌を出版にする當り、グリー今後の成長をこそ祈る。

關東男性合唱聯盟はニュルンベルグの獨逸男性合唱者博物館の斡旋に依つて、獨逸での日本男性合唱最初の放送のために、文部大臣松田源治閣下の獨逸へのメッセーヂ、獨逸大使フォン、フォレッツチ閣下の挨拶、東京リイターフェルのシュニベルト作「我が里」「詩篇九十八」のレコードを來月送るが、茲に亦一つのプレセントグリークラブ三十年史を添へ得た事を編纂委員達に心から感謝せねばならない。

#### ◆ジュニアグリークラブ

私が中學の五年に進級した時、横濱禮志君と相談し、クラスの河村君、伊達君、三年生の鈴木重敏君、北小路功光君と同志社YMCAで合唱の練習を開始した。始めの練習に集つた人は十人前後、大中さんが指導に來られた。北小路君はヴァイオリンを専門家に習つて居られた丈に仲々樂典にくわしかつた。

一九一七年ジュニアグリー第一回卒業生送別紀念の寫眞を

見ると二十四人のメンバーが居た事が判る。其中で大學に進んで合唱を續けた人達としては大久保、喜多、古内、三輪、河村の諸君。奥應の横濱君、學習院の北小路君、關西學院の伊達君——皆んな其學校で活動した——小野君も居て仲々多士濟々、流石平田、大中兩氏の指導だけはあつたと今更に感謝する。此ジュニアのスタートに刺戟されて中學部にも亦一つの合唱團が生れた。ダビデと云ふ團體で、大阪の女學校の音楽の先生橋靜雄、ヴォーカルフォアアの内田榮一君、牧野、山田君等が中心であつた。

中學卒業後私は大阪へ去つたので、大正八年に再び同志社に歸る迄の事は知らない。グリークラブでは水谷、湯淺、喜多、古内君等が活動されて居たらしい。

#### ◆第二回滿鮮演奏旅行

大正八年に私は再び同志社に歸つて來た。私の入學と共に湯淺君は四重唱團を組織し、夏には滿鮮旅行に出た此の旅行での花形は小北(古内)君の口笛と田島光三君の提琴で、田島君の藝術は織情的テクニツクがエルマンをつくり、同志社に其人ありと認められたのは良かったが、或演奏會で、演奏最中に鼻の頭に蚊がとまり、兩手は使へず、藪尻みをやつて見たが蚊はブン／＼と笑ふば

かり、目を閉ちれば丸い鼻の頭がウズウズする、下唇を突出して吹き飛す苦心に満座の紳士淑女の涙を絞つたのは大笑だつた。宮島では三尺もある大杓子を買つて、アングルサムの演奏のバンジョウに使ひ大評判、此杓子は未だに太田黒君の處にある想だ。

或は熊本で皆んなの晝寝最中に、ハッキリ入つて戸を締めた瞬間、外の鍵が落ちて仕舞つて、呼べど叫べど答へるものなく、夏の日盛りに文字通りセンチ詰となつて閉口した事が今でも笑話に出る。尙熊本では現在帝都樂壇に活躍して居られる太田黒養二君が當時中學生で、我々の演奏を聞いて同志社に來られた事も筆に留めて置き度い。

## ◆第二回滿鮮旅行報告

大正八年七月四日より八月十五日まで。

|     |        |       |
|-----|--------|-------|
| 演奏者 | 第一テノール | 湯淺 永年 |
|     | 第二テノール | 山口 隆俊 |
|     | マンドリン  | 古内 廣武 |
|     | 第一ベース  |       |
|     | 口笛     |       |

|        |         |
|--------|---------|
| 第二ベース  | 陳 清忠    |
| ピアノスト  |         |
| 第一テノール | 田 島 光 三 |
| ヴァイオリン |         |
| 第二テノール |         |
| ピアノスト  | 陳 溪 埧   |

## 曲 目

- 一 三部合奏(ヴァイオリン、ピアノ、マンドリン)  
狩の歌……ウエーバー
  - 二 四部合唱 望の囁き……ホーソン
  - 三 マンドリン獨奏 (A)カバティナ (B)南の微風
  - 四 四部合唱 (A)漂流の歌 (B)Sailing Salins
  - 五 ヴァイオリン獨奏 (A)子守唄 (B)Gavotte
  - 六 Call John
  - 七 ピアノ獨彈 ローマの大火
  - 八 Toy Symphony
  - 九 口笛 夜の調べ……ゲノー
  - 十 四部合唱 (A)白菊 (B)吾國兵士
  - 十一 ヴァイオリン獨奏 ニーナの死
  - 十二 ピアノ連彈 Winner March
  - 十三 四部合唱 Uncle Sam's Party
- 岡山、門司、下關、長府、熊本、長崎、釜山、大邱、龍山、京城、仁川、水原、群山、江景、太田、平壤、奉天、大連、鞍山、遼陽、長春、寬城子、安東の各地に於て音樂會三十四、讚美禮

拜四回、その他數回を催す。(詳細は同志社校友會報大正八年度發行のものに記載しあり)



大正八年十二月四日には馬場基督教青年會主催の下にグリーとアポロ絃樂團が天津公會堂で合同演奏會を開いてゐる。アポロの方の顔振れば忘れてしまつた。或は山中金三郎氏のトリオではないかと思ふが、間違ひかも知れない。アポロといふ團體のあつた事は確かだ。

大正九年七月には新人の鈴木君を加へ、陳清忠、湯淺君と宮津へ演奏旅行をしたし、秋には古内君も加つて柿の名産地笠岡高等女學校に招かれた。

此年の京都樂壇は賑かだつた。ルシアンオペラが來てカルメン等を上演し、亦シヨルツ・リサイタルがあり、ニグロのフキスク四重唱團がシベリア出兵中の米國軍隊慰問の歸途、二月二十日チャペルで演奏した事等があつたからだ。



大正十年一月には湯淺君の卒業前ではあつたが、メモ

バー砂川千秋君の半歳に亘る御盡力で高知市に演奏旅行し、砂川牧師と濱本浩氏の並ならぬ御世話になつた。我々の演奏を撮影して市内の活動寫眞館で上映する等大騒ぎだつた。

二月二十六日には卒業生送別音樂會が開かれ、グリープリムローズ共に卒業生四重唱團が唱つた他、湯淺君がコルコフの雪娘の中から獨唱した。マンドリンクラブは此頃から菅原明朗氏を迎へ、全盛時代に入つたのだが、此の音樂會の曲目も相當なものだつた。

三月には大津高等女學校に招かれ、高井君は背廣服で出掛け、湯淺君も下手なネキタイを締めて行つた。

津下君は此年からグリーで活動し出したが、後年同志社一のマイスターになつただけに、双葉より香んばしい唱ひ振りであつた。

四月以後は愈々私が指揮者になつたが、ジュニヤード育つた鈴木、原、津下の三君が來たので、バートリーダーが揃ひ非常に幸福だつた。

此年には名會計富本武則君あり、古内君の後繼者、口

笛の名手蓬田君、加納君、チェロを弾いた直木君、現在ピアニストとして第一人者の宅孝二君等四十名の部員がゐた。又鞍馬画會の重鎮だつた故人村田輝彦君も協力して呉れ、現在でも歌の夕のプログラに使用してゐる木版を彫つて呉れた。その初版が金粉で印刷された時、クラツプ先生が米國へ送るのだから是非餘分に欲しいと云はれた程賞讃を拍したものだつた。

チェリスト高勇吉君が未だ上野の生徒だつたが、我々の詩篇九十八の合唱は上野以上だと褒めて呉れた事もあつたし、又柳兼子女史が初めてチャベルで獨唱したのも此頃だつた。湯浅君はロシア音楽小史を出版するのに急がしくしてゐた。

五月には江崎、直木、田中、江馬、郭、富木、原、津下、鈴木に私を加へ淡路洲本婦人矯風會の招きで演奏會を開いた。五月二十八日には岡山の北部教會婦人會に招かれ、田中進一郎、山中金三郎、宅孝二氏のピアノトリオを加へ演奏旅行に出發した。

宅君のピアノソロはモツアルトのハ長調ソナタ！ 私

達が何とか一人前の口を叩いて批評したが今にして思ふと恥しくなる。

六月には大阪の中央公會堂で關西學生合唱團七團體に器樂團も加つた演奏會が時事の主催で開かれた。亦此月京都では同志社Y・M・C・Aの主催で全同志社音樂會が三條青年會館で開かれ、グリーは水谷君編の四三六番と「二つのばら」を合唱した。

#### ◆第一回北陸北海道東北演奏旅行

七月には東北、北陸、北海道へ演奏旅行した。北陸は先輩喜多君及び津下君の父君の御世話になり、東北は蓬田君の母校東北學院の火災再築費募集のために行き、北海道は私が以前に居たし又先輩橋本、濱田光雄兩氏の御世話になつたものである。東北學院の伊藤教授には大變御世話になり、仙台では片桐御一家に御世話になつた。東北學院のエルトレモロ管絃團並びにフキツシャイ教授との合同演奏會は二千の來會者を集め盛況を極めた。

金澤は喜多君の御宅に泊り、新潟は長田先生、大塚醫學士、日銀支店長大塚小一郎氏の御世話になつた。名寄

札幌の思ひ出も懐しく、室蘭の故榎本牧師も忘れられない。酒田では同地の名物男三浦牧師が迎へて下さつた。

同地では中學校の焼失復興資金募集の爲に音楽會を開いた。(金澤、長岡、新潟、酒田、山形、秋田、弘前、青森、札幌、小樽、旭川、名寄、室蘭、野邊地、一ノ關、仙台、岩沼)の各地を経て、最後は東京靈南坂教會だつた。此がグリークラブ東京進出の最初だらう？ 大中さんが面倒を見て呉れた。尙ほ此の旅行にはギターリスト矢野君が随分働いて呉れたし賛助出演して呉れた。



此頃からグリーの進路が六ヶ難しくなつた。今迄は何を歌つても聴衆は喜んで呉れたが、もう倦きが來て喜ばなくなつたので選曲に苦心を感じた。初代の人々の味はなかつた苦心である。此を打開する爲、ドイツ合唱曲を研究し始め、直接外國から樂譜を取寄せる事に努力した。しかし當時の一般人は未だドイツの高踏的合唱曲には無知であり、アメリカ合唱曲をのみ愛唱してゐた。

十月には、洛陽教會女子青年會の主催で、グリークラ

ブ、マンドリンクラブ、森本花子さん、内藤ひな子さん、廣田咲子さんのピアノを加へて演奏會が開かれた。亡くなられた森本さんのスクリアピンのブルードと左手のみのノクターンが大變良つた。

大正十一年六月には、田中、山中、宅君のピアノトリオを加へ再び宮津で演奏し、又マンドリンクラブと共に大津公會堂で演奏會を開いた。マンドリンクラブは此年コンコロソで優勝し、曲目も充實してゐた。アマデイの船人の組曲があつた。

#### ◆勃海 黃海一周大演奏旅行

大正十一年七月五日より九月六日まで。

合唱者(山口隆俊、原忠明、津下統一郎、鈴木重敏、森本芳雄)獨唱、津下統一郎。マンドリン獨奏、山口隆俊。ピアノ獨彈、森本芳雄。

合唱曲目 Langh. boys, Langh, The Cooper's song,

Call John, Uncle Sam's Party

Come Where my love lies Dreaming, That  
Beautiful Land, Glory and Honor, Gloria in  
Excelsis.

他十數曲。

下關、門司、小倉、福岡、長府、釜山、大邱、京城、仁川、平壤、安東、撫順、奉天、公主嶺、長春、鞍山、湯崗子、遼陽、大連、旗順、北京、天津、青島、上海の各地にて三十四回音樂會開催、讚美禮拜十回。

各地の教會、日曜學校を應援す。(同志社校友會報大正十一年度紙に詳細なる記録あり、参照され度し)

大体此んな大演奏旅行が出来たのは、鈴木君の御一家が北京に居られたからで、それだけに御一家の御配慮は大變なものだつた。當初は北京、天津、青島、上海の各地全部演奏會可能の心算だつたが、色々な交渉の行違ひから一行が滿洲の旅行を終へて見ると、音樂會開催の確報があつたのは北京だけだつたので屹驚し、非常に心配した。現金は三百圓しか無い。山海關あたりを走る列車の中で半泣きになつた。食事も取らず、私と鈴木君は腹ペコで天津へ下車し、演奏會の交渉をした。他の人達は食事をするため一路北京の鈴木君の家へ落ちのびたのだつた。天津の方は日本人會幹事木村氏に相談すると、日

本人歸國不能者並の取扱で、會場を無料で貸して呉れたので、吾々獨力で音樂會を開く事にした。入場券もプログラムも發行出来なかつた。

處が北京の演奏會は大成功だつた。外人が喜ぶ事何度もアンコールだ。司會者の挨拶も英語で氣が利いてゐた會場が非常に良く餘り氣持が良くて鈴木君は自分の獨唱のパートを忘れてしまつた。此成功は直ぐ天津に報知されたので、以後各地とも豫定通り演奏會は盛會續きの中に終つた。天津、青島、上海何れも大變な盛況だつた。演奏旅行の成功不成功は首都の評判如何によつて決定せらる。

(山口氏の原稿には天津、北京、青島各地の新聞批評の切抜が貼つてありますが、その中の一つ、天津英字新聞の記事を轉載致します。)

#### Concert By the Doshisha Glee Club

On Saturday the Doshisha Glee Club gave a concert at the Public Hall before a most appreciative audience. The members seemed very young and displayed great talent for and love of music, especially evidenced in the case of Mr. Morimono, the pianist, who played a

composition of his own. The voices were extremely sweet, and though not powerful well produced, Mr. Yamaguchi's Mandoline solos were very well received and he responded to enthusiastic encores.

此の演奏旅行により百圓ばかりの基本金を得て歸京した所、名會計富本君がインチキ銀行へ預金したのは良いが、その銀行が破産したので回収不能になつてしまつた。

#### ◆本邦初演

一方此年の四月からメンデルスゾーン作品六十八「藝術の使徒へ捧げる祝祭歌」の本邦初演をする爲、猛練習を重ね、同志社イーヴに三輪君の指揮の下に三拾五名で合唱した。しかし余り緊張しすぎたのと、ピアノの位置が悪かつた爲大失敗した。此の失敗は翌拾二年四月の神戸の演奏會で償つたが、立派な出来ではなかつた様だ。

私の卒業後森本君の指揮により、一九二五年のイーヴに本式にプラスオーケストラ附で演奏し大成功した想だ

#### ◆第一回台灣、九州演奏旅行

大正拾二年七月七日より一ヶ月、九州、台灣地方へ、マンドリンクラブ、プリムローズクラブ、グリークラブ

合同二拾名ばかりが演奏旅行し、學校を代表して片桐、速水兩教授が同行された。内地は長崎、福岡、台灣は台北、淡水、嘉義、台中、台南、高雄の各地で演奏した。

グリークラブの合唱曲目。雁の叫び、桶屋の歌

Seit den Kunt. Gloria……(Mozart)

墳墓の寂漠、今日より聲合せ……(ターナー)他數曲。

最後に長崎のプログラムに記述された、吾々の紹介文の一端を轉載して筆を擱きたい。

「洛陽に傳統を誇る、同志社大學の聲樂はカレッツジアンコーラスとして他の迫從を許さぬものであります。更に同大學のマンドリンクラブは昨秋の東都に於ける全國マンドリン競技會に於て優勝の桂冠を克ち得ました。眞摯なる四拾七名の音樂巡禮行！ 南國の夏の一夜を若さと力に満ちた男性の聲と藝術に心ゆくばかり浸り給へ」  
母校の兄弟よ、音樂の民族大衆運動を起せ！！

(グリークラブ記録簿よりの抜萃)……筆者不明……

(山口氏の原稿に記載されてゐない事のみ)



◆大正八年五月三十一日 於京都Y M C A慈善音樂會

(一) 合唱、日本海軍 ジュニヤークリー

(二) マンドリン合奏 プリムローズ

(三) 四重唱 コールジョン グリークラブ

(四) 提琴獨奏 田島 光三

(五) 合唱 森のこだま グリークラブ

(六) 獨唱 グラフトン夫人 プリムローズ

(七) 合唱 吾は海の子 プリムローズ

(八) 合唱 いざ歌はん グリークラブ

(九) マンドリン合奏 プリムローズ

(十) トーイシムフォニー ミリヤム、クワイヤー

(十一) 合唱 プリムローズ

(十二) 合唱 シヤイベリー夫人

(十三) ビヤノ連弾 シニューメーカー氏

コールジョンは二回のアンコールを受けた。ミリヤムクワイヤーとジュニヤークリーは上出来でなかった。

◆第十二回歌の夕、六月十四日 何しろ新會員が多く Key off する者が大分居るので大變心配したが結果は大好評だった。平田兄等が卒業して一時人氣がゼロになったがヤット舊來のグリークラブに戻った感がある。

◆同志社イーヴ、十一月二十八日 場所狭く殊に中學生との間に入場の事より争を生じ、中學生暴れ、場内やかましく往生

せり。年一度の楽しいイーヴもワヤクチャである。

プログラムの次の如し。

(1) オークストラ アポロツサイテイー

(2) 合唱 Natures Baiso Joy come with Song

(3) 合唱 グリークラブ

(4) 獨唱 ミリヤムクワイヤー

(其他省畧) シヤイベリー教授

◆十二月六日 青年會主催の歌の夕にて

Natures Baiso.....Mendelssohn

を合唱す。山口、古内ズボレリ。特に古内の如きは和服のまゝ知らぬ顔にて聞いてゐた。實に失敬の極みなり。

## 大正九年

◆二月二十八日 卒業生送別音樂會、グリークラブの曲目次の如し。

合唱 Solo Profugo..... From "Marta",

ブルドック、送別の歌

四重唱 サム伯父さんの宴會

提琴獨奏(田島光三) Concerto.....Saitz

トーイシンフォニー「ウオターローの戦」

山口、演奏會前にソロー・ブドウグウの樂譜を失ひ大失態。ブルドックは久保田余りに茶目すぎたり。送別の歌は例によ

り多大の感をあたへたらん。トリーシンフォニーは茶目つて無茶苦茶になつた。

◆五月十三日 海老名總長歡迎音樂會に出演。主催女學校、於公會堂。曲目、詩篇九十八、コールジョン其他。

◆第十四回歌の夕を六月十二日に開く。

◆七月十四日 尼港事件遭難者遺族慰問音樂會、於大津座。聴衆低級なりき。

◆九月 ビルグリム、ファザース三百年祭にて山口、喜多村、富本 鈴木出演(於市公會堂)

◆組合教會總會大講演會に Hallulah for the Cross 合唱。於市公會堂。

◆十一月二十七日 全員三十五名、神戸女學院にて音樂會開催。聴衆五百。古内の口笛、山口のマンドリン、四重唱(湯淺、山口、古内、鈴木)は再三アンコールを受く。

非常なる好評を拍し、關西學院など足下にも及ばぬとの事。同志社女學校同窓會神戸支部より花輪の寄贈あり。

又先輩水谷典、三宅譲、奥村龍三氏のトリオありき。

◆十一月二十九日 同志社イーヴ、於市公會堂。聴衆三千。四重唱は例によつてアンクル、サムをやつたがアンコール攻めに違ひ閉口した。

◆十二月五日 大阪中央公會堂。樂夕會主催の音樂會に出演。聴衆四千。吾々の他に東京音樂學校教授シヨルツ氏のピアノ

達和第一氏の提琴ありき。クリーの曲目はアンクルサム他數

曲。アンコールを受けたが聴衆はダラシがなかつた。

## 大正十年

◆一月十七日、十八日 於大阪中央公會堂。歌劇「タンホイゼ」(指揮山田耕作氏)の上演に四名出演す。合唱は近衛子爵

令息、演技は土方與志氏に指導を受く。吾々の役は巡禮であつた。聴衆四千、日本最初の催しだけに社會の注目を引いた。

◆一月二十七日 クラブ總會を開く。司會永島君。選舉の結果役員次の如く決定す。

指揮者(山口) 會計(富本) 書記(鈴木) 印刷(津下、中江)

◆一月二十三日 山室軍平氏講演會にて合唱す。於公會堂。

◆大津高等女學校、女子師範學校主催の音樂會へ湯淺、山口、古内、鈴木の四名出演。提琴家達和第一氏他關西樂壇の權威者多數出演せり。

◆第拾五回歌の夕 二月十二日

◆二月二十六日 カープ教授特別音樂會へ出演す。カルテットは高井 湯淺、古内、喜多なりき。

◆五月十四日十五日 淡路湖本教會にて演奏會、甜美勝拜を開く。一行十一名。

◆同志社イーヴ Toast raising audio Kunsler 本邦初演メンバー指揮三輪雅夫。四重唱(山口隆俊、原忠明、津下統一郎、鈴木重敏)第一テノール(深江利三郎、劍持義雄、直木潤一、岡崎幸藏)第二テノール(新井信光、江馬文夫、麓邊三、美浦三郎

## 大正十三年

細木直之記

村田輝彦、永田豊三郎、中江温、中村敏和、太田達男、岡本直雄、鈴鹿秋夫、野崎嘉三郎、宅孝二、バリトーン(板原利秋、細木直之、磯貝勇太郎、瀨野正臣、田嶋鶴之助、富本武則、蓬田徳治)バス(江崎泰三、加納義男、片桐京、堀井隆吉、高橋虔、郭青年)

## 大正十一年

- ◆四月十五日 於大阪中央公會堂、同志社大音楽會、主催同志社婦人会。出演者 獨唱(會我部靜子)提琴(栗原太治)セロ(伊達三郎)ピアノ(海老名みち子)同志社マンドリンクラブ。グリークラブ。グリークラブの曲目(桶屋の歌、才女、愛の夢、流浪)
- ◆六月十日 於大津公會堂。大津組合教育主催の大音楽會へ出演、入場料二圓、一圓、五十錢、出演者ピヤノ(片岡晴太郎)獨唱(守邦かほる)同志社グリークラブ及びマンドリンクラブ。
- ◆十一月十一日 於市公會堂。プリムローズ、グリークラブ、マンドリンクラブ合同大樂音會開催。入場料二圓、一圓、グリークラブの曲目、詩篇九十八、他四曲。
- ◆同志社イープ(十一月二十八日) グリークラブの合唱曲目  
四重唱 Mother Goose, Masses in be Cold ground,  
合唱 Gloria in Excelsis .....Mozart

## 大正十二年

- ◆一月二十七日 於市公會堂。關西大學高専聯合大音楽會、主催京都YMCA、出演団体次の如し。  
同志社(グリークラブ、マンドリンクラブ、プリムリーズクラブ)龍谷大學合唱團、大谷大學(ハーモニカバンド、マンドリンクラブ)京都高等工藝合唱團、神戸高等商船合唱團、帝大三高合同絃樂團。

- ◆二月十七日(夜) 於同志社公會堂、卒業生送別音楽會開催。參加団体は大學音楽部各部、中學ホザナクラブ及びシャイベリー教授、女學校は參加しなかつた。
- ◆二月二十三日 於公會堂、第二十一回讚美禮拜開催、會衆二百、合唱人員二十七名、讚美禮拜後かぎ屋に於て卒業部員(山口、太田、蓬田、江馬、江崎の諸氏)の送別會を開く。
- ◆五月十四日(夜) 於同志社青年會、クラブ總會を開く役員改選の結果次の如く決定す。  
指揮者(森本芳雄) 支配人(鈴木重徳) 會計(津下統一郎) 書記(細木直之) 印刷(伊藤新太郎、池田肇左右)
- ◆六月十二日 同志社公會堂に於て、第二十二回讚美禮拜を開く。參會者二百名、成績不良であつた。  
ユニオンカフェにて慰勞會を開く。
- ◆九月二十一日 組合教會總會大講演會に於て、京都組合聯合聖歌隊と合して合唱す。指揮は水谷央氏、会場は市公會堂。
- ◆九月二十七日 於市公會堂。同志社高商學友會基金募集の爲、高商音楽部主催の下に全同志社大音楽會開か

る。流石高商は商賣上手。頗る盛會。グリーククラブの合唱人員三十名。電車乗車券と菓子箱が配布された。

◆十月十七日 於神戸基督敎青年會館。マンドリンクラブと共に音樂會を開く。

メンバー次の如し。(森本、竹内、直木、山田、岡崎、池田、秋間、坂本、美苗、津下、細木、荒井、角田、南本、伊藤、田嶋、鈴木) 聴衆三百。

合唱曲目

Holy art Thou .....(G. F. Handel)

Schafer's Sonntagssied.....(C. Kreutzer)

Vintage Song.....(F. Mendelssohn)

Forever Blessed.....(F. Mendelssohn)

Somebody's Here with an Aching Heart

(R. Harpness)

Jagerlied.....(Aug. Pohlang)

Selt den Knut.....(Grieg)

Festal Song.....(F. Turner)

バリトーン獨唱

津下統一郎

Still wie die Nacht .....(Care Bohn)

Non e' ver .....(Tito Matei)

◆十一月一日 高商ハーモニカクラブと共に菊花女學校に於て音樂會を開く。

◆十一月九日 於大阪中央公會堂、阪神クラブ主催の同志社音樂會開かる。

参加團體……大學、高商兩音樂部。グリーククラブは廿四名出演。Selt den Knut, Vintage Song 合唱。

◆同志社イーヴ音樂會、恒例により十一月二十九日市公會堂にて開催さる。グリーククラブは三十四名にて合唱マンドリンクラブはコンコルソ出場の爲東上したのでイーヴには出演しなかつた。

◆十二月四日 市公會堂に於て關西學院音樂部の音樂會が開かれ、これに賛助出演した。

出演團體は、關西學院音樂部、柳傘子夫人、同志社グリーククラブ及び同志社マンドリンクラブ。

グリーククラブの曲目、船路……メンデルスゾーン作品五〇番の四。

◆十二月五日 於公會堂、全日本マンドリンオーケストラ競演會に於て優勝した同志社マンドリンクラブの爲祝勝會が開かれた。

◆十二月六日 同志社音樂部名古屋演奏旅行。これは同志社五十年紀念宣傳運動の爲に行はれたものである。

引卒は片桐教授。

一行はマンドリンオーケストラ、男聲合唱團、シャイペリー教授、同リ、アン嬢。グリークラブからは十名參加した。會場は門前小學校講堂。

## 大正十四年

伊藤新太郎記

◆一月七日より十一日まで、マンドリンクラブの一行に加つて九州地方演奏旅行を行ふ。

◆二月二十五日午後 於チャペル、卒業生送別音樂會開かる。

◆二月二十七日 第二十三回讚美禮拜を開く。會場は神學館、不出來だつた。

◆三月 村田輝彦、池田準左右、新井信光の諸氏を卒業部員として送る。

### ◆同志社音樂部、東北地方演奏旅行。

一行はマンドリンクラブ及び同志社クワルテット。クワルテットメンバー次の如し。太田黑薙二(プリムローズ) 秋間勝二(グリー) 津下統一郎(グリー) 鈴木重敏(グリー) 旅程左の如し。

四月二日 靜岡市にて音樂會。

ク 四日 東京青山青年會館にて音樂會。

ク 六日 仙台東北學院にて音樂會。

ク 八日 酒田町公會堂にて音樂會。

ク 九日 鶴岡市にて音樂會。

ク 十日 秋田市記念會館にて音樂會。

東京に於ける音樂會には同志社出身の會我部靜子、内田榮一大中寅二の諸氏が出演せられ非常に盛會であつた。

◆五月三十日 於伏見十六會館、同志社大學音樂會開かれ、グリークラブも出演す。主催菊花女學校。

◆六月十三日 日露親善音樂會にて津下統一郎氏獨唱す「死と少女」シユウベルト作、非常によい出来であつた

◆第二十四回讚美禮拜開かる。六月十四日於チャペル。

◆九月二十六日 大津文化學校主催になる音樂會へ出演

◆十一月二十日 堺市公會堂に於ける音樂會へ出演。(津下、秋間、鈴木、伊藤、森本) 主催堺幼稚園。

◆十一月二十一日 於大阪中央公會堂。同志社阪神學生會主催にて全同志社音樂會開かれ、グリークラブより同志社カルテットのメンバー(津下、秋間、鈴木)出演す。

◆同志社イーヴ音楽會、十一月二十八日(晝夜二回)  
於市公會堂。

同志社開校以來空前の大音楽會であつた。即ち出演者を記せばグリークラブ、プリムローズクラブ、マンドリンクラブ、シンフォニー、ハーモニカ、女專コーラス、女學校普通部コーラス、中學ホザナクラブ、及び初めて組織せられたる同志社混聲合唱團の他に、柳登子女史、竹内順子女史、曾我部靜子嬢、内田榮一氏、シャイベリー教授、カール教授等の出演があつた。

グリークラブの合唱曲目は

*Festgesang an die Künstler... Mendelssohn*

京都二中のプラスバンドに伴奏して貰つた。上乘の出来であつた。混聲合唱の曲目はヘンデルのハレルヤコーラス。

◆十二月 クラブ總會開かれ、役員改選の結果次の如く決定す。

指揮者(森本芳雄) マネージャー(伊藤新太郎) 會計(直木潤一) 書記(日下部濤洲太郎) 印刷(伊藤新太郎)

## 大正十五年

伊藤新太郎記

◆二月二十二日 恒例の「卒業生送別音楽會」に出演。  
曲目、別れの歌。

◆第二十五回讚美禮拜 二月二十六日夜、會場神學館。

◆三月二十一日 卒業式に於て「送別の歌」を合唱する。

グリークラブの卒業部員

鈴木重敏、津下統一郎、深江利三郎、中村達三、細木直之。

◆六月六日 六波羅小學校にて合唱す。

◆六月十八日 第二十六回讚美禮拜を催す。良好な成績を納めた。

◆第四回朝鮮滿洲大演奏旅行、七月四日より七月二十六日まで。引卒片桐教授、メンバー(森本芳雄、直木潤一、伊藤新太郎、秋間勝二、太田黒養二、伊藤榮、副田壬一)

朝鮮各地より滿洲に入り大連にて解散す。大体旅行日程は第一回第二回の滿鮮旅行と同様なれば掲載せず。

◆十一月二十六日 同志社イーヴ音楽會(晝夜二回)市公會堂にて開催さる。

グリークラブの曲目

*Trübsal des Schenkensieders... Mendelssohn*

混聲合唱曲目

指揮 シャネツプ女史

Heavens are telling the Glory of God  
from "Creation".....Haydn

◆十二月 役員改選の結果次の如く決定す。

指揮者(山田基男) マネージャー(伊藤新太郎)  
會計、書記(大丸武一)

昭和二年

伊藤新太郎記

◆三月二十一日 卒業式にて送別の歌合唱す。

グリークラブの卒業部員左の如し。

(直木潤一、岡崎幸藏、美浦三郎、山田健三、中村敏和、野崎嘉三郎、瀬野正臣、高橋虔、秋間勝二、坂本喜多男)

◆六月十七日 第二十七回歌の夕を開く。

◆十一月二十八日 同志社イヴ音楽會、於市公會堂。

主なプログラム次の如し。

① マンドリンオーケストラ

(A) Plaisir d'Amour.....G. Martin-S. Ranieri

(B) Le Astuzie Femminili.....D. Amara-B. Mascelli

② 男聲四重唱

③ ビアノ獨彈

④ 男聲合唱

ジムミールカルテット

津下 經子嬢

ホザナクラブ

⑤ ソプラノ獨唱

Valzer di Musetta from the "La Bohème"

竹内禎子夫人

⑥ 女聲合唱 牧場の秋

⑦ 男聲合唱

指揮 柳 兼子夫人  
プリムローズクラブ

The Radiant Morn.....H. H Woodward

⑧ 管絃樂 スパニッシュ・セレナーデ

⑨ ハーモニカ・オーケストラ

La Cazza Ladra.....Rossini

⑩ 女聲合唱

女專グリークラブ

⑪ バリトーン獨唱

シャイベリー教授

⑫ 男聲合唱

グリークラブ

⑬ 希望の島、詩篇九十八

指揮 森本 芳雄

⑭ ビアノ獨彈

奥山 俊子嬢

⑮ 女聲合唱

指揮 竹内禎子夫人

Chorus of the Philistines.....Saint Saens

⑯ アルト獨唱

柳 兼子夫人

"Ah non fils" from the "Prophet".....Meyerbeer

⑰ 混聲合唱

指揮 シャネツプ女史

1) Greeting to Spring.....I. Strauss

2) Hallelujah from the "Mount of Olives".... Beethoven

◆十二月六日 於市公會堂、同志社高商校舎移轉新築起

工紀念全同志社音楽會へ出演。(プログラムは大休イ

1 ヴと同じ)

◆十二月 役員改選の結果次の如く決定。

指揮者(山田基男) マネージャー(荒井清) 會計、印刷(大丸 武一) 書記(千葉温)

昭和三年

千葉 温 記

◆上海演奏旅行

マンドリンクラブ、ハーモニカソサイ

テイ、男聲合唱團(グリー、プリムローズ)参加、

三月三十一日及び四月一日…於日本人クラブ、

四月二日…於中國青年會館。

プログラム次の如し。

① マンドリンオーケストラ

(A) 抒情的間奏樂……………フアルボ作

(B) 今日の喜び……………武井守成作

② 男聲合唱

愛の夢……………フオスター作

③ ハーモニカオーケストラ

アル、の女……………ビゼー作

④ マンドリンオーケストラ

エカールヴの嘆き(交響樂詩)…………ラウダス作

⑤ 男聲合唱

雲の柱もて (讚美歌)

水車……………ツエルナー作

⑥ ハーモニカオーケストラ

スペインの小夜樂……………ビゼー作

アラビヤの舞曲……………チャイコスキ作

⑦ マンドリンオーケストラ(附合唱)

麥祭……………マチヨツキ作

⑧ ハーモニカオーケストラ

ゼヴィラの理髮師……………ロツセニ作

(以下省略)

◆三月二十一日 例年の如く卒業式に於て送別の歌合唱

グリークラブの卒業部員。森本芳雄、伊藤新太郎、佐

野英雄の三氏。

◆五月九日 新入生歡迎音樂會開かる。於チャペル。

◆五月十八日 瀬田川の校内ボートレース大會に出場、

馬術部に惜敗す。メンバー

(山田、宇野、千葉、加藤、松島、日下部)

◆五月十九日 京都基督教青年會主催、市内各教會聯合

讚美禮拜に出演。



## ◆第二十八回讚美禮拜(キヤンドルサーアービス)

六月二十二日於チャペル。

## 合唱曲目

Prayer (Gounod),

Es ist ein Ros' entsprungen,

Hailen Roslein (Werner), Festalson (Turner)

Gloria Patri (Bach), 他六曲

讚美禮拜後、森本芳雄氏渡米送別會を開く。

## ◆第五回滿洲朝鮮演奏旅行、七月六日京都發、

八月六日神戸歸着。(別稿参照)

メンバー(酒井、千葉、阿部、松本、荒井、中村、

山田、宇野、海老澤)

京城、平壤、安東、奉天、公主嶺、長春、四平街、撫

順、遼陽、大連の各地で音楽會開催す。

## ◆十月二十日、二十一日 丹波地方演奏旅行。

(人員二〇名)

廿日檜山小學校、廿一日關部町公會堂にて音楽會、

國部教會にて讚美禮拜。

合唱曲目(詩篇九八、歸雁、雲の柱、みいつあれ、望の局、

秋祭、その他六曲)四重唱(コールジョン他三曲)

獨唱……酒井美智男氏(女馬子唄、他一曲)

## ◆有終館出火の爲、同志社イーヴ音楽會中止となる。

## ◆十一月二日 於大阪朝日會館、大阪朝日新聞社主催。

御大典奉祝大合唱會へ同志社混聲合唱團(百名)出演。

指揮 竹内禎子女史

曲目 Ave Verum Corpus……Mozart

祝歌 (Faulhauser)……Wagner

參加團作(關西學院、銀鈴會、大阪高工、神戸高商、セレス  
ティーナ、若葉會、大阪商大、大阪外語、アサヒコーラス及  
び同志社)

## ◆役員改選の結果、昭和四年度役員次の如く決定す。

指揮者(山田基男) 音楽部理事(荒井清) マネージャー(酒

井美智男) 會計、印刷(大丸武一) 書記(海老澤宣道)

## 昭和四年 海老澤宣道記

## ◆同志社混聲合唱團(八十名)東京演奏旅行(別稿参照)

## ◆二月三日 午後七時半京都發

## ◆二月四日 日本ビクター會社にてレコード吹込。

## ◆二月五日(夜)於日本青年會館、音楽會開催。獨唱竹内禎子女

史、混聲合唱、同点社混聲合唱團、男聲合唱：グリークラブ

- ◆二月十一日 グリークラブ、クワルテット（酒井、松本、荒井、山田）大坂四貫島セツトルメントにて音楽會を催す。

◆第二十九回讚美禮拜

二月十五日（夜）於チャペル。會衆四百名、盛會であつた  
合唱曲目

Deutsche Messe .....Schubert  
Zum Eingang, Zum Gloria, Zum Credo  
Zum Offertorium, Zum Sanctus,  
Nach Der Wundlung, Zum Agnus Dei, Schlussgesang,  
Dorchen .....Schubert.....op 11 No. 1  
Betti Morini .....Mondissolun 他三曲

- ◆卒業生送別音樂會、二月十三日例年の如くチャペルに於て開かる。此の音樂會は野次猛烈を極はめた。

グリークラブの曲目

Das Dorchen .....Schubert 伴奏 荒井清君

卒業部員（田島守人、手代木文、竹内信、日下部満洲太郎）

◆沖繩演奏旅行（別稿参照）

- ◆三月三十一日於那覇日本基督教會讚美禮拜を行ふ

◆四月一、二、四日 於那覇市公會堂。三日首里市師範學校に於て音樂會開催。曲目次の如し。

◆合唱 詩篇九八、夜樂（シニルツ） 兵士の合唱（マクグラナハン） 郊宴の歌、他五曲

◆四重唱 望の囁き、愛の夢、コールジョン、アンクルサムス  
パーティー、鐵道開通、他數曲

◆マンドリン四重奏 ミルタリヤ、侯爵夫人邸にて、ミレーナ  
カイロの想出、他數曲

◆バリトーン獨唱 上家源氏、ピアノ伴奏 荒井清氏  
ガディツシユ（ラヴェル） マルモツテ（ベイトフエン） 夕映  
の中に（シニベルト） 他四曲

此の音樂會の會計決算書がグリークラブに残つてゐるから掲載して見る。

| 収入の部           |          |
|----------------|----------|
| 會員券 賣上高(2675枚) | 1,022.40 |
| 座席料 その他        | 95.40    |
| 収入總計           | 1,117.80 |

支出之部

|                           |          |
|---------------------------|----------|
| 同志社音楽部員 旅費(京都一那期間)        | 11月 23日  |
| 宿泊費                       | 182.00   |
| 接待費                       | 96.55    |
| 同志社音楽部への謝禮                | 80.00    |
| 会場費                       | 112.52   |
| プログラム費                    | 100.00   |
| 廣告費                       | 62.05    |
| 通信費                       | 21.18    |
| 其他                        | 60.92    |
| 支出總計                      | 1,006.45 |
| 差引 殘高 (那期日本基督教會 同日曜學校の收入) | 111.35   |

◆五月三、四日 同志社騒動に於ける學生ストライキ資金募集特別音楽會へ出演。入場料三〇錢。

グリークラブの曲目、モテツテ(ネーグリー)及び上家漁氏の獨唱。

◆六月十二日 大阪梅田教會にて讚美禮拜を催す。

◆第三十回讚美禮拜 六月二十一日午後七時、於チャペル、會衆三百五十名、盛會であつた。

曲目 "Invocation".....Mendelssohn

I Chorale II Allegro Moderato

III Allegro Molto III Chorale 他六曲

◆上出雅孝氏獨唱會主催 十月十一日、於華頂會館、聽衆五百。

◆市内各教會聖歌隊聯合讚美禮拜 十一月二十五日、於三條青年會館。京都、洛陽、平安、聖アグネス各聖歌隊、同志社大學グリークラブ、同志社女專グリークラブ、ミリヤムクワイヤ、同志社高女フレンドリークワイヤ、參加。

◆同志社イーヴ音楽會 十一月二十七日晝夜二回、於市公會堂。

グリークラブ合唱曲目

Beati Mortui.....Mendelssohn

Invocation 全曲.....Mendelssohn

混聲合唱團合唱曲目

From the Oratorio "Elijah".....Mendelssohn

指揮 クラツプ女史

a) He that shall endure

b) For He shall give His Angelic Charge over Thee

◆十二月一日 於三條青年會館、山室軍平氏講演會にて合唱。

◆第三十一回讚美禮拜 十二月六日、於チャペル、會衆二百五十名。

合唱曲目

Weinachtlied .....Deutsche Volksweise

Lacrimosa .....Requiem M esse

Gloria to God .....Mendelssohn

Kyrie El isch .....Folmer

Journey of Shepherd .....ramp

獨唱

上家 漁氏

曲目 Ave Maria .....Franc

Song of Hebrau .....Ravel

Kaddisch ..... ♪

◆十二月 役員改選の結果次の如く決定す。

昭和五年度役員

マネージャー(酒井美智男) 指揮者(山田基男)

會計(原田

篤) 書記(海老澤宣道) 印刷(宮本光夫)

## 昭和五年

海老澤宣道記

◆一月二十九日 於チャペル、卒業生送別音樂會へ出演す。

◆第卅二回讚美禮拜 二月二十二日夜、於チャペル、會衆百五十名。

合唱曲目 Commit Thou all Thy Griefs.....(Haydn)  
他五曲

◆三月左の卒業部員を送る。

宇野勇次、千葉温、阿部勝、伊藤昌義、大丸武一、佐敷重雄

宇田俊雄、上家照、松本淳、中村正一、星野三雄、海老澤有道

◆五月十六日 同志社學生クリスチャン聯盟主催の下に中學ホザナクラブ、女専ミリヤムクワイヤー、大學グ

リークラブの聯合讚美禮拜開かる。於チャペル、

會衆三百、奏樂・迎君子嬢。

◆新入生歡迎音樂會 五月二十四日、於チャペル。グリークラブの合唱曲目、オツフェルリード(ベートベン)邦樂部が尺八と三味線を一時間もやつたので、マンド

リンクラブやプリムローズが怒つて歸つてしまつたのは滑稽だつた。

◆第三十三回證美禮拜 六月二十五日、於デヤベル。ホザクラブの賛助出演があつた。合唱人員三十六名。合唱曲目次の如し。

Welke Lied……W. A. Mozart

Opfer Lied……L. Beethoven

O Bone Jesu (Palestrina) 他七曲

# 臺灣演奏旅行

七月十五日京都發、八月一日神戸歸着、台北、台中、台南、高雄、虎尾、嘉義その他各地に於て音楽會開催メンバー次の如し。

グリークラブ (酒井美智男、江村健三、井田襄司、岸田治夫、宮本光夫、島本裕二、荒井清、中村正一、松島秀郎、山田基男、海老澤宣道)

マンドリンクラブ (西村保正、久保田是達、山口弘、山崎喜三郎、北村恵三)

◆十月二十九日 賀川豊彦氏大講演會にて合唱す。  
會場、市公會堂。

◆十一月十三日 海老名彈正氏講演會にて合唱す。  
會場、三條青年會館。

◆同志社創立五十週年紀念大音楽會 十一月二十七日 (晝夜二回) 於市公會堂。二十八日(夜) 於日出會館。グリークラブの合唱曲目

„Das Dorfchen……Shubert

ピアノ伴奏 荒井清氏、合唱人員三十六名。

混聲合唱曲目 From Oration „Elijah“……Mendelssohn

„Baal, We cry to Thee“

„Hear our cry oh Baal“

„Cast thy burden upon the Lord“ 他二曲

指揮 クラブ女史、獨唱 シャイベリー教授  
此の年から中學ブラスバンド及び大學邦樂部がイヴに出演する事になつた。

◆十一月二十九日 役員改選の結果、昭和六年度役員次の如く決定す。

指揮者(岸田治夫) マネージャー(荒井清) サブマネージャー、印刷(宮本光夫) 會計(島本裕二) 書記(古谷三郎)

◆十二月 關西學生合唱聯盟結成さる。

# 昭和六年

古谷三郎記

◆一月十六日 於大阪朝日會館

## 第一回學生合唱聯盟音樂會へ出演、參加團體

(同志社グリーククラブ、プリムローズ、關西學院、大阪外語、大阪醫大、大阪高醫、大阪商大、大阪藥專、神戸高工)  
同志社グリーククラブの合唱曲目

Das Dorfchen... Schubert

指揮 山田基男君、伴奏 荒井清君、人員三十名、  
合同大合唱曲目

オツフェルリード……(ベートーベン)

吾等祖國を愛す……(ノルウェー民謡)

指揮 長井齊氏、總員三百名。

◆第三十四回歌の夕 二月十四日、卒業部員、酒井美智男、渡邊晋、原田篤の三氏を送る。

◆四月十八日 全日本日曜學校大會にて、詩篇九十八、モテツテ合唱す。

◆岡山、倉敷へ演奏旅行を行ふ。五月九、十日

メンバー次の如し。

(酒井美智男、江村健三、井田襄司、岸田治夫、宮本光夫、島本裕二、荒井清、太田三郎、古谷三郎、山田基男、海老澤宣道、中村信一) 以上グリーククラブ。(西田直道、久保田是造、山口弘、金居四郎、岩間藤一) 以上マンドリンクラブ。合唱曲目、ドイツミサ金八曲、モテツテ(ネーゲリー)他八曲。マンドリン五重奏(寶玉の舞曲、スベインの印象) マンドリン獨奏、(東洋の夢)

◆六月十二日 第三十五回歌の夕開催。

◆第二回北陸、北海道大演奏旅行 (七月十七日より七月三十日まで)

グリーククラブメンバー(江村健三、井田襄司、黃演尊、宮本光夫、島本裕二、久保淵豊彦、荒井清、太田三郎、古谷三郎、山田基男、中村信一、紫垣文雄) マンドリンクラブ(山口弘、久保田是造、金居四郎、西田直道、上野健) 引率 和田洋一教授

福井、金澤、札幌、旭川、名寄の各地にて音樂會、讚美禮拜開催、札幌放送局より放送を行ふ。

◆九月十五日 第一回同志社、立教交歓音樂會  
於東京朝日講堂。出演團體(同志社グリーククラブ、プ

リムローズクラブ、マンドリンクラブ、立教管絃樂團  
立教グリークラブ)

岸田治夫、宮本光夫、井田襄司、島本裕二、久保淵豊彦、荒井清、古谷三郎、海老澤宣道、中村信一の八人出演。

合唱曲目 ドイツ、ミサ全曲……シユウベルト作、及び  
マンドリンオーケストラ「麥祭」の合唱部。

此の東京演奏旅行に於ては、先輩大中寅二、湯淺永年、上家  
源等の諸氏に御世話になつた。

◆十月十七日 名古屋市公會堂に於て、同志社大音樂會  
開かる。此は同志社音樂部史上に於て記憶すべき大音  
樂會であつた。出演者は同志社出身のアルト歌手、齊  
藤靜子夫人、ピアノスト大澤芳子嬢、迎君子嬢、クラ  
ツプ女史、同志社混聲合唱團(八十名)、同志社マンド  
リンオーケストラ(三十名)、總計百余名。それだけに  
名古屋市民の期待と人氣は非常なものであつた。

開會一時間前、早くも開場を待つ聴衆は數町の列をつ  
くり、開場と共に雪崩れ込んで、本邦隨一を誇る大公  
會堂も寸時に埋め盡された。その數三千、その裏面に

は主催者名古屋縣人會員諸氏の一年に渉る努力があつ  
た事を忘れてはならない。實に同志社未曾有の大音樂  
會であつた。主なプログラムは次の如し。

一、マンドリンオーケストラ(附合唱)。

「麥 祭」

マチヨツキオ作

二、男聲合唱

ブリムローズクラブ

オツフェルリード

ベートーベン作

三、女聲合唱

女專グリークラブ

ミリヤムクワイヤー

四、アルト獨唱

齊藤靜子夫人

鱒、若き尼僧

シユウベルト作

五、混聲合唱

(A) Draw Nigh, Immanuel...old French  
(B) Der Jager, (C) Der Abend...Joh Brahms

六、アルト獨唱

ジブシーの唄(カルメン)

(マンドリンオーケストラ伴奏)

齊藤靜子夫人

七、男聲合唱

詩篇九十八

グリークラブ

八、混聲合唱

Baby Lou's Wave...Ch. Gounod

And the Glory of the Lord, G. F. Handel

◆十一月十一日 第二回關西學生合唱聯盟音樂會開催さ  
る、於京都市公會堂、聯盟加入八團體出演。

同志社グリークラブの曲目……巡禮の合唱(歌劇ルン

バルデイより）ベルデイ作。

合同大合唱曲 Holy art thou……Handel

指揮 長井齊氏。

関西學院の戦陣（……）（チエツコスコロバキヤ民謡）の合唱が美しく、又同志社グリーも非常な好評を得た。

◆十一月二十八日、二十九日 同志社イーヴ、於市公會堂  
グリークラブの曲目

Schlußwandel……F. Hegar. op. 18

指揮 岸田治夫君。非常な難曲で、練習には随分辛慘を味はされた、かゝる近代人の作品を合唱した事は後世の男聲合唱界へ傳へらるべき事であらう。

混聲合唱……指揮 クラツプ女史

And the Glory the of Lord……G. F. Handel

◆十二月一日 總會開催、グリークラブ會則制定せらる  
役員改選の結果は次の如し。

指揮者（岸田治夫） マネージャー（宮本光夫） サヴ、マネージャー（中村信一） 會計（島本裕二） 記録（古谷三郎） 印刷（藤田正二）

◆十二月二十五日 女專グリークラブと共に第一回クリ

スマスカロールを行ふ。一行十八名。指揮クラツプ女史

昭和七年 古谷三郎記

◆二月一日 新讀美歌發表音樂會、市公會堂に於て開催さる。主催京都日曜學校部會聯盟、京都基督教聯盟、出演團體次の如し。

京都教會聖歌隊、中央教會聖歌隊、洛北教會聖歌隊、洛陽教會聖歌隊、聖アグネス聖歌隊、平安教會歌の組、西都教會聖歌隊、京南教會聖歌隊、室町教會聖歌隊、聚樂教會聖歌隊、相愛幼稚園、同志社中學ホザナクラブ、同志社大學グリークラブ、同志社混聲グリー。

◆第三十六回歌の夕、二月八日開催す。

合唱曲目 Sanctus……(aus Requiem) L. Cherini

他十曲。指揮 山田基男、岸田治夫。

◆同志社混聲合唱團發表音樂會

長らく工事中だつた榮光館が落成したので、此の講堂開きを兼ねて、混聲合唱團の發表會を二月十五日、榮光館で開催した。聴衆二千。合唱メンバーは、大學グリー、プリムローズ、女專グリー、ミリヤムクワイヤーからの推選者八十名、指揮クラツプ女史、プログラム左の如し。



一、混聲合唱 And the glory of the Lord ..... Handel

Sing Praise to God the Lord.....Franck

二、四重唱 O Lord, Thou Hast Formed my Every Part

.....J. S. Bach

God is a Spirit .....Kopyloff

(永井純子嬢、中川春枝嬢、土方辰三郎君、山田基男君)

三、混聲合唱 (A) Der Jäger (H) Der Abend.....Brühns

四、ソプラノ獨唱 竹内順子夫人

五、混聲合唱 By Babylon's Wave.....Gounod

Lovely A appear.....Gounod

Unfold ye Poyals.....Gounod

◆三月 荒井清、山田基男、江村健三、海老澤宣道、井

田襄司、久保淵豊彦の諸君を卒業部員として送る。

◆四月二十九日 學生會館開館式にて合唱す。

讚美歌一九三番

◆五月六日 於大阪朝日會館

少年保護事業基金募集音樂會へ出演。

◆五月七日 救世軍希望館(大阪市泉尾)にて少年慰安音

樂會開催。(一行十三名)

◆同日午後二時より 國立浪速少年院(大阪府下茨木町)

に於て少年慰安音樂會開催。

◆第二回立教、同志社交響音樂會、於榮光館

五月十六日、プログラム次の如し。

一、立教大學校歌

二、立教管絃樂團

(A)ラルゴ(新世界交響樂)

(B)序曲(ケーニヒ、ステファン)

三、同志社邦樂部 利根の船歌

四、同志社ブリムローズクラブ

(A)祈り.....グルツク

(B)晩に寄す.....ブルツク

五、同志社マンドリンクラブ

沙漠の沃地にて.....エルゼオマルティ

六、同志社管絃樂團

交響樂第一番.....ベートヴェン

七、同志社グリーククラブ

(A)巡禮の合唱(歌劇ルンバルディ)ベルディ

(B)聖なる哉(レクイエムより)ケルビニ

八、立教管絃樂團

アル、の女.....ビーゼー

◆六月二十日 グリーククラブ、ペナント(演奏會用)、及び

正部員章出來上る。

#### ◆四國地方演奏旅行行はる。

七月十八日 (岡山メソジスト教會にて讚美禮拜)

十九日 (岡山市公會堂にて音樂會)

二十日 (高松讃岐會館にて音樂會)

二十一日 (今治組合教會にて音樂會)

二十二日 (西條公會堂にて音樂會)

二十三日 (松山東雲女學校にて音樂會)

二十四日 (松山組合教會にて讚美禮拜)

同日夜 (今治組合教會にて讚美禮拜)

メンバー (岸川治夫、宮本光夫、黃演聲、今西善治郎、島本裕二、三原幸三、高橋才登、紫垣文雄、藤田正二、増田金雄、中村信一、古谷三郎、黒川時雄、高木暢哉) 以上グリークラブ。マンドリンクラブ (山口、田口、濱邊、上野)。合唱曲目、詩篇九十八、かぶと虫の親爺(フアイト) 葡萄摘みの歌(メンデルスゾーン) 兵士の合唱(グノー) 狩人の合唱(ウエーバー) 巡禮の合唱(ヴェルディ) 他十曲。

◆九月二十六日より十月十七日まで毎週一回、小森讓氏を招き發聲講習を受く。

#### ◆同志社混聲合唱團の紛擾に就て

同志社、立教第二回交歓音樂會に際し、榮光館の使用問題、

混聲合唱團の出演等に關する意見の相違から、女專當局と大學音樂部との間に紛擾生じ、非常な騒ぎになりかゝつた。時の學友會幹事長速水教授の調停があつたので、問題は一時解決したが、此の爲大學音樂部と、女專音樂部との提携中絶し混聲合唱の練習も又中止のやむなきに至つた。

其後ブリムローズクラブの大石君の發起により、混聲合唱團の復活が提唱され且つ從來の弊害を除く爲、指揮者に大中寅二氏を迎へ、メンバーも大學、女專の學生以外に、京都在住の同窓會員、校友會員を包含する大混聲合唱團の組織が計画された。委員の奔走努力の結果、遂に九月下旬一切の組織完成し、第一回の練習を行ふに至つた。第一回練習の出席者百三十名。

しかるに此の第一回練習終了後、再び女專當局と意見の衝突を來し、紛擾再燃、爲に女專當局は女專生徒の混聲合唱團に参加するを嚴禁し、同時に大學音樂部長及び大學當局に對して強硬なる抗議を提するに至つた。此處に於て騒動擴大、混沌として收拾能はざるの状態に陥ち入つた。同志社本部も此を傍觀するに忍びず、遂に大工原總長立つて此が事態の收拾に當つたので、漸く騒擾は終息したるも、混聲合唱團は解散の止むなきに至つた。其間の詳しい事情に就ては此處に記述することを許されない。

#### ◆十一月二十日 第三回關西學生合唱聯盟音樂會

(於神戸市舊關西學院講堂) 新らしく浪速高校、關西學院中學部の参加あり、十一團体出演。

グリーククラブの曲目(ケルビニのレクイエムより)

(A)序樂とキリエ (B)サンクトス 伴奏大畑キシ子嬢  
大合唱曲目 ファウストの「兵士の合唱」

伴奏 關西學院オーケストラ

指揮 長井齊氏

同志社のグリー、プリムローズを除いては、各校とも選曲、合唱共に悪かつた。大合唱はコーラスとオーケストラが追いつ追はれつだった。

浪速高校の第一テナーばかりの合唱と、ウクレ、とギター伴奏の大阪帝大のアロハエには閉口した。

◆同志社イーヴ(十一月二十八日、二十九日) イーヴ初めて榮光館で開催さる。混聲合唱が無つたので淋しかった。グリークラブの曲目

Wanderer's Song.....Schuman

高商合唱團の初出演があつた、

◆十一月一日 役員改選の結果、次の如く決定す。

指揮者(今西善治郎) マネーチャ(黒川時雄) サヴ、マネ

ージャー(黄演聲) 會計(太田三郎) 記録(紫垣文雄) 印刷(高橋才登)

◆同志社宗教樂協會第一回發表會 於榮光館、十二月三日(同志社交響樂團を中心にして組織されたる宗教樂協會第一回發表會に賛助出演す。オーケストラ伴奏で、ケルビニのレクイエム中のキリエとサンクトスを合唱す)

◆十二月九日 於市公會堂 朝日新聞社社會事業團主催 同情週間音樂會へ出演。出演團体

(同志社高商ハーモニカソサイテ、平安女學院聖歌隊、京大マンドリンオーケストラ、京大交響樂團、京都コーラス、同志社グリークラブ)

## 昭和八年 紫垣文雄記

◆第三十七回歌の夕(讚美禮拜)開かる。二月十五日。合唱曲目 Pie Jesu (Cherubini) 他六曲。

◆三月 卒業部員、小出廣、野本數男の兩君を送る。

◆四月二十七日 於三條Y.M.C.A.

岩橋武夫氏講演會にて「主よみもとに」を合唱す。

◆五月二十日 新入生歡迎全同志社音樂會開催さる。

於榮光館。

◆同志社混聲合唱團の再起に就て

昨年九月、同志社混聲合唱團解散の悲劇があつたが、その後片桐哲氏を會長とする同志社宗教樂協會なるものゝ成立するに及んで、再び混聲合唱團を成立せしむるの必要を生ずるに至つた。即ち宗教樂協會が定期演奏會を開く上に於て、その發表機關たる混聲合唱團を必要とするからである。此處に於て片桐哲氏を始め宗教樂協會役員は、協會所屬混聲合唱團の組織——或る意味に於て舊混聲合唱團の復活を計画するに至つた。幸にして片桐哲氏が女專校長に就任したので、女專の方は無難に過み、大學の方もグリークラブは此の混聲合唱團に参加した。獨りブリムローズのみ、周囲の事情や、種々の経緯あつて参加を拒絶したので、新に組織されたる混聲合唱團は、大學グリーと女專グリー、ミリヤムクワイヤの合同団体といふ形式になつた。指揮者はクラブ女史、五月二十二日その第一回練習が開始された。

◆六月十日 グリークラブ全員、近江ミツシヨン訪問、勤勞女學校、サナトリウム、教育會館に於て音樂會開催。

◆六月十四日 第三回同志社、立教交歡音樂會開催せらる。於立教大學。グリークラブのメンバー

(黃演望、今西善治郎、島本裕二、高橋才登、太田三郎、紫垣文雄、岩田治夫、亀井政一)

曲目、アーメン、フーゲ……ベルリオーズ作 他一曲

◆六月二十四日 同志社宗教樂協會第二回定期演奏會、

於榮光館

混聲合唱曲目 *"Mossiah"……Handel*

*And the Glory of the Lord*

*Hallelujah 第一曲*

同志社に於て管絃樂伴奏の混聲合唱が行はれたのは是が最初であらう。但し此の日の合唱は「救世主」に非らずして「闕魔大王」たるかの如き觀があつた……と批評した人があつた

◆九月二十五日 關西學生合唱聯盟第四回合同音樂會

於大阪朝日會館。

新加入の龍谷大學を加へ、十一団体出演。依然として同志社、關西學院以外の學校は振はない。同志社グリークラブ、指揮 今西善治郎君。

曲目 牧人の安息日の歌(クロイツエル作)

アーメン、フーゲ(ベルリオーズ作)

大合唱曲目 夕風(エドワード作)

◆十月六日 組合教會總會開會中を利用し、教役者その他の人々の中のグリークラブ關係者を招き晩饗會を開く。

◆十月八日 組合教會總會大講演會に於て合唱す。

「Messiah」(管絃樂伴奏)

◆十一月五日 奈良にて音樂會開催。於育英女學校講堂  
メンバー(今西、島本、黄、宮本、武田、堤中、高橋、張、  
調、太田、黒川、紫垣、鎌谷、佐藤、岸田、古谷、渡邊、李、  
小野)

マンドリン五重奏(山口、小山、上野、田口、吉池)  
ピアノ獨彈……大濱えみ子嬢

◆十一月二十五日 同志社宗教樂協會第三回定期演奏會  
於榮光館 伴奏、同志社交樂團  
混聲合唱 指揮……クラツプ女史

「天地創造」……(ハイドン)より二曲

男聲合唱 指揮……森本芳雄氏

「詩篇百五〇」……(フランク)他二曲

◆十一月二十八日、二十九日 同志社イーヴ、於榮光館  
グリークラブの曲目

主に感謝せよ……クライン  
◆十二月三日 クラブ總會開かる。役員改選の結果次の如し。

指揮者(今西善治郎) マネージャ(宮本光夫) サヴマネー  
ジャー(黒川時雄) 會計(高橋才登) 記録(鎌谷巖) 印刷(渡  
邊重徳)

## 昭和九年 鎌谷 巖 記

◆一月 指揮者今西善治郎君退學す。後任指揮者は太田  
三郎君に決定。

◆三月 卒業部員岸田治夫君を送る。  
黄演馨君立教大學へ轉學す。

サヴマネージャー黒川時雄君退部す。

◆五月初旬、總會を開き、グリークラブ三十周年紀念事  
業を舉行する事に決定す。

紀念事業の内容次の如し。

一、グリークラブ卅年史の編纂。紀念雜誌の發行。

一、大中寅二氏のオルガン演奏會開催。

- 一、紀念祝賀會の開催。  
一、紀念音樂會の開催。

◆六月二十五日 大中寅二氏オルガン演奏會開催。

於チャペル、聴衆三百。

プログラム次の如し。

合唱 *Selig sind des Himmels Erben* グリーククラブ

オルガン演奏

一、讃歌 *Tielouze* 作

二、前奏曲二曲

三、フーゲ

四、フーゲ

五、歌調曲 フーゲ

六、コンチエルトへ長調他二曲

七、アダチオ

八、ベネディクトス

九、ミ我もし小鳥ならばミによる

變奏曲と幻奏曲……大中寅二作

◆七月九日 綾部町郡是製糸株式會社に於てグリーククラブ音樂會を開く。メンバー

（島本、武田、宮本、高橋、太田、松本、古谷、阿倍）

合唱曲目 詩篇九十八、讚美歌（日暮れて、我が靈の光）

モテツテ（ネーグリー作）ローレライ、かへれ、永久に恵あれ（メンデルスゾーン）他數曲。

◆七月十日より二十日まで 鳥取縣岩美郡浦富町竹間旅館に投宿、先輩森本芳雄氏指導の下に合宿練習を行ふ練習場は久愛幼稚園。

九月十五日 「グリーククラブの歴史を語る會」を開く。

於アーモスト會館。

出席者（堀内清氏、田島光三氏、三輪源造氏、速水藤助氏、片桐哲氏、藺川四郎氏）グリーククラブ（宮本光夫、島本裕二、太田三郎、古谷三郎）

九月二十二日 大阪在住グリーククラブO・B會開かる。

於大阪朝日ビル。

十月十一日 グリーククラブ三十週年祝賀會開かる。

於新島會館。（別稿参照）

十月十三日 三十週年記念音樂會開かる。於榮光館。

聴衆千五百、（別稿参照）

七五



思ひ出

心の故郷 グリークラブ

中 村 正

果しなき過去の追憶はやはり唯一の友であり、疲勞した心の慰安である。そして其は明日への力となる。

グリークラブ時代こそ正に僕の育ての泉であり、未知の反面を開拓して呉れた懐しき青春の一頁である。絶えず何ものかを求め探りながら、其が何であるかを知り難い若き日の燃ゆる情熱が、やつと辿りついた所が音楽であり藝術であつた事を教へて呉れたグリークラブ。僕がグリー・クラブに對して抱いてゐる氣持を拙き、僕のペンでは傳へる事が不可能だ。

應援歌節で讚美歌を歌つていた時代の僕が負けん氣で何も知らずにグリー・クラブへ跳りこみ、あのお玉杓子に絶えず悩まされながらも根氣よく練習に出ては、歌へない歌を嚙みしめたと云ふことは未知の世界の開拓と云ふことの魅力と、もう一つは、皆と何も思はず考へず一途に唄ふあの氣持の何んと表現していか判らない心の和やかさの中

に、自己の心を見出したからである。

花の香りが温い風と舞ひ込んで夢みる様な歌聲の中に自己を見出した嬉しさ、赫々たる太陽と絲の燃える息苦しい真中に包まれて、汗と共に歌を唄ひ、爽かな涼風が木の葉をさら／＼と亂舞させるもの静かなひととき、互ひに唄ひつゝ親しさを増し、寒風窓を叩く頃、ストヴを他に白い呼吸の中、温き歌聲を合せた、あの赤い煉瓦の神學館の一望こそ、誰でもが感ずる心の故郷であるだらう。

澄んだ青空にアカシヤのトンネル、埃多いアスファルトの上を馬車の鈴音涼しく讚美歌を合唱し、三つのクローバに軽い嬉しさを漂はせ、旅の疲れも忘れ、遠國の校友と語り合つた滿鮮旅行。三度の食事を他に果物を食ひ歩き、三線道路に異國の味をのせ、常夏の國にも、この寒さかなと阿里山の宿に火鉢をかこみ、或は椰子の木蔭に旅愁を慰め疲勞を勵し合つて、時に友の枕邊に座して徹夜の介抱をした台灣旅行等々の思ひ出が、限りなく走馬燈のやうに頭腦を旋回する。

竹内禎子女史の音樂會の爲に東京へ行き、歸途カルビス事件——カルビスの瓶にレッテルが貼てなかつた爲、ビールを飲んだ飲ましたと誤解された——に苦笑をもらし、シュニベルトのダス、デルフェンを原語で暗記して意氣込んでイーヴの爲の練習をすまし、いよくイーヴと云ふ日になり、有終館の出火の爲延期されたのには一同啞然としたことなど、スーパーニールは限りなき走馬燈！

グリークラブ時代を想起して、當時の心にかへり一夕を過してみたいと思ふのは僕一人ではあるまい。當時の人々——荒井清、山田基男、酒井美智男、宇野勇次、松本淳、千葉温、松島秀夫等々、まだその他、顔を覚えてゐるが姓名を忘却した人々が居られる。

毎日々々メカニツクな生活と目まぐるしさの中にあつて、少しの暇や、旅行の車中などで、頭腦を癒して呉れるの



は、楽しかつたグリーンクラブであり、精神の糧である音楽である。

京都に居ながら、現在のグリーン・クラブがどうなつてゐるのか知らないと言ふ事は、正に僕のルーズな生活を意味すると云つてもいいほど、僕はグリーン・クラブを忘れることが出来ない。宮本君、島本君、古谷君等が奮闘して居れることだらうと思ふ。

僕がグリーン・クラブへ入部させて貰つたは、たしか昭和二年の九月、森本芳雄氏<sup>コンダクタ</sup>が居られた時だ。それから四年と少しの間、僕は晝休みの時間を待つて、練習に出かけて行つた。学校の授業はサボつても練習は欠さなかつた。音楽部へ入つてから僕は藝術が如何に生活に重要なのかを知ると同時に、音楽書を、文學を、映画演劇の書物などを貪るやうに読みはじめ、その時代の研究が今になつて役立たうとは思つてゐなかつた。

口先ばかりの歌でなく、音楽ではなく、生命の音楽を教へて呉れたグリーン・クラブ！そして青春の一頁を色彩つて呉れたグリーン・クラブに僕は心から感謝の意を捧げたい。

この溢れて来る生々しい感じを

どうして感じのまゝに

現はすことが出来ないのか

言葉にすると、もう其處に

其の心は消えてゐる。

~~~~~シルレル~~~~~



## 讃美禮拜

富士見町教會 山田基男

永いグリークラブ生活の中で何が一番印象深かつたかと問はれるならば、讃美禮拜だと私は答へる。詩篇第四篇の中の「この歌はわが生命の神に捧ぐる祈なり」の句を読む度毎にチャベルのキャンドル、サービスの夕を想ひ起す。禮拜を始める前、夕焼の空を仰ぎながら、チャベルの裏で、グリー十八番の「日かげ靜かに」を歌ひ、眞心こめて祈り合つた時の感謝を今だに忘れることは出来ない。

讃美禮拜の聴衆は何時も少なかつた。然し我々にはそれが不思議に少しも苦にならず、氣持よく魂の底から歌ふことが出来た。神に捧げる禮拜だつたからであらう。

グリーの使命は歌を歌ふことに存せずして信仰を歌ふことに在るとするならば、グリーの中心生命は讃美禮拜にあると云つて差支へないと思ふ。この意味に於てグリークラブの諸君が讃美禮拜を重じ、これに全力を注がるゝ様願つてやまぬ者である。

## 思ひ出すまゝ

宇野 勇 次

私がグリークラブを知つたのは、確か大正八年のクリスマス前後であつたと思ふ。今迄聞きもせず味ひもしなかつた世界が眼前に開けて、小おどりした事を今も思ひ出す、十四才の時だつた。淋しく故郷を離れて獨り居の、田舎からボツト出て來た自分にとつてあまりに變つた世界だつた、然し乍らそのいづれの世界にも増して、驚異の眼を見張つたのは男聲合唱の世界だつた。更に私のグリーに對する關心と憧れを、増して呉れた事は、Y兄とT兄が意外にも私の接し得る範圍に居られた事であつた。この兄達に依つて益々私の音楽に對する興味と關心が啓發されたのであつたY兄は今東京に男聲合唱の重要な地位に居られ、T兄は津市に居られる。二兄は御存知ないかも知れないが、現在自分が、何も出來ない自分が多少でも宗教音楽——論狭い意味の——を通じて傳道しつゝあり、尙それが自分の一つの武器として贈物されてゐる事は、何とも言へない大きな感謝であります。二兄には此の十四年ほど未だにお會ひする機會を得ませんが、苦し何處かでお會ひ出來る事があれば、思ふ存感謝申上げたいと思つてゐる。

神學校入學と同時に、多少自由な時間を與へられ、又そうした立場に置かれてからは、堰が切れた水の如く合唱に精進する事が出來た、更に幸な事に我がクラスには六人の部員がゐた事、之れは私を勉強さすのに充分であつた。

其れから以後は、學業よりも大きな喜びと興味を、持たせて呉れて、三年間の神學生々活は、寧ろ歌學生の觀を呈したのであつた。今其れを觀て悔ひと感謝と云ふか喜びと云ふか、その二つは相半してゐる、然し乍ら其の半を占め

る悔ひも、それは決して恥を伴ふ悔でない寧ろ徳を伴ふものである事を告白するその大きな理由は、クラブの與へて呉れた或ひは努力して維持して來た空氣、或ひはプログラムであつた。

クラブが宗教音楽を取扱ふ事に私の全的な憧れがあつた、そして其れの故に三年間の歌學生の生活は續いたのだ。若し私が或る意味に於て音楽それ自身に對する憧れを持つたとしたら、もつと違つた學生々活がエンデョーイされてゐたかも知れぬ。然しクラブが何處迄も宗教音楽を取扱つた点に於て、私の歌學生としての生活が可能だつたのである。今後グリークラブが例へ必然的にもせよ、意識的にせよ、宗教音楽を扱はないクラブに成つて行くなら私のクラブに對する現在の關心と興味と誇りは全く地に落つるであらう。なぜなら、その目的なら京都などの土地と周圍はあまりに不適當だから。

永久に現在持つてゐるであらう所の祈りとプログラムを持続されん事を希つてゐる。

## ラヴエルの歌曲を唄つた頃

自大正十三年—至昭和五年

安 田 熙

六年の間クラブ員に終始した私には數多き思出を持つのであるが、今私は私個人を中心として其頃の事を思ひ出すまゝ申上げ度い。

丁度山口兄が東京に行かれた直後に入部して森本兄をタクトに直木、秋間、津下、鈴木、伊藤の諸氏を各リーダー

とした頃私の部員生活が始まる。

(山口兄とは其後幸ひにもリーダーターフェルで共に唄ひ、特に内外オラトリオ協會ではヘンデルのメシア全曲、ブラームスのレクイエム全曲を上演した)

私は入部以來森本兄に感化指導される所多く所謂「宗教音楽」の知識については兄にまつ處非常に多いのである。森本兄とは其後親しく京都混聲合唱團を創立し多少共關西、京都の樂界につくした喜びを持つのであるが、森本兄時代の思ひ出の一つとしては難曲とされてゐたフェステゲザング、アンディーキユンストレルをブラス伴奏で上演し至極上出来であつた事である。一九二五年、同志社創立五十年紀念音樂會の時である。其の時此の上出来に上氣した兄の顔が今でも目に見ゆる様だ。たしか山口兄も其の時態々西下されたと思つてゐる。

當時多忙であつた森本兄はよくクラブの爲につくし又他の部員もよく勉強した。此頃同志社に混聲合唱が出来私もハレルヤコーラスを唄つた一人である(タクトは柳女史であつた)又吾々でカルテットを作つたのも此頃である。ブリムローズからは市田、油谷の二名を出しグリーからは森本兄と私とが出て四人で山口兄の著した男性の歌を種本にして方々に唄ひ廻つたものだ。

其の後エール大學に森本兄を送り山田基男君をタクトとした。山田君もよく勉強した。特に晩年の山田君の指揮は完璧に近いものがあつた。此れは京都コーラスのタクト、クレイン氏に負ふ處大きかつたと思つてゐる。此頃ドイツミサ、インボケーション等所謂「大物」を上演してクラブを本格的な宗教音楽の男聲合唱團としての眞面目を爲さしめたのは此の時代である。

私はよく此の時代にブリムローズの人達とも仲好くしてゐたのでブリムのカルテットの代理、手傳ひ等よく頼まれたものだつた。太田黒、油谷、市田、坂根、堀江、土方兄等と特に親しくしてゐた。其頃私は太田黒兄と共に照井氏

に就いて勉強してゐたので自然にラテン系統の音楽を愛好する様になつてゐた。

冒険ではあつたが、一九二九年（昭和四年）の十二月六日グリクローラブ第三十一回の歌の夕にはセザール、フランクの「アヴェ、マリア」とモリス、ラヴェルの「ヘブライの唄（一九一〇年作曲）」と、カデイツシュ（ユダヤの祈禱）——一九一四年作曲——を唄つた。今思ひ出しても冷汗を覚えるが、此のカデイツシュが極めて難曲であつた。此れは其の年の春沖繩の演奏會に唄つたのであるが、此れが、此曲の内地での初演であつた。私が何故斯うしたものを選んだかと云ふに當時グリクローラブには行き結つたアカデミックな氣分があつたので此を打開し様としたのも一因であるし他而此の曲が非常に情熱的のものであり獨唱曲として他に類例を見なかつたが故である。丁度新教の讚美歌が極めてアメリカナイズされ其の形式、情操に於て物足りなさを痛感してゐた時だつたからである。信仰に於てもユダヤの如き情熱を持たない吾々が、満たさる可き或物を持つのが此の曲であつた。曲の終りのアーメンの處等全く古今無類である。兎に角私は此れを唄つた。然し幸ひにも次の年より二年後に賣出されたドロレス・ドウ・シルヴェラ（アルト）のレコードを聴き私の發想、解釋が誤りでなかつたのを喜んだ次第である。今尙此曲程力強い祈りを表現した獨唱曲はないと思つてゐる。私は今尙ラヴェルの崇拜者であるけれども、當時の私はもつとラヴェルが好きであつた。彼の作品をほとんど残す處なく輸入して勉強したのも此の時代である。私のラヴェル熱は止む處なく合唱曲「ロンド」は京都コーラスに依つて一九三〇年二月に發表した。私は斯して冒険にもラヴェルの歌曲を唄ひラヴェルに心酔した。此れがグリーを去る當時の私であつた。私はクラブ員當時から云つて來た事であるが、よき合唱をしようとすればやはり合唱以外に自分自身の勉強（歌曲）をしなければならぬと思つてゐる。よき合唱はよく獨唱さる可き充分の練習を経て完成されるのではあるまいか。

Soloのニュウンスなしに眞のコーラスはあり得ない。合唱のppは獨唱のppを合唱のffは獨唱のffを経たものでなければならぬと思つてゐる。

## 思　　ひ　　出

神戸松蔭高等女學校教諭

水

谷

央

同志社大學を出て音楽を仕事としてゐる者の一人です、しかし、他の人々は皆颯爽として帝都に覇をなして居られますが私のは音楽的には一地方の田舎としか考へられて居ない神戸の一學校の唱歌の先生にしか過ぎないのです。勿論「同志社大學を出て」と云つたところで卒業をしたわけでは無いのでやつと本科になつた年の七月に日本最初の猛烈を極めたスパニインフルエンザのお見舞を受けて生命だけは助かつたとは云ふものの、九月半新學期にヒヨロ／＼して出京すれば十月に入つて再發、今度はすっかり拗らして入院加療、暫らく静養を要するとの事、そのうちに父の死亡等の出来事もあつて遂に退學の止む無きに至つたと云ふ次第であります。父の死は私の入院中の出来事でありまして、父も古い同志社出なものですから時報に載つた時には學友連中は私が死んだものと思はれたらしく、其後出會ひ頭に「やゝお前は生きて居つたのか、死んだのかと思つて居た」なんかと浴びせられた事も有りました。

たつた在學一年有半、しかし私には随分と思ひ出深いものがあります。同窓會神戸支部例會の時に學友の一人から「私が入學したのはあなたの本科三年の時だつたと思ひます」と話されて閉口した事がありました。

でも、それ位のネウチがあれば卒業生のやうな顔をして居つても強ち罪でもあるまひと心得てゐますが、出方が違ふだけで出身者には違ひないのですから。しかし一年半しか在學しなかつたと云ふ事は知つて居つて頂き度いです。

私が入學した時は、其當時ではグリークラブの全盛期だと思はれてゐる時でした、勿論現在の音楽的な立場から見

ると誠に幼稚なものであつた事は當時の音樂會のプログラムを御覽になれば、お解りの事と思はれます。

宗教曲以外には才女、我國兵士、殖生の宿、コールジョン、アンクルサムスパーティ等が其レパートアの主なものでした。宗教曲と云つても、讚美歌の編曲が主で時にアンセム、オラトリオ中の一曲等が見えたのみで唯今の様にケルビーニーのミサだとかコルネリウスのモテツテだとか其他純藝術的な男聲合唱歌謡曲（メンナル　コーアゲザンゲ）と云はれるものは數少なかつたのであります。

指揮には當代の名指揮者、平田甫氏、伴奏は現在帝都オルガン演奏界の重鎮にして作曲家、大中寅二氏が當つてゐました。メムバーには男女全同志社の人氣を一身に集めてゐると稱されてゐた小島應氏がベースの第一線に立ち、面倒ですから一人一人名前は掲げまんが一騎當千の強豪が揃つてゐました。

低い音ほど、よく響くとか云つてフアフアと息ばかり吐いてゐるのも痛快でした。

ハイテナーにはフットボールのキヤプテン上野氏が大きな體格にライオンと云ふ綽名を持ち乍ら可愛らしい聲でイ長調でソーファアミーと歌つて居られたなどは今考へても愉快な事です、彼氏が上立賣のボタモチの多食レコード保持者であつたなどは猶更愉快ではありませんか。ハイテナーのリーダーは山下さんと云ふ方でしたが高くなる程ちよつと口をまげて得意氣に歌つて居られたのは今でも目につくやうです。第二テナーは現在台北教會の牧師原忠雄氏でしたが、第二テナーにはツブがそろつて居たやうです。第一バスには部内の飄輕男片桐弘氏が居られました。同大グリークラブの誕生と發展とには片桐氏兄弟に負ふところ大なるものがあるやうです。

しかし各パートの中心が大部分最上級生であつた關係上、その次の年度の苦しさつたらありませんでした。しかし魚木氏、蘭川氏、古内氏、湯淺氏、田島氏、永島氏、其他の諸氏の顔振れが活躍したわけです。各々種々なナンセンスもありますが遠慮して置きませう。此のうち湯淺氏は現在、東京にて理論家、聲樂家として名をあげて居られます



現在の音楽的レベルから見ますと、その撰曲の幼稚だつた事は前にも書きましたが、發聲法に於てもドウかと思はれるものがあります。しかし、兎に角全員一致してよく歌つた様に覺えます。幼稚だつたと云ふ事は先年の東京のコンサートで優勝をしたマンドリンクラブがまだ誕生の時代で、マンドリンばかりがヅラリと一列に並び讚美歌の「主よ御許に」をそのまま演奏して大喝采を博したのですら聴衆も相當なものだつたに違ひありません。同大の話ではありませんが、オーケストラのメムバーを募集したら、第二ヴァイオリンを弾かされて第一ヴァイオリンと同じ會費ではいやだと云つた人達が集まつて來た時代ですから同大のグリークラブが相當に持てたのも無理はありません、又實際よく歌つたものですから。

## 思　　ひ　　出

荒　　井　　清

想ひ出せば長い間だつた。僕が京都に於ける生活の大半はグリークラブの生活だつたと言つても過言ぢやない位だ。同志社に入學した當時圖書館前の寺小屋（俗稱）で練習をしてゐた、後で思へばプリムローズクラブであつたが、クラブを度々覗きに行つたものだつた。純情の感激を覺える頃だつた爲か、どうも同志社に在りながらその宗教氣分が稀薄だつたその寺小屋組が、所謂ビツタリと來なかつた。

「いさほめうたはん　わが主エスを……」

この讚美歌を神學館のチャペルの眞中で森本さんが、瘦軀をそびえさして棒を振つてられるのを見て、あの魅力の

ある壯重なると云ひたいが、些か鈍重かもしれないが、その創り出されるハーモニーに、身の内がジーンとしたのを今だに忘れ得ない。

戸籍調べの様な名簿に名前を書いて、やがて、新しき歌もて、たゞへまつれ、主の御業を歌へる身分になつたことは、十年の同志社生活がその時に始つたのだと斷言し得る。

假令上手ではなくても、歌ふことの喜びを、心からの聲を合して唱ふ樂しみを、味ひ得たことに、今になつて限りない感謝をグリークラブに捧げたい。

幾回か、細々としたこともあつた、歌の夕を守つたこと、技そのものよりも、心で押し切つて來た難關！決して個々の力で成就し得たものは一つとしてなかつた。祈りに依つて與へられた神の御力と、部員相互の親和力がその凡てを全うしてくれたことを、確く信じてゐる。各時代には夫々の特色があつたであらう。又あるべきでありあらしめたい。然しその特色を自讃する前に、各自はこの聖い事業の一つの契鎖となり得て、卅年の歴史の一部となり、その務を終へて次の時代に無事に渡して行けたことを誇りとしたい。各人がその一つ一つの鎖の連る輪であつたことを忘れないでほしい。卅年もの長い尊い事業を各時代に於て守つて下さつた全部員のその努力は、その血を繼ぐ者の滿腔の感謝に値するものである。

こうして書いてゐると、心は遠く京都の同志社をさまよひ、想ひは遙か十年に遡る。晝飯抜きで練習に出て、一時を五分も十分も遅れて教室に飛び込んで教授殿に白い眼でにらまれたり、演奏旅行の爲に毎月二、三圓づゝ小遣を貯めてをいて、旅費を工面したことなどなつかしく浮んで來る。

所謂華やかなりし學生音楽旅行の衰へ出した頃だつたけれども、回顧して見れば、随分あちこちと無錢旅行をやつたものだと思ふ。御近所廻りは差控へて、静岡、東京を経て東北、北陸旅行、昭和三年夏にはグリー單獨のY

MCA後援で滿洲旅行、今大連に住む身になつて往時を追懷して甚だロマテイクならざるを得ない。當時行を共にされた人々は安東、撫順、大連、星ヶ浦と聞いただけで感慨無量のものがある筈だ。殊に當時奉天に居られた（現在大連）稻葉好延先生には格別の御好意に浴し全く言葉に表はせぬ、感謝を覺えた。

次に昭和四年三月末から四月上旬にかけて及落の首を氣にしながら沖繩旅行をやつた。昭和五年夏には多年の懸案であつた台灣旅行を決行した。マンドリンクラブと同行して同勢十七人が散々楽しい旅行をして、例へばドライブをしたり、世界の名物阿里山をスパイラル式鐵道で登つたり、台灣南部の富豪李氏（校友）の招宴を受けたり、その結果一人當りの旅費が六圓餘りで濟んだ程であつた。これはクラブに詳細な記録があると思ふ。次は昭和六年夏の北陸、北海道の旅行だつた。散々だつた。然し一番愉快な旅をした。夏の北海道を満喫し、一行の精神的結合さへ固めて居れば、經濟的の困難には堪へ得るものだと思ふ貴重な經驗をした。マンドリンクラブの西田君御一家には特に御世話になつて嬉しかつた。

この外に別稿に詳記しますが同志社ミックスとして女専グリー、プリムローズ、我グリー各クラブが同勢九十名を以つて日本樂壇東京を襲つたことがある。竹内禎子先生渡歐送別を兼ねて、實に忙しい愉快な旅行をした。

然しグリークラブの演奏旅行は常に祈りの連續であつた。音楽は第二義的のものであつて、先づ同志社そのものの認識を各地にひろめ、次は歌による神への精進であり、第三に各地に於いて母校の名に於いて奮闘されてゐる校友、同窓の諸兄姉と交を温め、勵まし、勵まされ、又お慰めしたのであつた。成果は必ずしも大ではなかつたであらうが必ずや爲す有りし何物かゞ残つてゐるにちがひないとの確信があつた。三十有歳の年月は貴いものを吾等に與へてゐる。グリークラブを通して吾々は一層同志社を愛して行きたいと希つてゐる。

昭和九年八月十三日記之

——終——

# 憶　　ひ　　出

同志社大學神學科研究室

森　　本　　芳　　雄

今度創立三十周年記念會を持つについて、何か憶ひ出をと求められて、何か書かうと思ひ乍ら、随分久しい間その儘になつてゐた。一つには、色々な用事が次から次へと私を追ひ廻してゐて「憶ひ出の庫」に雜然と投げ込まれてゐるものを一々整理して取り出す心の餘裕がなかつたし、また、その雜然と積み重ねられたものの中には、破損したもの「時」の虫に食ひ破られたものも少なくないので、どう整理してよいものか、一寸思ひ當らなかつたからである。然し今何か書かねばならないことになつて、手當り次第に「庫」の中からそれらしいものを取り出して、列べて見なければならぬ。「庫」の隅の隅に取り残されてゐるものも多いことであらうし、また場所にも制限のあることであるから、取り出さずに置かなければならないものも多いことである。又この「憶ひ出」は所詮私獨りの「憶ひ」であり、「想ひ」である。憶ひ出される一つの事柄に附隨した背景と言つたものを説明しては、それが持つてゐる輝しさが失はれ、説明なしに、その事柄を投げ出しただけでは、他の人には、氣の抜けたサイダー程の味も與へることは出来まい然し、あの頃——大体合唱と言ふものがどの様なものかも知らずに、とにかく何人かの人が、ひどい不調和もなく、時々には少々聲を大きくしたり、小さくしたりしながら唱へばよいと、よい意味で「子供らしく」唱つてゐた頃を憶ひ出すと、何となく懐しい。社會も知らなかつた少年時代のことをしみぐと憶ひ出す、あの懐しさに似てゐる。(昔の賢人は言つてゐる『知識を増す者は憂患を増す』と。)

私が卒業する時に、その送別會の席上で、山田君が、私について『五年間棒に振つた』と言つたことがあつたが、私は三十年のグリー・クラブ發展史に、その六分の一の楔を打ち込んだことになる。私がその「棒」を振り出したのが私の豫科二年の時だつた。その頃英文科に居られた三輪雅夫君が亡なられて、急にその後を繼いだのだつた。そしてその當時は山口隆俊君が、湯淺君の去つた後のクラブを擔つて、切り廻してゐた頃だ。私自身、中學の三四年頃から（もつと早くから歌ふ事は歌つてゐたが）、クラブの先輩の原忠雄牧師の許で、四五人で合唱の眞似ごともしてゐたしその他にも合唱したことは少なくなかつたし、又その頃から日曜學校の讚美歌を教へて、とにかく棒を振り廻してゐたのだつたが、さて自分で、四部合唱を指揮した事はなかつた。何だか變だな、とは思へるが、何處がどう悪いのかどう間違つてゐるのか、わからないまゝに振つてゐた。すると山口君が——第一テナーを歌つてゐたんだが——何だかだと口を入れる、此處はかう歌ひませう、と注文する。随分山口君からしかられたものだつたが、實を言ふと、時には癪にさはらないこともなかつた。然しそれがよい勉強になつたやうに思ふ。山口君が出てからは、少しは心細い感がないではなかつたが、とにかく「棒」を振つて何かしなければならなかつた。その頃のクラブの人々も、私ととり立てて、仲々よくやつて下さつたと思ふ。和聲の端くれも勉強してゐたし、作曲でもやらうかと言ふ野心もないではなかつたので、その頃、何か歌ふものが要ると、男聲四部に編曲しかへたりしてゐた。或意味では、便利な男であつた。その頃何をしたか、細々とは憶ひ出せない。神戸で演奏會を開いた時、鈴木重敏君ともう一人誰かが何處かへ遊びに行つて會に遅刻したので——記録には、誰かど、彼らがムーヴィに行つてゐたからだ、と告げ口をしたとなつてゐる——私が大變怒つたとか。これも忘れてしまつてゐただけで、先日、その頃の書記だつた細木君が細々と書いて置いてくれた古い記録を見て、そんなこともあつたのかなと思つた程である。恐らく鈴木君もこの事は忘れてゐるだらう。

然し今でも忘れられずに、そして時々憶ひ出してくすぐつたく思ふのは、そしてそれと一緒に、よくやつたものだと思ふのは、同志社の創立五十年記念かのイーヴに、メンデルスゾーンの「藝術に捧ぐる讃歌」と言ふ大物を出したとだ。それには少なくとも二つの動機があつた。一つは、この大曲を龔に山口君がやつて、失敗してゐることだ。これが私には多少くすぐつたい感を與へるわけなのだが、とにかく、その時には伴奏のブラスバンド譜を持ちながら、ピアノか何かでやらなければならなかつた。それもピアノ伴奏の譜を（何から寫したのか、下手に見苦しく）書寫して、私の妹のところへ頼みに來て、斷られたか何かしたのでつた。その時山口君は非常に残念に思つてゐたらしい。後で私がそのパート譜を見たときには、表紙にこの曲が再度同志社で演奏せられるのは何日であらう、と言ふ意味の感慨深い字が綴られてゐた。然しそれらの文字は私に「何、いつかやつてやるよ」と言ふ氣持を、實を言へばそれに感激してではなく、寧ろ反撥的に「やつて見せてやる」と言つた氣持を與へた。そしてその機を待つてゐたのだ。も一つの理由は、もつと實際的で、寧ろ第一のものに附隨して擧げられるものだ。と言ふのは、その年は私の時代ではまあ一番手のそろつた時代だつた。鈴木、津下と言つた連中がその年に卒業するので、これを逸しては、この大曲をやる機會が當分はなからう、と考へたからだ。曲のむつかしさ、それに對しての一般の力のたりなさ、かうしたことを知つてゐながら、多少の不安はあつたけれど無理にもやつて見たい氣になつたのだ。その上に伴奏の問題もあつたが、パート譜もあることではあるし、どうせやるなら、その頃あちこちで顔を合はせてゐた、今三高にゐる馬淵君を通して、京二中の人達に來てもらうことにした。練習の時の苦心、殊に初めてチャペルで總練習をした時に、聲が樂器に消しとばされてしまつた時の周章などあるが、書いて居れば長くなる。とにかくイーヴでやつた。夜の部には、マンドリンクラブの關係で來てゐられた菅原明朗氏と、も一人（恐らくマンドリンの先輩の益戸君だつたと思ふ）が自發的に、「應援しませう」と言つた具合で、チューバ代りにコントラ・バスを奏いて下さつた。（その頃は、私も

マンドリンクラブの方を應援してゐたし、かうして兩方が面白くやつてゐたのだ」とにかく夢中だつた。この大曲をどうにかやつたと言ふ感じだけが強く残つてゐた。

その後も同じやうに、棒を振り、必要に應じて編曲してゐた。この頃の私の記憶は、勿論音楽に關した限りではあるが、グリークラブに關しての範圍から外へ廣まつてゐる、と言ふのは、その頃の私の活動範圍が廣まつてゐたことを意味してゐる。年代は前後するが憶ひ出すまゝに書いて見ると、先づ藝にも言つたやうに、マンドリンクラブにも關係してゐた。私演會に菅原氏と並んで指揮したこともあつたし、演奏旅行にもよく一緒に行つたものだ。又今のシムフォニイオーケストラが未だ誕生そこゝで、やつと十人たらずの人を集めて、豫科教室で燥音と樂音との間あたりの音をしぼり立てゝゐた頃、私はその音頭を取つてゐたし、又そんな關係で直木君や、先年死んだ村井君等とトリオの眞似ごとをしてゐたものだ。又寶塚で合唱のコンコルソがあつたとき（そのときグリークラブは何故か出なかつたのだが）太田黒養二君に頼まれて、プリムローズクラブの練習を聞きに行つて、何かと注意をして上げたのもその時のことだ。（プリムローズが優勝して、大變感謝されたり、河原町の東洋亭で御馳走になつたりしたのを忘れもしない）そして私を、その頃柳さんや竹内さんがしてゐられた京都混聲合唱團に紹介し、終には指揮棒を振らせるやうにしたのも、この太田黒君だ。この様にして私は音楽部の各クラブに關係してゐたのだつたが、それだけ親しみをもつてゐた。又その頃、部員も多少重複して、各クラブの間にも親しみが深かつたやうである。（これは多少「憶ひ出」から「繰言」へ歩み出してゐるが、このやうな頃の音楽部全体は、今のむづかしく言ふと、各クラブの自己意識が分化し、發達した音楽部の空氣と餘程異つたものがあつたやうだ。強い自己意識に支配されて、どこ迄も各自のレゾン・デトルを主張し、引いては功名争ひをするのと違つて、その頃はお互が面白くやつて行くと言つたやうな氣風があつたやうだ。（これはしかし私獨りの感じからかも知れない）この意味からも、『お手つないで』野道を遊びながら行つた

あの頃が懐かしまれるのだ。『みんな、可愛い小鳥になつて』歌つてゐたのだから。』

この他に、演奏旅行の憶ひ出は多い。私にとつて何と言つても黄海を一周して、北京、天津、青島から上海に迄足を延した大演奏旅行が一番印象に深いやうに思ふ。(その時日誌のやうにして家に送つた手紙がそのまゝどこかに残つてゐるさうだ。まだいらないが、私が生活につかれて來たら、それを出して、その頃の生々とした印象から憶ひ出を強めたらよいだらう、と言はれて居る。そのやうな時が來ることを考へるのは淋しいことだが。)

私が同志社に歸るやうになつて、私のグリークラブとの關係は他の多くの先輩達とは異つた形で連ることになつた(「憶ひ出」の中にだけでなく、私はやはり「今」にも生きてゐる。今度の紀念會に就いても部員達は私を「今」に生きさせてくれるのだ)そして紀念音樂會にも昔の「棒」をとることを求められた。そして私は或意味で憶ひ出でもあり、希望でもあるやうなものを、「棒」を通じて「書いてゐる。と言ふのは、皆心を合はせて歌ひながら——私達はよく『心のハーモニー』』と言ふことを言つてきた——そして唯調子よく音符を唱ふだけではなく、一つの歌を、詩を合唱すること——平たく言へば、歌詞にもられてゐる「心」を歌ふ合唱だ。そしてその「心」で音符が一つ一つ生きてくるやうに歌ふのだ——を目標にして、合唱の練習を指導してゐる。(口幅ひらきたいことは言ふまい。人はその手段、努力、意圖と言つたものではなく、その時の出來具合で賞めたり、惡口言つたりするものだから。それに實を言へば、クラブの人達は合唱團員として充分訓練の行きとよいた人達と言ふことは出來ないから。)

最後に、この紙面を借りて私の願を書かして貰ふことが出來れば、このやうな、そこでクラブの現役と後備の人達とが接觸することが出來る機關がほしいと思ふことだ。勿論、それには經費の問題もあり、さう大したことは出來ないであらうけれど、小さなものでも時々出して現狀を報告し、先輩者の消息など知らせ合ふとすれば、互に理解を深め、何かにつけて良いことだらうと思ふ。私が渡米してからかなり長く引續けて、クラブの人達が讚美禮拜のプロ



グラムに寄せ書きをして送つてくれてゐたが、次第に知つた名が少なく、知らない名が多くなつて行くのは、自分が今生きて活動してゐるクラブから遠のいて行くことのやうにも思はれて、何となく寂しさを感じさせないでなかつたけれど、それでもこうして私を思ひ出してくれるのかと思ふと喜ばしいものだ。また私は忙しさにまぎれて、餘り通信もしなかつたが、それでもチエコスロヴァキアから來た聲樂教師の合唱團の演奏會を聞いた夜には（初めて本物の合唱を聞いたやうな感激を受けて）その時の印象なんかを細々とプログラムの餘白に書いて、時の指揮者山田君に送つたやう覺えてゐる。（今だつたら、もう少し批評的に聞くだらう。然し今でも。フォルティッシモからピアノッシモへ、又反對に、本當に髪一筋で移り變る自由な發想を想ひ出すことが出来る）とにかく何か斯うした、現部員とO.Bとが相會ふ「ところ」が欲しい。勿論去年のやうに、組合教會の總會を利用してその機會を作ることよいことだらう。然し横の廣さから言ふと、そうして相會し得る人は狭い範圍の人々に過ぎないし、又毎年さうしたことを持ち得るとは言えない。それで何かパンフレットのやうなものが、假令小さなものでも、（騰寫版刷りでもよからう）或は年一回でも續けて出されるなら、喜ばしいことではないだらうか。それがこの三十周年紀念の繼續事業となれば、また意義深いことだと思ふ。



## 沖繩演奏旅行の思ひ出

酒井美智男

グリークラブ員としての五ヶ年間に、色々な方面に演奏旅行をして、それぞれから異つた感興と印象とを與へられたが、その中でも最も印象の深く、私にとつては特に意義深つたのは沖繩旅行だつた。

先づ、その一行はと云ふと、珍らしくもグリークラブプリムローズクラブ、マンドリンクラブの三部合同混成撰抜チームであつて、山田基男(豫二)宇野勇次(神)松本淳(高商)上家憲(經)荒井清(經)の五君と私とがグリーから、長谷川常次郎(英)江村健三(經)神康生(豫三)下山鉄之助(經)山崎喜三郎(經)の五君がプリムローズから、そしてその中の山崎、荒井、酒井、下山の四名はマンドリンクラブにも籍があつたわけで、總勢十一名であつた。

大阪から「台中丸」と云ふ船に乗り込んだのは昭和四年の三月廿三日、若芽が顔を出し初めたばかりの未だうすら寒い頃であつた。神戸に一泊の後、船はいよゝ太平洋の荒海に乗り出でた。強さうに見えて案外弱かつた上家、宇野、下山の三君で三人とも甲種合格のがつちりした体格であり乍ら横に寝た切り起き上れない始末、弱さうで強かつたのが荒井君、江村君、松本君で、どんなに船が揺れて居ても、びよん／＼はね廻つて居た。殘餘の者は中位の處で、やう／＼食事が出來ると云ふ程度。

それから三日目に第二の寄港地である奄美大島の名瀬に入港して上陸が出來た時には、一同生き返つたように喜び、早速錢湯に飛び込んで三日分の垢を落し、次にはレストランで船中では不良であつた營養を補つたのである。此處には町に似合はぬ大きなカトリック聖堂があつて、一同そこを訪れたが、カトリックの勢力が斯かる避地にまで及んで居るのには驚かされた。

數時間の後に船は名瀬を離れて、いよゝ沖繩へと進んで行つた。進むこと丸一晝夜、未だ明けやらぬ朝霧を

通して仄かに島影が見え出したが、追々視野がはつきりして來るともう那覇の港が間近かつた。先づ私達の眼を驚かせたのは青々と繁つて居る樹木である。つい二三日前までは眞裸の木をのみ見て居た眼に全く初夏の光景が突きつけられたのであるから、その眼醒める許りに鮮やかな青葉の色に眼も眩むやうに感じた、

船はやがて岸壁に横付けとなり、主催者に迎へられて宿屋に着いた時にはさすがにほつとした。

此處で一寸説明して置かねばならぬのは、我々一行が招聘されるに至るまでの経過である。今回の招聘者は那覇日本基督教會青年會であつたが、此の教會はその牧師「芹澤浩氏」の過去七年間に渉る開拓傳道の結果生れ出したものであつて、漸く基礎も固まつたから、いよく會堂建築に取りかゝらうと言ふ事になり、その資金調達の最初の運動として我々による音楽會が計画せられた譯である。何故同志社に白羽の矢が當つたかと云へば、熱心な教會員で青年會のリーダーであつた多田武一氏の義兄に當る古賀善次氏とプリムローズのマネチャー長谷川君とが隅

々親しい友人であつたからその間に交渉が進められて遂に我々が行くことになつたのである。

さて到着の日は演奏會もないので午後からは市内見物に出かけたが、町の要所に掲げてあるポスターに曰く、「日本學生音楽界の最高峰、同志社大學音楽部學生一行十數名來演」と、此にはさすがの千軍萬馬の古強者も少々ならず汗顔の至りであつた。又町の人々は我々の角帽姿が珍らしかつたと見ね指ざしては感に堪へぬと云ふ風であつた。しかし我々とても眼に觸れるもので一つとして物珍らしくないものはなく、暖國らしい風景の一つ一つに好奇の眼を見張つたのである。特に婦人が素足で歩いて行くのは不思議であつた。その夜は受難週第五日（木）であつたので教會の聖晚餐式に出席し、聖歌を一つ合唱した。

その翌日の夕から演奏會が始つたが、連夜満員の盛況で、此種の會で五拾錢の入場料と云ふのが初めての事であつたので多少危ぶまれて居たのが全くの危惧となつた。何しろ新聞ではデヤンデヤン書き立てるし、教會員は死

者狂ひで前賣に奔走されたのであるから、入場者が少くなければどうかして居るのである。正に沖繩インテリ階級總動員の觀があつた。那覇で三夜共來聽する熱心者も現はれた。演奏會は前述の通り那覇で三夜と晝間に一回、首里（縣廳所在地）の師範學校で一回、たしか五回であつたと思ふ。コーラスは全員出勤で第一テナーが酒井江村、第二テナーが松本、長谷川、バリトンは上家、荒井、山崎、バスが山田、宇野、神、下山であつた。カルテット酒井、松本、荒井、山田で上家は獨唱をした。マンドリンのカルテットは第一マンドリン山崎、第二荒井マンドラ酒井、ギター下山であつた。最も人氣のあつたのが上家君のバリトン獨唱、次が例によつてカルテットの「おいジョンさん」「サム叔父さんの宴會」であつた。卅一日は復活節聖日であつたので一同朝の禮拜に出席し、夜は「讚美禮拜」として一行中の八名が奉仕し「獨逸ミサ」や讚美歌を合唱した。

演奏會の合間々々に主催者側より種々の御接待を受けた。先づ一行の歡迎會は舊琉球王の別邸で催されたが、

そこは那覇から少し離れた閑寂の處に在り、その庭園は人工的でなく自然のまゝであるのが反つて美しく、我々は非常に氣持よく半日を過ごさせていたゞいた。又那覇を起点とする沖繩縣唯一の鐵道の終点に當る嘉手納と云ふ町に行き、其處に在る製糖會社を見學した。その汽車と云ふのが全く骨董的存在で、誠に長閑かに走り給ふのである。少々時間におくれてても走つて追ひかければ充分追つけると云ふ代物であつた。實際手を舉げれば何處でも止つて呉れると云ふ話があつた。しかし此も無賃で乗車させて貰つたのであるから、余り棚おろしをしては相濟まん譯である。其他首里にある舊琉球王城、無線電信局、源爲朝の舊跡等も見物させて頂き、誠に有益な數日を送つたのである。又那覇教會の會員の御家庭にも數回お招きを受けて、心からなる御接待を頂いた。我々が最も恐縮したのは、我々一行の爲にわざわざ「琉球音樂舞踊の夕」を催して下さつた事である。それには沖繩古典音樂、舞踊の家元や一流大家總出演であつたそうでそんなに顔ぶれの揃ふ事は其迄にも無かつたと言ふ話で

あつた。我々が主賓で他は那覇市の上流階級と音楽會關係者が傍聴と云ふ形、それでも女學校の講堂がぎつしり満員であつた。歌、踊り、琴、色とりどりで夕八時から十二時過ぎまで、一度のインターバルもなしに続けられたから、少々ならず沖繩情調に食傷したのであるが、豫備知識のない我々の爲に歌詞解説まで刷つて下さつた厚い御好意には感謝せずには居られなかつた。殆んど見知らぬ人許りが歌ひ踊つた中に、先きに述べた古賀氏とその夫人が踊られたのは印象深かつた。聞く處によれば、そのお二人共が沖繩一流の踊り手であるとの事であつた古賀夫人は見るからに物靜かな、つましやかな方であつたが、その踊りも實に幽雅であつた。此のお二人の御結婚には浮ついた意味でなしの美はしいロマンスがあつた事は後で聞いたが、惜しい事に夫人は先年なくなられた。しかし故人生前の熱い信仰は遂にその夫君を信仰に導いて今日では古賀氏は義弟の多田氏と共に教會の柱石となつて居られる。

話が思はず横道にそれてしまつたが、いよ／＼總ての

プログラムを終へて、九州經由で歸途につくと云ふ時になつて、大連からの電報は山田君の御母堂の急病を傳へた。一同憂色に閉ざされたが、心を一つにしてその恢復を祈り乍ら、つきぬ名残を止めて、四月七日の午後「大義丸」に乗船したのである。往船よりも小さい船であつたが幸ひ波は穏かで、翌日名瀬に寄港、十日には無事鹿児島に入港した。山田君は此處で一行と別れて大連へ直行せられた。残る十名で鹿児島での演奏會を済まし、十二日朝鹿児島出發、途中福岡に下車して神君の御家庭を訪れてから一路京都へと歸路に就いたのである。

此の演奏旅行は實に愉快な又感謝すべきものであつた第一にその主催者が教會であつた事は感謝である。宇野君が途中で病氣になつた時など、教會員でお醫者さんの山田氏が一日に三四度も回診して下されたし、芹澤牧師は自らも發熱して病床に就いて居られたにも拘らず、夜中人力車で駆けつけて下さる等、親身も及ばぬ御心遣ひに一同深謝した。

第二には演奏會の純益が教會堂新築の資金として捧げ

られた事が感謝である。我々の訪れてより三年の後に堂々たる教會堂が見事に建てられたのである。

芹澤牧師は會堂落成後間もなく遂に病の爲に倒れられたとお知らせを受けたのであるが、此の「誠に死に至る迄主に忠信なりし」傳道者を失ふた事は實に惜しい事である。

思ひ出は盡きない。今は天上の人となれる古賀夫人並びに芹澤牧師の靈、神の御許にて安らかなれと祈りつゝ、  
擱筆しよう。  
(一九三四、八月十七日夕)

## 同志社混聲合唱團

### 東京演奏旅行記

荒 井 清

昭和三年の第二學期が始まると直ぐだつた。ある日竹内先生がミックスの練習を終へられてから『來年の三月頃渡歐する心算であるから、その前に出來得れば年内に東

京で告別獨唱會がしたい。その折角育てゝ來た此の混聲合唱を東都に批判させてやり度い、否京都にも此だけ充實した合唱團があるんだぞと言ふ意氣で一緒に行かないかと云ふ相談を受けた。

時の大學々友會の理事はブルムローズの長谷川君で僕がミックスのマネージャーをしてゐたが、行がより上僕がマネージャーとして行くことになつた。幹部で相談して自信があればと皆が自信のある様な口吻だつた。先生は此からミツチリ練習すれば同志社イヴと兩道かけてドツチに轉んでも損ぢやないと言はれるので馬力をかけることにした。演奏會は二月初旬と決定したので一同は練習にかなりの努力を要した。

色々なイキサツがあつた。辛い目もした。意地の張合ひもあつた。各方面の了解を得べく飛んだ。何しろ同志社始つて、否我國では東京の音樂學校以外に男女學生が一緒に演奏旅行をすることは絶無と言つてもよい。小學校ならいざ知らず専門學校以上で男女學生の同行を許される所は假令事情がさうであつたにしろむしろ絶對的に

不可能事であらねばならない。

同志社本部の理解ある御援助は計画した者にとつて此上もない喜びだつた。裏には竹内先生の御力もあつた。

當時の音楽部長片桐先生、女専部長松田先生の御盡力によつた事は申す迄もない。が又、その反面、内外からのかなり極端な壓迫もあつた。兎角のウルサイ口もあり過る程だつた。然し總勢八十幾名かのミックス部員は一途に同志社の爲、日頃精進する音楽藝術の爲にと總ても忍耐して到々此の同志社にとつて恐らく空前絶後の壯舉を决行した。

二月三日の豫定であつたが、久邇宮様崩御の爲、二月五日東京神宮御苑内日本青年館のホールで演奏會をすることに決定した。

「吾等のテナー藤原義江氏」のマネージャーとして働いてられる塚本嘉次郎氏に一切のマネージメントを頼み、此方らは如何にして安く往復するかと云ふ實際問題の研究をやつた。資金が無い！團體割引！！急行に乗れない！！それもよからう。皆が拾圓づゝ出して行かうと云

ふ事になつた。足りなくなればどうにかなるだらう。又竹内先生もどうかすると言明を與へて下さつた。

急行と急行の間を走る午後七時何分かに京都驛を出る所謂區間列車に乗つたのは二月三日だつた。同勢の内譯は女専グリーが先生と共に五十五名、プリムローズが十一名、我がグリークラブは十五名、計八十一名。十五時間目の二月四日午前十時すぎに亀の子列車が百數十名の校友同窓並びに關係者に迎へられフォトニユース社の寫眞機の前に立つた。辿りついた所は宿舍の日本青年館にあらずして何と日本ヴィクターの吹込室だつた。同志社ソングの吹込ださうだ。その時の睡眠不足の聲が巷間に賣られてゐるレコードになつたのである。然し嬉しかつたヨ、實際！！吹込料としての金壹百圓也は一同の歸途の費用になつちやつた。

歌ふはなつかし 古昔のまゝなる……

本當にあのレコードをかける毎に僕は昔のあの和かな一つの心になつて歌つた時のことを涙して思ひ浮べずには居られない。歌ふはなつかしいこぞのまゝなる、めぐ

し歌聲である。

四日は休養、愈々五日だ。先生の獨唱、我等の合唱共にニコルスカヤ嬢のピアノ伴奏で力一ぱいに歌った。さうしてそれとなく二千人も聴衆の言葉を聞きに歩き廻つた僕だつた。その時の氣持は僕獨りの胸に永久にしまつて置く。竹内先生が風邪をひかれて苦しうに歌つてられる。耐らなくなつて假令十分でも休んで頂きたかつたので、厚顔だつたかも知れなかつたけれどもお客様の了解を得てグリーとプリムローズだけでお得意の詩篇九十八篇を歌つた。溢れて来る涙をこらへつゝ歌つた。全く一生の中あれだけ感激で歌を唱ふことはあるまいと思つた。

濟んだ、重荷を下した、力が抜けさうだつた。然しまだ濟んだのではなかつた。女専から『スグカヘレ』の電報!!むしろ『ゴク로우サン』と云ふ電報が貰ひたかつたのに又忙しい思ひをした。七日の團體割引の申込を驛に斷つて翌六日午前七時の汽車に乗ることにした。それこそ恨をのんで……………。

皆は思ひ／＼に銀座、新宿へと名残を惜しみに出かけて行つた。然し僕は残務整理と歸洛準備の爲獨り宿に残つてゐた。そしてグリーの先輩井上順君、松崎功君等と僅かに時を得て日本青年會館の喫茶部で話したのだつた。成功だつたことを聞いて嬉しかつた。如何に校友同窓の力が有難いか、此の短時日にあれだけの人を集めて下さつたのは一に敬愛する諸兄姉の御靈力によるものと深く感謝した。六日の朝霧を貫抜いて汽車は東京を離れて行く。皆の心が一つになつてゐた。薄暮かすかに比叡の峯の霞む京都に着くまでの時間は楽しいものだつた。

ロングメイシーリヴァワー ドーシーシャ ワン パーパス ドーシーシャ……と驛のプラツトフォームで八十人のコーラスを別れの合圖に思ひ／＼の氣持を抱いて懐しい想ひ出を心の奥に秘めて歸宅した。

東都樂壇を襲つた同志社のミックスは大きな波紋を投げかけたことだらう。よく均衡のとれた合唱團だとほめられた。

竹内先生を神戸の埠頭に送つて事實上の此のミックス



は解散した。

歸洛後種々の問題が惹起した。マネージャーだつた僕を撲ると云つて追かけた人もあつた。然しその當時のグリーの人々に守られて幸に事なきを得た。決して此の仕事は僕一人で出来たものではなかつた。ミックス全員の團結、殊にグリークラブの皆が陰に陽に力づけて呉れたからだつた。當時の苦しかつた事等も今になつて見れば皆楽しい想出と懷しさで一杯だ。

—終—

## 昭和三年 第五回滿鮮旅行記

海老澤宣道

七月十四日の夜、試験の済んだばかりの日、京都を出發した汽車の中はブリムローズや應援團等から贈られた果物で一ぱいである。

翌朝十五日、下關で徳壽丸に乗船。臭氣フンブンたる船室に惱まされ乍ら、朝鮮へ渡る。海上穩かに同日夕方釜山着、直に

乗車、京城へ向ふ。

十六日午前九時、多數の校友、同窓に迎へられて京城着。二見旅館に投宿した。此の町は美しい。ポプラと煙瓦の町である。同日夜音楽會へ出演。會場は商業會議所階上。黒田君(同大生)の御盡力によつて非常な盛會であつた。此の日、昌慶苑や景福宮を見物する。

十七日にはJODKよりラヂオ放送をしたが餘り上出来でなかつた。

十八日午前六時半平壤に到着。多數の校友、同窓に迎へられて櫻旅館に投宿。文祿時代の戦跡、大同江、牡丹台等を見學、妓生學校をも見物した。種々な手違より音楽會は中止となつたので、教會(田口牧師)で讚美禮拜を守る。

十九日正午、鴨綠江を渡つて安東着、税關で所持品を調べられた。音楽會場は滿鐵の女學校講堂。酒井君が咽喉を害して聲が出なくなつたので大變困つた。しかも聴衆は滿員の盛況。吾々の合唱はトテモ下手だつたので、主催者の校友達に叱られた。二十日午後二時奉天着。渡部牧師、稻葉氏他二十名程の校友同窓に迎へられる。稻葉氏宅で支那料理が初めて口に入つた。夜は軍隊慰問音楽會。滿鐵女學校へ兵隊さんを招き音楽會を開

いた。合唱の他に大野富之助君が落語をやつたが此は拍手喝采だつた。「同志社は落語の學校ですか？」と言つた兵隊さんがあつた。

二十一日夜は音楽會へ出演。非常な盛會。合唱の出来も上乗で安東の失敗を回復した。二十二日朝、奉天教會で讚美禮拜を守る。難波紋吉先生が「人間としてのイエス」といふ説教をされた。讚美禮拜後、洞庭春といふ支那料理店で同窓の方から御馳走して頂いた。

二十三日晝間は見物、稻葉氏に大變御世話になつた。夜は再び屯兵慰問音楽會開催。

二十四日午後三時公主嶺着。馬車に乗つて市外に出ると如何にも滿洲といふ感じがした。音楽會は小學校講堂で開く。此の町には日本人は千人しかゐない相だ。それにしても音楽會は盛會だつた。

二十五日午前十一時半春長着。此の町は日本、ロシア支那を融和した様な町。雨を冒して寛城子へ向ふ。寛城子はロシア人部落である。ロシア小學校の立派なのに驚く。音楽會は長春滿鐵クラブで開かる。聴衆二百、會費は大人五〇錢、小人三〇錢

二十六日正午四平街着。音楽會は滿鐵クラブで開かれる。聴

衆は子供が多かつた。

二十七日午後二時撫順着。京都を發して二週間になる。歌つたり見學したり忙しい旅行だが皆んな病氣もせずに元氣。音楽會場は第二小學校附屬幼稚園。内地の女學校より遙に立派である。聴衆は令嬢、貴婦人、紳士方三百名。何しろ今迄にグリークラブが四回も滿鮮旅行をやつてゐるので、コール・ジョンをやつたら「その歌は、もう四度聞きました」と言はれてギヤフンと參つた。しかし合唱の出来はよかつた。校友の某氏に案内されて炭鑛もスツカリ見學する事が出来た。

二十八日午後一時遼陽着。同夜滿鐵小學校で音楽會を開く。此の音楽會も盛會であつた。閉會後直に大連へ向ふ。

二十九日午前七時大連着。出迎への校友、同窓山の如し。青年會で休みして教會へ赴き、讚美禮拜を行ふ。會衆二百、女學生が多く滿堂の盛會。難波教授が説教をされた。磯部牧師は世界SS大會へ出席せられてゐたので不在。讚美禮拜後YMC Aで校友、同窓會が開かれ八十名ばかりの人々と共に共食する。午後は市内見物。夜JQAK(大連放送局)より放送した。上乘の出来。

三十日夜 於Y M C A、音楽會へ出演。聴衆六百。

プログラム次の如し。

①合唱 詩篇九十八

②二重唱 春の喜び……ベートーベン作

③合唱 我國兵士 かへれ

④アルト獨唱 中川春枝嬢

(A)月光と霧……

(B)あめちよ……

⑤男聲四重唱 二つのバラ……ウエルネル作

⑥合唱 ヘレルヤ十字架……マクグラナハン作

⑦合唱 郊宴の歌……ゼーデルマン作

⑧女聲二重唱 中川春枝嬢 俣玉芝嬢

微風に寄する歌(フィガロの結婚より)

⑨合唱 蛙 ハトボツボ 歸雁

⑩ピアノ獨彈 村岡天津子

⑪四重唱 (A)鉄道開通 (B)コールジョーン

⑫合唱 御榮いとたかし モツアルト作

此で吾々の演奏旅行は終つた。

三十一日は旅順見學。

一日はヤマトホテルで感謝會が開かれた。二日は自由行動。

三日午前十時ハルビン丸に乗船、大連を出帆した。百名ばかりの人々が見送つて呉れた。

「ワン ツー スリー フーアルウィー ラララ 同志社」とチャイを叫び、同志社ソングを歌ふ。残る人、去る人共に母校の爲に祈つた。

(グリクラブの記録簿より)

## 昭和五年 台灣演奏旅行日記

記録簿より抜萃

七月十五日午前八時半、一行十七名京都發。正午神戸港出帆。船は蓬來丸、幸にして海は穏かだつた。

十六日(夜)九州の西海岸を南下しつゝある時、船中の本島人會開かれ、グリー及びマンドリン共に乞はれるまゝに出演した。此の頃より暴風襲來、海は荒れ波はさかまく。船酔ひする者續出。

十七日終日嵐の中を航行する。起き上る者は無い。

十八日(金)今日は天氣晴朗、しかし風波は依然として高い。豫定より一時間早く正午過ぎに基隆入港。台北在住の校友達に

迎へられる。小さな汽車に揺られる事五十分、窓外の風景は支那色濃厚なれども滿洲とは趣を異にする。ホテルに投宿、直ちに自動車で台北新聞社、總督官邸、知事官邸を廻り挨拶を述べる。

十九日五時半起床、午前中練習。午後から市内見物、阿呆塔にも登る。荒井君の御宅へ招かれ台灣ウードンの御馳走になる。夜最初の演奏會へ出演。會場は醫專講堂、雨に崇られて會衆三百。

合唱曲目に宗教的なものが多つた爲、音樂會が重苦しかったといふ批評を受けた。今夜はマンドリンクラブの出來が素晴らしくつた。

二十日(日) 好晴。原忠雄氏の台北組合教會で讚美禮拜を守る。海老澤、井田兩君は日曜學校で兒童説教をした。午後は非常に蒸暑つたが猛烈な夕立が見舞ふ。午后三時、台灣總務長官人見氏邸に台北在住の校友、同窓と共に招かる。

午後六時、演奏會第二夜開かれ、部員一同祈禱を済してから出演。今日は會衆非常に多く堂に溢れる。吾々の合唱も上出来だつた。

プログラム次の如し。

① 合唱 詩篇九十八

② 合奏 オラツチオ兄弟とクラツチオ兄弟

③ 合唱 獨逸ミサ全曲……：シュニールト

④ 獨奏 スペイン狂想曲 ムニエル

⑤ 合唱 モテツテ ネーゲリー

永久に恵みあれ メンデルスゾーン

⑥ 二重奏 主題と變想曲 クレメンティ

⑦ 合奏 カルメン拔粹曲 ビゼー

⑧ 合唱 雲雀 メンデルスゾーン

學園を憶ふ オイルジウアー

⑨ 四重奏 二長調四重奏 モツアルト

⑩ 合唱 歸雁 ハウプトマン

蛙

⑪ 合奏 物語 ムニエル

ルイ十四世のミヌエツト

⑫ 四重唱 愛の夢 フォスター作

鐵道開通

二十一日午前八時台北出發、正午台中着。下車して見ると驛頭の出迎へは樂隊付である。此には吃驚した。市街をドライブ

し乍ら見物する。新聞社を訪問。午後三時、台中知事官邸のテ  
ィーパーティーに招待さる。知事夫人が同窓會員であり、令嬢が  
同志社女專の學生たる所以を以てある。夜の演奏會はつまら  
ないものだった。子供の會の贊助出演といつた形。

二十二日台中を發し高雄へ向ふ。北回歸線の塔が見え出すと  
皆が暑いと言ふ。いよゝ熱帯地帯に入つた。荒井君の姉  
さんや其他の人々に迎へられて高雄着。椰子の實が驛頭にブラ  
下つてゐるのを見る。波止場へ行き、ランチャタンパンに乗つ  
て對岸の燈台へ行く。夜は演奏會へ出演。汽船の淋しい号笛を  
聞きつゝ南國の旅路に夢を結ぶ。

二十三日(水)朝早く井上氏他數人の方とドライブする。午前  
八時半高雄發、十一時台南着。林茂生氏他數人の人々に迎へら  
れ、台南市公會堂で開かれた午餐會へ出席。台灣上陸以來始め  
て台灣料理を腹一杯つめ込む。午後はドライブし乍ら見物。有  
名なオランダ人の城跡を見ては、濱田彌兵衛の活躍を想ひ起し  
た。孔子廟や台南神社をも訪れた。

蒸暑い夕、台灣上陸以來第五回目の演奏會を持つ。會場は台  
灣隨一の芝居小屋宮古座。

二十四日朝、台南を發し、虎尾の大日本精糖會社の招待演奏

會へ行く。列車は會社の貸切二等車である。先日の大洪水で鐵  
橋が破壊されてゐるので、徒歩連絡した所があつた。正午から  
六時まで會社の俱樂部で休息。暑いので眠れない。演奏會は會  
社の集會室で催された。大きな蠅蠅が天井を飛び廻る様は物凄  
い。演奏會終了後直ちに嘉義へ向ふ。嘉義へ着いたのは夜半十  
二時。

二十五日 昨夜寝たのが二時なのにも拘らず、午前七時半眠  
いのを起されて阿里山行列車に乗込む。竹崎驛までは二等列車  
だったので大威張。それより以東は山線。物凄く煙を吐く汽車  
おまけに生命財産保証せずといふ頗る物騒な汽車だった。スピ  
ードが遅いので、ジョージヤバ、やショーチャン等は飛降りた  
り飛乗つたり……珍藝百出。四十六のトンネルをくぐつて二萬  
平に着く。途中生蕃に出つた。更にスイチバックしつゝ四時  
阿里山へ着く。海拔八千尺、四十六哩の道を八時間で登りつめ  
た。特に伐材を見せて貰ふ。氣温六十度、皆んな寒さに震へ上  
る。演奏會は林間學校で開かれる。子供ばかりだった。海老澤  
君の童話と酒井君の童謡獨唱があつた。宿舎は林間學校。

二十六日(土)朝の阿里山を散歩する。残念な事に、新高山は  
雲中に閉ざされて見えない。京都を發して久しい。そゝろに旅

の疲勞を感じる。午前十時下山、午後六時嘉義着。一風呂浴びる間もなく演奏會が始る。会場は市公會堂、氣持の良いホールだつた。此の嘉義では酒井君の叔父さんに大變御世話になつた。

二十七日 井田、海老澤の兩君發病し、容態悪く、同行不能となる。一行十五名十時の汽車に乗り遅くれ、一時間損したが井東へ向ふ。車中は台灣婦人の頭髮の臭氣に惱まされ続けだつた。井東へ着くと早速、演奏會を始めねばならなかつた。会場は小學校。

最後の演奏會である。數々の想ひ出を残した台灣演奏旅行が今夕の演奏會を以て終了するのだと思ふと感慨無量だつた。最後のカレッツ、ソングを歌ひ終へた時には、張りつめてゐた氣が抜け、一時に疲勞を感じた。校友李氏に大變な支那料理の御馳走をして頂いた。

二十八日 朝九時東港へ向ふ。自動車で水中を疾走し、危險を冒し乍ら三時過ぎ東港着。物凄く支那料理の御馳走をして頂く。椰子の實の御土産を頂いて井東へ歸つて來たのは夜の九時半。

二十九日(火)皆んなの疲勞甚だしく、殊に宮本君は發熱激しくして同行不能の容態。宮本君を井東に残して一行十四名午前

七時高雄へ向ふ、八時高雄着。更に台北へ向つて歸途を忙ぐ。午後六時無事に台北着。途中嘉義で海老澤君病氣恢復して一行に加つたが井田君は未だ離床出來ぬとの事、皆んな悲觀する。

三十日 皆んな疲勞極度に達し仲々起床出來ない。針木氏、羽鳥氏の宅へ御禮しに赴く。數人の者はドライヴに出掛けた。午前六時から校友主催の送別會へ一同出席、又支那料理の御馳走。

三十一日(木)午前八時半、校友、同窓の方々に見送られ、發病した宮本、井田の兩君及び兩君の看護の爲に残られた荒井君の三人を除いた十四名、台北出發。十時半基隆出帆、銅羅が鳴る汽笛が響く。

ロング・メイ・シー・リヴ・アワー・ド・シヤアの歌聲を合せ、デツキの上の者も見送る者も共に愛する同志社の幸を祈つた。

「なつかしい台灣よ、左様なら」

(島本裕二記)

# 創立三十週年紀念事業報告

(九月以降)

宮 本 光 夫

本年九月以降に行はれた紀念集會に就て御報告申し上げます。

## ◆「グリークラブの創立に就て語る會」

九月八日 午後七時 於アームスト會館

グリークラブ創立當時の記録が無く、當時の模様や、クラブ成立の經過に就て正確な事實を知つてゐる人が少く、三十年史編纂の上に障害を來しましたので、創立當時のグリークラブを知つてゐる人々に集つて頂き、當時の情況を語り合つて頂きました。

出席者 片桐哲氏、速水藤助氏、堀内清氏、三輪源造氏、蘭

川四郎氏、田島光三氏。

(部員) 古谷三郎、宮本光夫、太田三郎、島本裕二。

## ◆創立三十週年紀念祝賀會

十月十一日 午後六時 於新島會館

順序 一、讚美歌 五四

一、祈 禱 渡部守成牧師

一、挨拶 宮本光夫

一、感謝 片桐教授

晩 餐

一、懇談會

一、「グリークラブの歌」合唱

先輩、關係者多數の御來會を得、グリークラブとしては歴史的な集會を催す事が出來ました事を感謝した次第で御座います。殊に、神戸に開かれた組合教會總會に御出席の爲、御來神になつた奉天組合教會牧師渡部守成氏の御出席を得た事は、此の會をして一層意義あるものたらしめた事と存じます。渡部、速水、片桐、中瀬古、淺野、堀内諸先輩の懷舊談に花が咲き、九時半閉會致しました。

出席者名(ABC順)

(先輩來賓の部) 淺野恵二氏、江村健三氏、速水藤助氏、堀

内清氏、片桐哲氏、海老澤有道氏、松本淳氏、本宮彌兵衛、

中村正氏、中瀬古六郎氏、渡部守成氏、マンドリンクラブ

(西田直道君、田口明君、丹治茂君)

(部員側) 古谷、宮本、三原、太田、島本、對馬、柳原、高橋

◆創立三拾週年紀念音樂會

十月十三日(土)午後七時 於榮光館

プログラム

第一部

グリークラブの歌(新發表) 三輪源造作詞 大中寅二作曲

一、合唱 Sursum Pastor bonus .....Palestrina

一、合唱 幸よ悲しむは常に慰與へられん……大中寅二作  
ものみな舉りて、御神を讃へよ

一、テノール獨唱 湯淺永年氏

ピアノ伴奏 宅 孝二氏

Recitative: Comfort Ye My People

Aria: Every Valley, Shall Be Exalted.

from Oratorio "Messiah" Handel

一、合唱 詩篇九十八 先輩、現部員合同

感謝狀贈呈式

第二部

一、合唱 Adornatus Te Pitoni

O Salutaris Hostia Pisari

一、テノール獨唱 湯淺永年氏

Panis Angelicus Frank

(Extrait de la Messe Solennelle)

Aria: Then Shall the Righteous Shine Forth

from Oratorio "Elijah" Mendelssohn

一、ピアノ二重奏 宅 孝二氏

中瀬古和子嬢

協奏曲 イ長調 Mozart

一、混聲合唱 女専合唱團

大學グリークラブ

Grant Me True Courage, Lord.....Bach

Rejoice in the Lord Alway .....Purcell

午後六時開場と同時に、聴衆陸續として相繼ぎ、定刻には千三百に達し、受付係は應待に忙殺されました。先輩、海老澤、藤井、江村、松本、中村の諸氏が應援して下さつた事は感謝でありました。

開會前祈禱會を済せ、七時十分、開會の挨拶に次いでプログラムに入り、森本芳雄氏の指揮の下に、先づ「グリークラブの歌」を發表。終つて作詞者三輪先生に登壇を願ひ、會衆に御紹介申し上げれば、満場の會衆は盛んな拍手を送りました。合唱、獨唱と進み、休憩に入る前、部員一同ステージに



整列、先輩濱田光雄氏の挨拶の後、總長事務取扱湯淺八郎氏登壇、多年グリークラブの爲盡力された三輪源造氏、片桐哲氏の兩氏に對し感謝狀の贈呈式が行はれました。此はグリークラブにとつては、大いなる光榮であり、感謝でありました當局に對し深甚なる謝意を表する次第であります。

第二部の宅氏、中瀬古嬢によるピアノコンチェルトは、當地にては珍らしい演奏でありますので、非常な期待を持つて迎へられ、盛んな拍手喝采を享けました。

混聲合唱はクラブ女史の指揮の下に、女專合唱團の賛助出演を得て行はれたものであります。閉會九時。紀念撮影を済し、一同新島會館に引上げ、懇談十一時に及び解散致しました。

(以上)

## グリークラブ現狀報告

宮 本 光 夫

同志社の神學館と云へば、先輩諸兄にとつては懐しい思出であり、又なつかしい響を傳へる事でせう。心のふるさと、歌の

故郷、少くともグリークラブの生活を體驗した人なれば、恐らく同志社のカレッヂライフ以上に印象深いものがあると信じます。

その神學館に今も變らず練習をつゞけてるグリークラブが此の建物の中に三十年間育てられ、今秋創立卅週年を迎へた事は感謝であり且つ我々の神學館に對する印象が一層深められた事を思ひます。

さて現在の部員數は四五年前に比べれば激減の狀態であります。今部員及役員を御紹介致しませう。

音樂部長 田畑 忍助教授

コンダクター 太田 三郎

マネージャー(音樂部理事) 宮本 光夫

サブ・マネージャー(音樂部委員) 高橋 才登

會計 全

記録 鎌谷 巖

第一テノール 島本 裕二(法・三 同志中出身)

武田 好一(神・三 京一中出身)

堤中 孝三(豫・二 今津中出身)

・松本 寛二(専・一 京城龍山中出身)

第二テノール

バリトン

バス

今春十余名のフレッシェメンを迎えましたが、今后これ等若

き人々により、一層内外共益々發展する事を願つてゐる次第であります。

練習は今も昔も變りなく晝食后、演奏會前等は放課后又は夜練習も行つております。此の練習に關しても同志社建物使用規定が制定され、神學館と雖も圖書提出の上、使用許可を承けるのであります。他の建物は無論夫々規定を履み、時、場所により使用料を徵集される状態になりました。

四月以降現在迄

同志社建物使用數(使用願提出の分)

八回

ク 使用料(ク)

貳拾七圓拾五錢

練習曲目(最近のもの)

1 Solig sind des Himmels Erben

2 Flug der Liebe

Vollkiste

3 Knecht

R. Strauss

4 Surroxit pastor bonus

Palostina

5 幸ふ悲むは慰常に與へられん

大中寅二

6 Y.M.C.A.の歌

近江兄弟社

7 ものみなこぞリて貴神を讀へよ

泰本芳雄編

8 Adoramus Te

Pioni 全上

9 O Sularis Hostia

Pisari

10 Kloster Grabow

C. Loewe

11 グリークソングの歌(新發表)

大中原二

演奏會及び出演數

一、「オルガンによる聖樂演奏會」

一、郡是製糸株式會社に於て

一、浦富、神戸女學院キャンプ日曜禮拜にて

一、太田三郎君御母堂御葬儀にて

一、大澤善助翁御葬儀にて(混聲合唱)

一、梅原家御婚禮にて

一、創立卅週年紀念音樂會(別稿)

一、第一回學生週間音樂會

一、Y.M.C.A 歌發表音樂會

一、京都日曜學校生徒大會(四重唱)

一、同志社創立紀念音樂會(晝夜二回)

以上をもつてグリークソングの活動狀態を御了解願つたと思ひます。

次に會計狀態に就ては、學友會割當金現在一ケ年約百二十圓程度で、此の外校內大會費として貳拾五圓の豫備があります

部内に於て別稿會則の如く毎月參拾錢宛徵集、新入部員は入會金壹圓を納入する事になつて居ります。本年度會計は殆ど特別會計の如く、第一學期の大中原氏演奏會及創立紀念音樂會、紀念誌出版に關し、莫大なる會計となりこゝに詳細御報告する事は出来ませんが概算のみ御參考迄御報告致します。

# 收入の部

總額 參百壹圓六十九錢

内譯 前年度繰越金

部員會費及入會金

特別收入

學友會割當金

支出の部

總額 貳百九十六圓十三錢

内譯 通信費

交通費

紙代(樂譜印刷用)

謝禮及チャペル使用料

印刷費

樂譜代

參拾四圓六拾錢

五拾五圓參拾錢

八拾五圓七拾九錢

壹百貳拾六圓

十四圓六十七錢

二十四圓二十八錢

十四圓十六錢

七十二圓六十五錢

十八圓

十七圓

負擔金

四十八圓

雜費

四十七圓三十七錢

合宿使用金額

四十圓

殘金

五圓五十六錢

次にグリーククラブ年中行事の「歌の夕」(讚美禮拜)は、昭和六年迄、年三回開催と云ふ事になつておりましたが、諸種の事情で年一回と云ふ事に改め、現在では第三學期卒業生送別の意味も含め行ひ、今迄に卅七回を重ねました。

最後に音楽部全般の狀勢を御報告致します。

現在音楽部は次の五團體が所屬しております。

一合 唱

團：グリーククラブ

ブリムローズクラブ

音楽部

一オーケストラ：マンドリンクラブ

シンフォニーオーケストラ

一邦 樂

團：都山流、上田流

此の分類は昭和七年、學友會總會にて決議されたものです。

それ迄は、音楽部としてはこれだけの部門を持ちながら只一名の理事を選出し、毎年各部が交替して理事會に参加してゐた爲學友會事務上の勢力は非常に薄弱で、他の各運動部其他に比し頗る變態的なものでありました。昭和七年筆者が理事の節音楽

部年來の希望として各部獨立を計劃したのですが、これは余り變化が激しい爲に、前述の提案を學友會理事に提出、時のブリムローズマネージャ大石君等の援助を得て、この提案の可決を見たのであります。同年より早速合唱團、オーケストラ團及び邦樂團より各一名づゝの理事と二名宛の委員合計三名理事六名の委員を學友會に送り出す様になりましたが、未だ部長は一名で従前と變りなく、此等莫大な諸團體の監督者として誠に御迷惑な事です。將來はこの分類が一層完全なるものとなる事を願つてゐる次第であります。

音楽部各部團體の活動を詳細に御報告する事は出来ませんが今春來催されたものとしては

六月 宗教樂協會第四回發表會

同志社シンフォニーオーケストラ

十月廿日 第五回私演會 ブリムローズクラブ

十一月十七日 邦人作家の夕、マンドリンクラブ

此等の外に大學ハーモニカソサイエターがありますが、學友會に所屬して居りません。高商には現在ハーモニカと合唱團のリーダー・クランツコールの二部があり共に活躍して居ります。以上簡單乍ら御報告とします。

# 同志社グリーククラブ會則

昭和六年十二月制定

## 第一章 名 稱

第一條 本クラブは同志社大學グリーククラブと稱す。

第二條 本クラブ本部は同志社大學内に之を置く。

## 第二章 趣 旨

第三條 本クラブは男聲合唱を以つて宗教音楽の普及發達を

計り、基督教精神による人格の向上及び、相互の親和を計るを以つて目的とす。

## 第三章 組 織

第四條 本クラブは同志社大學及び同志社専門學校に籍を有

する學生、生徒を以つて組織す。

第五條 本クラブの部員募集は毎年四月とし入部希望者は規定の申込書を提出する事

但しその期間外の申込者は部員一名以上の紹介によるものとす。

第六條 本クラブは部員制を設け左の二種とす。

一 準部員(入部許可されし者)

一 正部員(役員會の推薦を受けし者)

第七條 本クラブに左の役員を置く。

一 部 長 一 名

一 マネージャー 一 名

一 サブ、マネージャー 一 名

一 コンダクター 一 名

一 委 員 三 名

一 パート、リーダー 四 名

第八條 部長に音楽部長を推す。

第九條 マネージャー。サブ、マネージャー。コンダクター。委員は凡て本クラブ正部員にして選舉により選出し任期一ケ年とす。

但し再選される得るものとす。

但し再選される得るものとす。パートリーダーに關しては別に之を定む。

第十條 マネージャーは本クラブを總理しサブマネージャーは之を輔け委員は會務を分掌す。

第十一條 委員は左の會務を分掌す。

一 書記(二名) 記録 印刷事務。

一 會計 クラブ會計事務。

第十二條 以上の役員を以つて役員會を組織し本クラブ執行機關とす。

#### 第四章 練習

第十三條 練習は晝食時此を行ふ。但し土、日、休日を除く。

第十四條 練習は祈禱會を以つて開始す。

第十五條 マネージャー、コンダクター合議の上練習日時の増減變更をなし得るものとす。

#### 第五章 事業

第十六條 本クラブの趣旨により左の事業を行ふ。

- 一 毎學年一回原則として讚美禮拜を開く事。
- 一 演奏旅行を行ふ事。
- 一 其他本クラブの趣旨に適當と認めたる事業を行ふ。

第十七條 例會として研究會レコード演奏會を開く事。

第十八條 親睦會(新入部員歡迎會、卒業生送別會を含む)を開く事。

第十九條 本クラブの機關紙として、グリークラブ時報を發行し事業報告をなす。

#### 第六章 總會役員會

第二十條 總會は定期總會臨時總會の二種とす。

第二十一條 總會は部員總數の三分の二以上の出席數を以つて成立す。

第二十二條 定期總會は年一回第二學期末に之を開き會務報告、重要事項協議、會則變更、役員改選をなす。

第二十三條 總會の決議は出席數三分の二以上の賛同を以つて効力を生ず。

第二十四條 臨時總會は適宜之を開く事を得。

第二十五條 役員會は原則として學期始めに之を開き當學期の事業等に就て協議す。

#### 第七章 維持

第二十六條 本クラブ員は維持費として毎月會費三〇錢を納むる事。(但し三、七、八、十二月を除く)

第二十七條 新入部員は入會金壹圓及び當月の會費を同時納入する事。

第二十八條 特別の事情あるものは役員會の承認を得て會費を免除する事あるべし。

第二十九條 本クラブの經費は此等維持費及び學友會割當金其他をもつて支辨す。

第三十條 本クラブの會計報告は定期總會に於て此をなす。

#### 第八章 賞罰

第三十一條 正部員にして卒業する者には記念品を贈呈す。

第三十二條 本クラブ員中正當なる理由なくして出席常ならざる

者クラブの名譽を失墜せしものクラブの精神に反し  
 たる者は説諭除名に處する事あるべし。  
 附 則 本クラブ會則は總會の決議を経るに非ざれば變更  
 し得ざるものとす。

以 上

# 編輯後記

「出産の苦惱」といふものが、凡ての場合に不可避なものであ  
 るならば、此のイトモ貧弱な「三十年史」の誕生にも、又豫想外  
 に激しい苦痛が伴はれたものである事を察して頂き度い。自己  
 の味つた苦痛もさる事ながら、此の苦痛を訴える事によつて他  
 人に及ぼした迷惑は更に甚だしかつた。省みて深く恥づる所であ  
 る。

昭和五年十二月、先輩海老澤氏の後を繼いでグリーククラブの  
 記録事務を取扱ふ事になつた。未だ豫科の二年生だつたが、思  
 ふ所あつて、從來全く等閑視されてゐたグリーククラブの記録の  
 整理と、グリーククラブ史の編纂とを計畫した。しかし古い記録  
 の殆んど大部分が散亂紛失してしまつて、クラブ史編纂に必要  
 な參考資料は何も残つてゐなかつたし、又先輩と現在部員との  
 連絡や交渉が全く杜絶してゐたので、努力したにも拘らず、編纂  
 事務は仲々進展しなかつた。

白駒の疾驅するが如く何時しか四年の歳月が流れ去つた。幸  
 にして今日、貧弱作らも一冊の出版物に纏め得た「グリークラ  
 ブ三十年史」を、愛する母校同志社と、愛するグリーククラブに  
 捧げ得る喜びは、此に過ぐる何物もない。過ぎし月日を省みて  
 感慨無量なるものがある。

色んな障害にぶつかつた。思はぬ所から横槍が入つて困惑し  
 た事もあつた。しかし其の四年の間、先輩諸氏及び愛する兄弟  
 達によつて與へられた激励と援助とは、其等の困苦を償つて余  
 あるものだつた事を疑はぬ。編輯上の困難は未だしも出版費の  
 捻出の爲には随分苦しんだ。一時は絶望の悲歎に暮れたものだ  
 つたが、先輩中村正氏の御盡力によつて、此の最後の難關をも  
 切抜ける事が出来た。感謝である。

此の「三十年史」の爲に執筆して下さつた方々、記録や寫眞を  
 提供して下さい下さつた先輩諸氏にも改めて感謝を表し度い。  
 表紙の圖案は宮本光夫君の考案になるもの、故人村田輝彦氏  
 の遺作を利用した。

種々の理由あつて、昭和六年の北海道演奏旅行記、本年の浦  
 富合宿日記を削除しなければならなくなつた。甚だ残念である  
 殊に北海道演奏旅行は珍談續出であつただけに、何んとかして  
 此の記事を掲載したいと思つた。曰く——メロン紛失事件——  
 トラビスト擾亂の巻——札幌の○○ホテル——博○會——。名  
 寄座に於けるラチオ屋の親爺——等々、何かの機會に發表しよ  
 う。

(古谷三郎)

昭和九年十二月廿 日印刷  
昭和九年十二月廿五日發行

【非賣品】

京都市烏丸今出川 同志社大學内

編輯兼 同志社大學グリークラブ  
發行者 三十年史編纂委員

京都市室町通上立賣南入七七

印刷所 高田米治郎

同 右 七九

印刷所 清光堂印刷所

發行所 同志社大學グリークラブ



